

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	アジア観光論 (Asian Tourism Studies)						科目分類	専門科目	
担当教員	大井 功								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 21世紀、世界はアジアを中心に大交流時代に突入する。アジアの人々とのより良い交流のため、アジアの人々の価値観や行動基準を学ぶ。									
授業目標： アジアの文化を学び、アジアの人々と交流ができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：配布プリントを読返す		講義 90分	
2	アジアの政治：開発独裁国家が発展した理由を学び、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
3	アジアの経済：先進国がアジア投資を拡大した背景を学び、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
4	アジアの女性：人身売買、国際移住労働などの課題解決策を討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
5	イスラム世界：名誉殺人が無くならない理由を考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
6	仏教の浄土思想：悪人ほど極楽浄土に行ける理由を考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
7	ヒンドゥ教の身分制度：カースト制度が無くならない理由を考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
8	ユダヤ人迫害：ユダヤ人が迫害される理由を考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
9	偽りのキリスト教：神がアダムのあばら骨からイブを創った理由を考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
10	神道文化：日本の最高神アマテラスが女性である理由を考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
11	儒教思想：現在も息づく儒教思想を検証し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
12	武士道：武士がバラより桜を愛でる理由を考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
13	客家：客家人から多くのアジアの指導者を排出した理由を考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
14	風水の科学：江戸の町が風水師の環境学により設計された痕跡を調べ、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
15	チベット仏教：輪廻転生の政治利用を検証し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
教本： プリントを配布する。					参考文献： 藤岡信勝著「教科書が教えない東南アジア」扶桑社 ¥1,500+税				
成績評価の方法、評価基準： 到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（授業参加度、小テスト等）（40%）、定期試験（60%）等									
学生へのアドバイス： グローバルに活躍したい人、アジアを愛する人、楽しく学びましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	4 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	アジア観光論 B (Asian Tourism Studies B)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	大井 功								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 21世紀、世界はアジアを中心に大交流時代に突入する。アジアの人々とのより良い交流のため、アジアの人々の価値観や行動基準を学ぶ。									
授業目標： アジアの文化を学び、アジアの人々と交流ができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：配布プリントを読返す		講義 90分	
2	アジアの政治：開発独裁国家が発展した理由を学び、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
3	アジアの経済：先進国がアジア投資を拡大した背景を学び、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
4	アジアの女性：人身売買、国際移住労働などの課題解決策を討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
5	イスラム世界：名誉殺人が無くならない理由を考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
6	仏教の浄土思想：悪人ほど極楽浄土に行ける理由を考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
7	ヒンドゥ教の身分制度：カースト制度が無くならない理由を考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
8	ユダヤ人迫害：ユダヤ人が迫害される理由を考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
9	偽りのキリスト教：神がアダムのあばら骨からイブを創った理由を考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
10	神道文化：日本の最高神アマテラスが女性である理由を考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
11	儒教思想：現在も息づく儒教思想を検証し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
12	武士道：武士がバラより桜を愛でる理由を考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
13	客家：客家人から多くのアジアの指導者を排出した理由を考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
14	風水の科学：江戸の町が風水師の環境学により設計された痕跡を調べ、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
15	チベット仏教：輪廻転生の政治利用を検証し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
教本： プリントを配布する。					参考文献： 藤岡信勝著「教科書が教えない東南アジア」扶桑社 ¥1,500+税				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（授業参加度、小テスト等）（40%）、定期試験（60%）等									
学生へのアドバイス： グローバルに活躍したい人、アジアを愛する人、楽しく学びましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	アジア文化研究A (Asian Cultural Studies A)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	大井 功								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 21世紀はアジアの時代と言われ、アジアを中心に世界が動き出す。アジアの人々とのより良い交流のため、アジアの人々の価値観や行動の基準を学ぶ。									
授業目標： アジアの文化を学び、アジアの人々と国際交流ができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：配布プリントを読返す		講義 90分	
2	アジアがわかる（Ⅰ）：アジアの政治体制やアジア民族を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
3	アジアがわかる（Ⅱ）：アジアの経済動向やアジアの貿易を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
4	アジアの女性たち：アジアの女性指導者、人身売買を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
5	イスラム文化：イスラム教徒の世界観や他の宗教との関係を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
6	仏教文化：輪廻転生、仏教の教えなどを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
7	ヒンドゥー教：カースト制度、サティ、ダウリ、幼児婚を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
8	ユダヤ文化：旧約聖書、バルフォア宣言、ユダヤ人を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
9	キリスト文化：新約聖書、宗教改革、キリスト教の矛盾を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
10	神道文化：穢れと差別、言霊、怨霊信仰、天皇崇拝を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
11	儒教文化：批林批孔、位牌のルーツ、忠孝一致を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
12	武士道：武士道と騎士道、名誉、切腹、内助の功を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
13	客 家：流浪の民、男女平等の中の貞女、客家系財閥を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
14	風 水：陰陽五行、風水都市、五行早生を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
15	チベット仏教：ダライ・ラマ14世、中道のアプローチを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
教本： プリントを配布する。					参考文献： 1. 御堂龍児著「風水の秘密」 ごま書房 ¥866＋税 2. 大井功著「チベット文化を読み解く」 祥伝社¥780＋税				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（授業参加度、小テスト等）（40%）、定期試験（60%）等									
学生へのアドバイス： グローバルに活躍したい人、アジアを愛する人、楽しく学びましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	アジア文化研究B (Asian Cultural Studies B)						科目分類	専門科目	
担当教員	大井 功								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 21世紀はアジアの時代と言われ、アジアを中心に世界が動き出す。アジアの人々とのより良い交流のため、アジアの現状と課題を学ぶ。									
授業目標： アジアの課題を知り、解決策がわかる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	アジアの水問題：水不足と水汚染、地下水の危機、国際河川、水道の民営化を考察し、討議する。					事前：なし 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
2	東南アジアの政治とビジネス：シンガポールとインドネシアの攻防を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
3	麻薬文化：阿片戦争、日本と阿片、マリファナと喫煙を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
4	人身売買：子供の誘拐、臓器売買、ベッドファイルを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
5	アジアのリゾート：リゾート開発と観光文化を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
6	アジアの世界遺産：世界遺産リストの問題点を考察し、討議する。（アンコール・ワット、タージマハルなど）					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
7	ロングステイ：日本人移民、シルバーコロンビア計画、海外ロングステイを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
8	リゾート開発と観光文化：開発による観光文化の変容を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
9	華人：アリババ商法、プリプミ、ペラナカンなどを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
10	貧困：物乞いと宗教、薬物依存、児童労働などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
11	白人略奪の歴史：マゼランの海賊行為、イエズス会と殺戮などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
12	アジア史の真実：大英帝国とインド、日露戦争の意味を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
13	東南アジア史：経済発展、独立、開発独裁を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
14	シンガポールの過去・現在：政治的安定と高い経済水準を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
15	パレスチナ問題：イギリスの三枚舌外交の結末を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
教本： プリントを配布する。					参考文献： 1. 柴田明夫著「水戦争」 ¥760+税 2. 山下清海著「チャイナタウン」 丸善 ¥2,300+税				
成績評価の方法、評価基準： 到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（授業参加度、小テスト等）（40%）、定期試験（60%）等									
学生へのアドバイス： グローバルに活躍したい人、アジアを愛する人、楽しく学びましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	アフリカ文化研究 A (Introduction to African Cultures A)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	川 添 裕 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他	高 校 レ ベ ル の 地 理 ・ 世 界 史 の 知 識 。 Google Classroom 利 用 。							
授 業 概 要 : 人 類 史 、 生 態 環 境 、 生 業 、 言 語 に つ い て 学 ん だ 後 、 ポ ピ ュ ラ ー ア ー ト 、 ラ イ フ ス タ イ ル 、 助 け 合 い に つ い て 学 ぶ 。 毎 回 の 授 業 終 了 前 に 小 テ ス ト を 行 い 、 理 解 度 に つ い て 確 認 し 、 次 の 回 の 授 業 冒 頭 で 補 足 説 明 を 行 う 。									
授 業 目 標 : 1. アフリカについて、人類誕生以後の歴史を理解する。 2. アフリカの現在について理解する。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1・2	2-1章「人類誕生」:大陸移動説、アフリカ誕生説、人類誕生、ホモサピエンス、文化の中心としてのアフリカについて学ぶ。					事前:高校地理世界史振り返り 事後:2-1章の復習		講義60分、質疑応答20分、 小テスト10分	
3	1-3章「生態環境」:大河と大地溝帯、熱帯雨林、疎開琳、サバンナ、砂漠、温暖化と環境について学ぶ。					事前:生態のイメージ 事後:1-3章の復習		講義60分、質疑応答20分、 小テスト10分	
4	1-4章「生業」:狩猟採集(平等志向、定住化)、農業(商品作物)、牧畜(生態環境の変化と問題)について学ぶ。					事前:狩猟採集イメージ 事後:1-4章の復習		講義60分、質疑応答20分、 小テスト10分	
5	2-2章「古王国」:東アフリカから学ぶ伝統的な政治、古王国、広範な交易について学ぶ。					事前:王国のイメージ 事後:2-2章の復習		講義60分、質疑応答20分、 小テスト10分	
6	2-3章「奴隷交易」:人類史における奴隷、近世・近代奴隷制下の奴隷交易、「三角貿易」、アフリカへの影響について学ぶ。					事前:奴隷のイメージ 事後:2-3章の復習		講義60分、質疑応答20分、 小テスト10分	
7	2-4章「植民地支配と独立」:ヨーロッパ列強によるアフリカ分割と民族の創出、植民地支配、搾取、独立、部族主義について学ぶ。					事前:植民地支配 事後:2-4章の復習		講義60分、質疑応答20分、 小テスト10分	
8	1-2章「言語」:多言語の共存と多言語使用、スワヒリ語、コードスイッチング、クレオール、言語の階層性について学ぶ。					事前:外国語習得振り返り 事後:1-2章の復習		講義60分、質疑応答20分、 小テスト10分	
9・10	3-1章「ポピュラーアート」:語りの技と冗談関係、大衆文学、大衆演劇、大衆映画、音楽、ダンスについて学ぶ。					事前:アフリカ音楽 事後:3-1章の復習		講義60分、質疑応答20分、 小テスト10分	
11	3-2章「ライフスタイル」:携帯革命、情報革命、送金革命、金融革命、求職革命について学ぶ。					事前:スマホ利用振り返り 事後:3-2章の復習		講義60分、質疑応答20分、 小テスト10分	
12	4-2章「助け合い」:自然発生的な助け合い、組織的な助け合い、頼母子講(タノモシコウ)について学ぶ。					事前:助け合い経験 事後:4-2章の復習		講義60分、質疑応答20分、 小テスト10分	
13	1-1章「民族と文化」:国家・言語・民族の重なり、交易と言語・文化、植民地支配と民族文化、アフリカ性について学ぶ。					事前:前期授業振り返り 事後:テスト準備		講義60分、質疑応答20分、 記述10分	
14・15	授業全体を振り返る。最終テストを受ける。					事前:テスト準備 事後:振り返り		講義30分、テスト60分	
教 本 : 松田素二編『アフリカを学ぶ人のために』世界思想社、2023年、¥2,500+税					参 考 文 献 : そのつど紹介する。				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。 授 業 参 加 状 況 等 (20%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (30%)、最 終 テ ス ト (50%) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : ス テ レ オ タ イ プ や 各 種 情 報 を 批 判 的 に 読 み 解 く 力 を つ け 、 自 ら の 思 考 を 展 開 で き る ト レ ー ニ ン グ を し て く だ さ い 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る									

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	アフリカ文化研究B (Introduction to African Cultures B)						科目分類	専門科目	
担当教員	川添 裕子								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	高校レベルの地理・世界史の知識。Google Classroom利用。							
<p>授業概要：</p> <p>人類史、生態環境、生業、言語について学んだ後、政治的動乱、和解と共生、自然保護と地域住民について学ぶ。毎回の授業終了前に小テストを行い、理解度について確認し、次の回の授業冒頭で補足説明を行う。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>1. アフリカについて、人類誕生以後の歴史を理解する。 2. アフリカの現在について理解する。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1・2	2-1章「人類誕生」：大陸移動説、アフリカ誕生説、人類誕生、ホモサピエンス、文化の中心としてのアフリカについて学ぶ。					事前：高校地理世界史振り返り 事後：2-1章の復習		講義60分、質疑応答20分、小テスト10分	
3	1-3章「生態環境」：大河と大地溝帯、熱帯雨林、疎開琳、サバンナ、砂漠、温暖化と環境について学ぶ。					事前：生態のイメージ 事後：1-3章の復習		講義60分、質疑応答20分、小テスト10分	
4	1-4章「生業」：狩猟採集（平等志向、定住化）、農業（商品作物）、牧畜（生態環境の変化と問題）について学ぶ。					事前：狩猟採集イメージ 事後：1-4章の復習		講義60分、質疑応答20分、小テスト10分	
5	2-2章「古王国」：東アフリカから学ぶ伝統的な政治、古王国、広範な交易について学ぶ。					事前：王国のイメージ 事後：2-2章の復習		講義60分、質疑応答20分、小テスト10分	
6	2-3章「奴隷交易」：人類史における奴隷、近世・近代奴隷制下の奴隷交易、「三角貿易」、アフリカへの影響について学ぶ。					事前：奴隷のイメージ 事後：2-3章の復習		講義60分、質疑応答20分、小テスト10分	
7	2-4章「植民地支配と独立」：ヨーロッパ列強によるアフリカ分割と民族の創出、搾取、独立、植民地支配、部族主義について学ぶ。					事前：植民地支配 事後：章の復習		講義60分、質疑応答20分、小テスト10分	
8	1-2章「言語」：多言語の共存と多言語使用、スワヒリ語、コードスイッチング、クレオール、言語の階層性について学ぶ。					事前：外国語習得振り返り 事後：1-2章の復習		講義60分、質疑応答20分、小テスト10分	
9・10	4-1章「政治的動乱」：独立後のアフリカ、旧宗主国の影響、植民地の負の遺産、冷戦、資源争奪について学ぶ。					事前：紛争ニュース 事後：4-1章の復習		講義60分、質疑応答20分、小テスト10分	
11	3-2章「和解と共生」：真実和解委員会、南アフリカ共和国、アパルトヘイト、マンデラ、対話とローカル参加について学ぶ。					事前：携帯文化 事後：3-2章の復習		講義60分、質疑応答20分、小テスト10分	
12	4-3章「自然保護と地域住民」：自然破壊、自然保護、観光、地域住民について学ぶ。					事前：助け合い経験 事後：4-3章の復習		講義60分、質疑応答20分、小テスト10分	
13	1-1章「民族と文化」：国家・言語・民族の重なり、交易と言語・文化、植民地支配と民族文化、アフリカ性について学ぶ。					事前：後期授業振り返り 事後：テスト準備		講義60分、質疑応答20分、記述10分	
14・15	授業全体を振り返る。最終テストを受ける。					事前：テスト準備 事後：振り返り		講義30分、テスト60分	
<p>教本：</p> <p>松田素二編『アフリカを学ぶ人のために』世界思想社、2023年、¥2,500+税</p>					<p>参考文献：</p> <p>そのつど紹介する。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、最終テスト（50%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>ステレオタイプや各種情報を批判的に読み解く力をつけ、自らの思考を展開できるトレーニングをしてください。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える</p>									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	アメリカ観光論 (American Tourism Studies)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	末次 俊之								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>アメリカは世界有数の観光大国です。世界各地の人々が大学してアメリカを訪問するようになり、アメリカ国内においても訪米外国人観光客から得られる観光収入・輸出額は、アメリカ経済の中でも重要な地位を確立するに至っています。この講義では、アメリカ観光の概要から、観光を支える各産業分野、アメリカ政府（連邦・州・自治体）の観光政策などについて学んでいきます。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>世界の人々をさまざまに魅了するアメリカについて、その観光分野を幅広く理解する。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
<p>授業計画、事前学習・事後学習、形式 (注)WS：授業終了前15分程度で、与えられたテーマについて150字程度の文章を作成・提出</p>									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：特になし 事後：配布物復習		講義	
2	アメリカ観光の概要①					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
3	アメリカ観光の概要②					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
4	アメリカの交通・輸送産業①					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
5	アメリカの交通・輸送産業②					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
6	アメリカの宿泊産業①					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
7	アメリカの宿泊産業②					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
8	アメリカの旅行産業					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
9	中間テスト					事前：前半の復習 事後：テストの復習		小テストの実施・フィードバック	
10	アメリカの観光政策①					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
11	アメリカの観光政策②					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
12	アメリカの文化遺産保護					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
13	アメリカのスポーツ産業					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
14	アメリカのテーマ・パーク産業					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
15	総括					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
<p>教本：</p> <p>特に指定はありません。</p>					<p>参考文献：</p> <p>授業ごとに配布物を配り、それに従って授業を進めます。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>世界有数の観光大国であるアメリカには、人々を魅了する観光資源が豊富に存在します。アメリカ各地の観光資源がどのように開発、活用され、またどのような産業が支えているのか、アメリカ観光の概要を知ることができます。興味があれば受講してみてください。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	4 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	ア メ リ カ 観 光 論 A (A m e r i c a n T o u r i s m S t u d i e s A)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	末 次 俊 之								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>アメリカは世界有数の観光大国です。世界各地の人々が大学してアメリカを訪問するようになり、アメリカ国内においても訪米外国人観光客から得られる観光収入・輸出額は、アメリカ経済の中でも重要な地位を確立するに至っています。この講義では、アメリカ観光の概要から、観光を支える各産業分野、アメリカ政府（連邦・州・自治体）の観光政策などについて学んでいきます。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>世界の人々をさまざまに魅了するアメリカについて、その観光分野を幅広く理解する。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式 (注) WS : 授 業 終 了 前 15 分 程 度 で、与 え ら れ た テ ー マ に つ い て 150 字 程 度 の 文 章 を 作 成 ・ 提 出									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション					事前：特になし 事後：配布物復習		講義	
2	アメリカ観光の概要①					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
3	アメリカ観光の概要②					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
4	アメリカの交通・輸送産業①					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
5	アメリカの交通・輸送産業②					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
6	アメリカの宿泊産業①					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
7	アメリカの宿泊産業②					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
8	アメリカの旅行産業					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
9	中間テスト					事前：前半の復習 事後：テストの復習		小テストの実施・ フィードバック	
10	アメリカの観光政策①					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
11	アメリカの観光政策②					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
12	アメリカの文化遺産保護					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
13	アメリカのスポーツ産業					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
14	アメリカのテーマ・パーク産業					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
15	総括					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
特に指定はありません。					授 業 ごとに配布物を配り、それに従って授業を進めます。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 参 加 状 況 等 (20%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (30%)、定 期 試 験 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
<p>世界有数の観光大国であるアメリカには、人々を魅了する観光資源が豊富に存在します。アメリカ各地の観光資源がどのように開発、活用され、またどのような産業が支えているのか、アメリカ観光の概要を知ることができます。興味があれば受講してみてください。</p>									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	4 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	ア メ リ カ 観 光 論 B (A m e r i c a n T o u r i s m S t u d i e s B)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	末 次 俊 之								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : ア メ リ カ は 世 界 有 数 の 観 光 大 国 で す 。 世 界 各 国 の 人 々 が 大 挙 し て ア メ リ カ を 訪 問 す る よ う に な り 、 ア メ リ カ 国 内 に お い て も 訪 米 外 国 人 観 光 客 か ら 得 ら れ る 観 光 収 入 ・ 輸 出 額 は 、 ア メ リ カ 経 済 の 中 で も 重 要 な 地 位 を 確 立 す る に 至 っ て い ま す 。 こ の 講 義 で は 、 ア メ リ カ の 観 光 政 策 と 、 各 州 、 各 自 治 体 の 事 例 に つ い て 学 ん で い き ま す 。									
授 業 目 標 : 世 界 の 人 々 を さ ま ざ ま に 魅 了 す る ア メ リ カ に つ い て 、 そ の 観 光 政 策 の 事 例 を 理 解 す る 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ◎ 、 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式 (注) W S : 授 業 終 了 前 15 分 程 度 で 、 与 え ら れ た テ ー マ に つ い て 150 字 程 度 の 文 章 を 作 成 ・ 提 出									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オ リ エ ン テ ー シ ョ ン					事 前 : 特 に な し 事 後 : 配 布 物 復 習		講 義	
2	ア メ リ カ の 観 光 政 策 の 概 要					事 前 : 配 布 物 精 読 事 後 : 配 布 物 復 習		講 義	
3	事 例 ① : ハ ワ イ 州					事 前 : 配 布 物 精 読 事 後 : 配 布 物 復 習		講 義	
4	事 例 ② : カ リ フ ォ ル ニ ア 州					事 前 : 配 布 物 精 読 事 後 : 配 布 物 復 習		講 義	
5	事 例 ③ : ニ ュ ー ヨ ー ク 州					事 前 : 配 布 物 精 読 事 後 : 配 布 物 復 習		講 義	
6	事 例 ④ : ワ シ ン ト ン D . C .					事 前 : 配 布 物 精 読 事 後 : 配 布 物 復 習		講 義	
7	事 例 ⑤ : フ ロ リ ダ 州					事 前 : 配 布 物 精 読 事 後 : 配 布 物 復 習		講 義	
8	事 例 ⑥ : ア ラ ス カ 州					事 前 : 配 布 物 精 読 事 後 : 配 布 物 復 習		講 義	
9	事 例 ⑦ : ネ バ ダ 州					事 前 : 配 布 物 精 読 事 後 : 配 布 物 復 習		講 義	
10	中 間 テ ス ト					事 前 : 前 半 の 復 習 事 後 : テ ス ト の 復 習		小 テ ス ト の 実 施 、 フ ィ ー ド バ ッ ク	
11	各 都 市 の 観 光 政 策 : シ ア ト ル 、 フ ィ ラ デ ル フ ィ ア					事 前 : 配 布 物 精 読 事 後 : 配 布 物 復 習		講 義	
12	ア メ リ カ の 国 立 公 園					事 前 : 配 布 物 精 読 事 後 : 配 布 物 復 習		講 義	
13	ア メ リ カ の 食 文 化					事 前 : 配 布 物 精 読 事 後 : 配 布 物 復 習		講 義	
14	ア メ リ カ の 博 物 館 ・ 美 術 館					事 前 : 配 布 物 精 読 事 後 : 配 布 物 復 習		講 義	
15	総 括					事 前 : 配 布 物 精 読 事 後 : 配 布 物 復 習		講 義	
教 本 : 特 に 指 定 し な い 。					参 考 文 献 : 授 業 ご と に 配 布 物 を 配 り 、 そ れ に 従 っ て 授 業 を 進 め ま す 。				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。 授 業 参 加 状 況 等 (20 %) 、 小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (30 %) 、 定 期 試 験 (50 %) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 世 界 有 数 の 観 光 大 国 で あ る ア メ リ カ に は 、 人 々 を 魅 了 す る 観 光 資 源 が 豊 富 に 存 在 し ま す 。 ア メ リ カ 各 地 の 観 光 資 源 が ど の よ う に 開 発 、 活 用 さ れ 、 ま た ど の よ う な 産 業 が 支 え て い る の か 、 ア メ リ カ 観 光 の 概 要 を 知 る こ と が で き ま す 。 興 味 が あ れ ば 受 講 し て み て 下 さ い 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	アメリカ文化研究A (American Studies A)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	廣本 和枝								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： それぞれの地域に焦点を当てたテキストに沿って、アメリカ合衆国の歴史と文化について学びます。副教材として図表などのハンドアウトを配布します。									
授業目標： アメリカ合衆国の歴史と文化を学びながら、現代のアメリカについての理解を深めることが目標です。テキストとハンドアウトは英語で書かれていますので、英語を読むことに親しむのも目標です。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Introduction: The American Character					事前：なし 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
2	Native American Tribes					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
3	New England					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
4	The Pilgrims					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
5	The Three Northern Rural States and Boston					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
6	Metropolitan New York					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
7	Cosmopolitan New York					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
8	Appalachia					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
9	Thirteen Colonies					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
10	The Southern colonists and Slaves					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
11	The American Music Roots					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
12	Pennsylvania					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
13	The Industrial North					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
14	Middle America: The Prairie and Plain States					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
15	West and East of Middle America					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
教本： <i>Where Are You From? : American Regions</i> J. M. Vardaman 著 音羽書房 鶴見書店 ¥1,900+税					参考文献： <i>USA: Customs and Institutions: A Survey of American Culture and Traditions</i> A Regents Publication				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（40%）、定期試験（60%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 毎回、授業内容を確認するために、設問に解答するようにしてください。復習になります。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	アメリカ文化研究B (American Studies B)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	廣本 和枝								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： それぞれの地域に焦点を当てたテキストに沿って、アメリカ合衆国の歴史と文化について学びます。副教材として図表などのハンドアウトを配布します。									
授業目標： アメリカ合衆国の歴史と文化を学びながら、現代のアメリカについての理解を深めることが目標です。ハンドアウトとテキストは英語で書かれていますので、英語を読むことに親しむのも目標です。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Introduction: American Family Life					事前：なし 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
2	Out West: California Gold Rush					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
3	Out West of the Twentieth Century					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
4	Alaska					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
5	European Colonies in America					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
6	How Colonies Differed					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
7	The Pacific Northwest: The First and Second Stage of Immigrants					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
8	The Pacific Northwest: Today					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
9	The Southwest: The Kingdom of New Mexico					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
10	The Southwest: Hispanic Population					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
11	Hawaii					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
12	Federal Government and States' Rights					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
13	Taxes and Textbook Adoption					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
14	Religion in the Regions					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
15	Common Sense and Religion in the West					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
教本： <i>Where Are You From? : American Regions</i> J. M. Vardaman 著 音羽書房 鶴見書店 ¥1,900+税					参考文献： <i>USA: Customs and Institutions: A Survey of American Culture and Traditions</i> A Regents Publication				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（40%）、定期試験（60%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 毎回、授業内容を確認するために、設問に解答するようにしてください。復習になります。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	安全・安心の会社法及び関連法 (Corporation Law)						科目分類	専門科目	
担当教員	藤原 俊雄								
履修条件	前提科目								
	その他	私法学を併せて履修していることが望ましい。							
<p>授業概要： 現代社会では非常に重要な存在である株式会社の法的構造について、その不祥事防止策やリスク管理の具体的方式などを含めて検討する。以下のように講義形式ではないので、主体的な授業参加がとくに望まれる。</p>									
<p>授業目標： 安心・安全の会社法という法律自体があるわけではない。この授業ではむしろ受講生の皆さんとこの科目が開講されている意義についてともに考えていくことになる。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	株式会社とはどのような団体かについて検討する					事前：ネットで調べる 事後：授業内容を200字でまとめる		講義90分	
2	株式会社の法的特徴について説明できるようにグループディスカッションを行う					事前：ネットで調べる 事後：授業内容を200字でまとめる		講義40分、ディスカッション30分、まとめ20分	
3	株式会社の設立の流れを説明できるようにグループディスカッションを行う					事前：ネットで調べる 事後：授業内容を200字でまとめる		講義40分、ディスカッション30分、まとめ20分	
4	株式制度の多様性について説明できるようにグループディスカッションを行う					事前：ネットで調べる 事後：授業内容を200字でまとめる		講義40分、ディスカッション30分、まとめ20分	
5	株主総会のあり方について深い理解を得るためにグループディスカッションを行う					事前：ネットで調べる 事後：授業内容を200字でまとめる		講義40分、ディスカッション30分、まとめ20分	
6	業務執行者としての取締役について説明できるようにグループディスカッションを行う					事前：ネットで調べる 事後：授業内容を200字でまとめる		講義40分、ディスカッション30分、まとめ20分	
7	業務執行機関としての取締役会について説明できるようにグループディスカッションを行う					事前：ネットで調べる 事後：授業内容を200字でまとめる		講義40分、ディスカッション30分、まとめ20分	
8	不正・リスク防止のための内部統制システムについて説明できるようにグループディスカッションを行う					事前：ネットで調べる 事後：授業内容を200字でまとめる		講義40分、ディスカッション30分、まとめ20分	
9	リスク管理体制のあり方について説明できるようにグループディスカッションを行う					事前：ネットで調べる 事後：授業内容を200字でまとめる		講義40分、ディスカッション30分、まとめ20分	
10	株式会社のチェック機関について説明できるように代表者に報告してもらう					事前：ネットで調べる 事後：授業内容を200字でまとめる		講義40分、ディスカッション30分、まとめ20分	
11	チェック機関としての監査役・監査役会について説明できるようにグループディスカッションを行う					事前：ネットで調べる 事後：授業内容を200字でまとめる		講義40分、ディスカッション30分、まとめ20分	
12	会計のプロである会計監査人監査について説明できるように代表者に報告してもらう					事前：ネットで調べる 事後：授業内容を200字でまとめる		講義40分、ディスカッション30分、まとめ20分	
13	株式会社の資金調達について説明できるようにグループディスカッションを行う					事前：ネットで調べる 事後：授業内容を200字でまとめる		講義40分、ディスカッション30分、まとめ20分	
14	新株・新株予約権の発行について説明できるようにグループディスカッションを行う					事前：ネットで調べる 事後：授業内容を200字でまとめる		講義40分、ディスカッション30分、まとめ20分	
15	組織再編について説明できるようにグループディスカッションを行う					事前：ネットで調べる 事後：授業内容を200字でまとめる		講義40分、ディスカッション30分、まとめ20分	
<p>教本： とくにはなし。六法は必ず持参すること。</p>					<p>参考文献： 授業中に適宜、紹介する。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準： 定期試験（100％）で評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 上にも記載したが、ディスカッション・報告重視の授業なのでその点を承知の上で出席すること。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	安全保障とリスク (Security and Risks)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	高橋 敏哉								
履 修 条 件	前提科目	国際関係論 I の事前履修が望ましい。							
	そ の 他								
<p>授業概要：</p> <p>国際関係学の重要分野である安全保障に関し、リスクの観点がどのように取り入れられてきたかについて概説します。前半は、国際関係学での安全保障論の基本的な視点を学びます。次に、社会学の分野から生まれたリスク社会論について検証します。後半は、リスク評価の安全保障への当てはめとして、各安全保障のフィールド（拡大した安全保障）で、リスク論がどのような視点を提示しているかについて見ていきます。</p> <p>授業目標：</p> <p>①安全保障に関する伝統的な脅威論とリスク論の違いを理解する。 ②安全保障の諸分野でどのようなリスクが議論されているのかを知る。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義	
2	国際関係学と安全保障：国際関係学と安全保障論の関係を理解します。安全保障とは何かについても触れます。					事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		講義40分 ディスカッション50分	
3	安全保障と脅威①：安全保障の要素である「脅威」について深く掘り下げてみます。					事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		講義40分 ディスカッション50分	
4	安全保障と脅威②：脅威を中心とした安全保障のモデルを概略していきます。					事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		講義40分 ディスカッション50分	
5	リスク社会論①：現代社会におけるリスクとは何かについて紹介します。					事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		講義40分 ディスカッション50分	
6	リスク社会論②：リスクをどう管理するか。リスク・マネジメント論を概略します。					事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		講義40分 ディスカッション50分	
7	安全保障への当てはめ：安全保障へのリスク論の当てはめの状況と実例を紹介します。					事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		講義40分 ディスカッション50分	
8	ミニテスト：前半のまとめをします。					事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		テストと解説	
9	軍事的安全保障とリスク：現代における軍事安全保障でのリスクの内容を探っていきます。					事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		講義40分 ディスカッション50分	
10	国内政治要因とリスク：今日の国内政治でのリスクの内容を探っていきます。					事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		講義40分 ディスカッション50分	
11	経済的安全保障とリスク：今日の経済安全保障でのリスクの内容を探っていきます。					事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		講義40分 ディスカッション50分	
12	環境の安全保障とリスク：今日の環境安全保障でのリスクの内容を探っていきます。					事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		講義40分 ディスカッション50分	
13	社会的安全保障(移民)とリスク：今日の移民問題でのリスクの内容を探っていきます。					事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		講義40分 ディスカッション50分	
14	安全保障でのリスク論の限界：安全保障でのリスク論の限界について触れていきます。					事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		講義40分 ディスカッション50分	
15	安全保障とリスク：まとめ					事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		ディスカッション	
<p>教本：</p> <p>各回ハンドアウトを配ります。</p>					<p>参考文献：</p> <p>適宜指示します。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（25%）、定期試験（25%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>やや高度な議論になりますが、安全保障問題へ関心のある学生の参加を歓迎します。日本国内では他では学ぶことが難しい内容と思いますので、意欲のある皆さんは是非受講してみてください。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	イギリス文化研究A (English Study A)						科目分類	専門科目	
担当教員	阿部 美恵								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： イギリスの文化・伝統、そしてイギリス国民やその生活の根底にある精神風土についてのエッセイをテーマ毎に読み、異文化への理解を図る。									
授業目標： 多様性に富んだイギリスの文化を、歴史的、社会的、文化的にさまざまな角度から学ぶことによって、異なる文化を考察し、受容する態度を習得することを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Introduction					事前：シラバスを熟読する 事後：授業の復習をする		イギリスについての基本事項の解説	
2	Unit 1 The Brexit Referendum					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
3	Unit 1 The Brexit Referendum					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
4	Unit 2 The New Mayor of London					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
5	Unit 2 The New Mayor of London					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
6	Unit 3 Brits on Bikes					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
7	Unit 3 Brits on Bikes					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
8	Unit 4 Oxford and Cambridge: Looking for the Future					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
9	Unit 4 Oxford and Cambridge: Looking for the Future					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
10	Unit 5 Profile of Cornwall					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
11	Unit 5 Profile of Cornwall					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
12	Unit 6 The Cost of Being Young Today					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
13	Unit 6 The Cost of Being Young Today					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
14	Unit 7 It All Began at Rugby School					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
15	Unit 7 It All Began at Rugby School					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
教本： Britain at the Watershed（成美堂）					参考文献： 授業中に適宜資料を配布する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（50%）、課題等（20%）、定期試験（30%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 常に世界の出来事に関心を持ち、積極的に授業に参加してください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	イギリス文化研究B (English Study B)						科目分類	専門科目	
担当教員	阿部 美恵								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： イギリスの文化・伝統、そしてイギリス国民やその生活の根底にある精神風土についてのエッセイをテーマ毎に読み、異文化への理解を図る。									
授業目標： 多様性に富んだイギリスの文化を、歴史的、社会的、文化的にさまざまな角度から学ぶことによって、異なる文化を考察し、受容する態度を習得することを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Unit8 Britain and the Sea					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
2	Unit8 Britain and the Sea					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
3	Unit9 Images of Scotland					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
4	Unit9 Images of Scotland					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
5	Unit10 "The New Look": Beards and Tattoos					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
6	Unit11 The Japanese in Britain					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
7	Unit12 Health Matters					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
8	Unit13 The House of Windsor: Crisis and Continuity					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
9	Unit14 The Changing London Skyline					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
10	Unit15 Women's Rights: A Look through History					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
11	Unit16 Women in Britain Today: A Report					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
12	Unit17 The White Roses of York					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
13	Unit18 Charles Dickens: Childhood and Christmas					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
14	Unit19 The Great British Bake Off					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
15	Unit20 Brits Abroad					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
教本： Britain at a Watershed (成美堂)					参考文献： 授業中に適宜資料を配布する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（50%）、課題等（20%）、定期試験（30%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 常に世界の出来事に関心を持ち、積極的に授業に参加してください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習																																																																						
授業科目(英文)	異文化共生論 A (Intercultural Understanding A)						科目分類	専門科目																																																																							
担当教員	伊藤 幹彦																																																																														
履修条件	前提科目	なし																																																																													
	その他	なし																																																																													
<p>授業概要： 異文化共生論の授業では、私の台湾居住16年（私は国立台湾大学で博士号を取得し、台湾の大学で11年准教授）の経験から得た実践的な異文化共生論も説明する。日本の在留外国人数は約273万人（うち、中国人約76万人、韓国人約45万人、台湾人約6万人、米国人約6万人）で、日本の婚姻16組のうち、1組が国際結婚である。異文化をもつ外国人と共に生きていく異文化共生論を論じ、複雑な現象を簡単な言葉で論じるので、わかりやすい。30年間、私はある台湾人と共生し、多くの台湾人の親友とつきあっているため、異文化をもつ台湾人と共に生きていく実践的な異文化共生論（台湾文化共生論）を説明する。</p> <p>授業目標： (1)異文化共生論の基本的概念を説明できるようになることを目標とする。(2)多文化共生国家となっている日本の現状理解を目標とする。(3)外国人と共生する異文化共生論の考察を目標とする。</p> <p>カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）</p> <table border="1"> <tr> <td>知識・技能の習得</td> <td>思考力・判断力・表現力の育成</td> <td>学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td>◎</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </table> <p>授業計画、事前学習・事後学習、形式</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>授業回数</th> <th>授業内容及び計画（詳細に記入）</th> <th>事前・事後学習（学習課題）</th> <th>授業形態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>異文化共生論の授業内容の説明をする。自己紹介をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。</td> <td>事前：異文化共生論(多様性と同一性)の下読みをする。 事後：異文化共生論(多様性と同一性)のポイントを書き出す。</td> <td>講義説明40分。口頭Q&A10分。アンケート10分。自己紹介30分。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>異文化共生理論（葛藤解決方略次元理論、異文化受容態度理論）の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。</td> <td>事前：異文化共生理論の下読みをする。 事後：異文化共生理論のポイントを書き出す。</td> <td>講義説明20分。口頭Q&A60分。アンケート10分。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>異文化共生論の基礎（文化相対主義、ナショナリズム）の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。</td> <td>事前：異文化共生論の基礎の下読みをする。 事後：異文化共生論の基礎のポイントを書き出す。</td> <td>講義説明20分。口頭Q&A60分。アンケート10分。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>異文化適応（カルチャーショック、逆カルチャーショック、適応曲線）、日本文化、国際交流の説明をする。口頭Q&Aをする。</td> <td>事前：異文化適応、日本文化、国際交流の下読みをする。 事後：異文化適応、日本文化、国際交流のポイントを書き出す。</td> <td>講義説明80分。口頭Q&A10分。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>外国語・第二言語教育（外国語学習、日本語教育、日本語教師）、日本人の精神文化の説明をする。口頭Q&Aをする。</td> <td>事前：外国語・第二言語教育の下読みをする。 事後：外国語・第二言語教育のポイントを書き出す。</td> <td>講義説明80分。口頭Q&A10分。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>思想（儒教思想、仏教思想、神道思想、アニミズム）の説明をする。口頭Q&Aをする。</td> <td>事前：思想の下読みをする。 事後：思想のポイントを書き出す。</td> <td>講義説明80分。口頭Q&A10分。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>日本のコミュニケーション(1)（言霊思想）の説明をする。</td> <td>事前：日本のコミュニケーションの下読みをする。 事後：日本のコミュニケーションのポイントを書き出す。</td> <td>講義説明80分。口頭Q&A10分。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>日本のコミュニケーション(2)（プラス思考）の説明をする。</td> <td>事前：日本のコミュニケーションの下読みをする。 事後：日本のコミュニケーションのポイントを書き出す。</td> <td>講義説明80分。口頭Q&A10分。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>日本のコミュニケーション(3)（ニューソート哲学）の説明をする。</td> <td>事前：日本のコミュニケーションの下読みをする。 事後：日本のコミュニケーションのポイントを書き出す。</td> <td>講義説明80分。口頭Q&A10分。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>日本文化の価値観(1)（武士道、和の思想、義理と人情）の説明をする。口頭Q&Aをする。</td> <td>事前：日本文化の価値観の下読みをする。 事後：日本文化の価値観のポイントを書き出す。</td> <td>講義説明20分。ディスカッション60分。アンケート10分。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>日本文化の価値観(2)（武士道、和の思想、義理と人情）の説明をする。口頭Q&Aをする。</td> <td>事前：日本文化の価値観の下読みをする。 事後：日本文化の価値観のポイントを書き出す。</td> <td>講義説明80分。口頭Q&A10分。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>日本・東洋の思想(1)（祖先崇拜、輪廻思想）の説明をする。口頭Q&Aをする。</td> <td>事前：日本・東洋の思想の下読みをする。 事後：日本・東洋の思想のポイントを書き出す。</td> <td>講義説明80分。口頭Q&A10分。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>日本・東洋の思想(2)（祖先崇拜、輪廻思想）の説明をする。口頭Q&Aをする。ディスカッションをする。</td> <td>事前：日本・東洋の思想の下読みをする。 事後：日本・東洋の思想のポイントを書き出す。</td> <td>講義説明80分。口頭Q&A10分。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>日本の異文化交流史（儒教・仏教の受容、キリシタンの受容、西欧文明の受容）の説明をする。</td> <td>事前：日本の異文化交流史の下読みをする。 事後：日本の異文化交流史のポイントを書き出す。</td> <td>講義説明80分。口頭Q&A10分。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>異文化共生論のまとめの説明をする。学生の発表を行う。口頭Q&Aをする。アンケートをする。</td> <td>事前：異文化共生論のまとめの下読みをする。 事後：異文化共生論のまとめのポイントを書き出す。</td> <td>講義説明70分。口頭Q&A10分。アンケート10分。</td> </tr> </tbody> </table> <p>教本：プリントを配布する。 参考文献：加賀美常美代（編著）、「多文化共生論——多様性理解のためのヒントとレッスン」、明石書店、2013年、¥2,640。 松尾知明、「移民時代」の多文化共生論——想像力・創造力を育む14のレッスン」、明石書店、2020年、¥2,420。 多文化共生キーワード事典編集委員会編、「多文化共生キーワード事典 改訂版」、明石書店、2010年、¥2,200。</p> <p>成績評価の方法、評価基準：第15回目の授業時締めりの期末小論文（40%）、授業への寄与度や授業態度などの平常点（60%）。</p> <p>学生へのアドバイス：1. 異文化コミュニケーション論の知識（頭脳の知性）向上。2. 自己効力感（私はできるというプラス思考）向上。3. 人間力（力強く生きていく力、目標達成力）向上。毎回学生の皆さんにA4の紙を配り、アンケートとして、質問、意見、感想を書いてもらう。学生の皆さんの質問は歓迎する。学習理論の自己効力感（self-efficacy、セルフ・エフィカシー）で「できるという信念があれば、必ずできるようになる」。私伊藤幹彦は自己効力感で学生さんのやる気を引き出し、成績を高める。毎回学生の皆さんにA4の紙を配り、アンケートとして、質問、意見、感想を書いてもらう。</p> <p>オフィスアワー：初回講義日に伝える。</p>										知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養	◎	○		授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）	事前・事後学習（学習課題）	授業形態	1	異文化共生論の授業内容の説明をする。自己紹介をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。	事前：異文化共生論(多様性と同一性)の下読みをする。 事後：異文化共生論(多様性と同一性)のポイントを書き出す。	講義説明40分。口頭Q&A10分。アンケート10分。自己紹介30分。	2	異文化共生理論（葛藤解決方略次元理論、異文化受容態度理論）の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。	事前：異文化共生理論の下読みをする。 事後：異文化共生理論のポイントを書き出す。	講義説明20分。口頭Q&A60分。アンケート10分。	3	異文化共生論の基礎（文化相対主義、ナショナリズム）の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。	事前：異文化共生論の基礎の下読みをする。 事後：異文化共生論の基礎のポイントを書き出す。	講義説明20分。口頭Q&A60分。アンケート10分。	4	異文化適応（カルチャーショック、逆カルチャーショック、適応曲線）、日本文化、国際交流の説明をする。口頭Q&Aをする。	事前：異文化適応、日本文化、国際交流の下読みをする。 事後：異文化適応、日本文化、国際交流のポイントを書き出す。	講義説明80分。口頭Q&A10分。	5	外国語・第二言語教育（外国語学習、日本語教育、日本語教師）、日本人の精神文化の説明をする。口頭Q&Aをする。	事前：外国語・第二言語教育の下読みをする。 事後：外国語・第二言語教育のポイントを書き出す。	講義説明80分。口頭Q&A10分。	6	思想（儒教思想、仏教思想、神道思想、アニミズム）の説明をする。口頭Q&Aをする。	事前：思想の下読みをする。 事後：思想のポイントを書き出す。	講義説明80分。口頭Q&A10分。	7	日本のコミュニケーション(1)（言霊思想）の説明をする。	事前：日本のコミュニケーションの下読みをする。 事後：日本のコミュニケーションのポイントを書き出す。	講義説明80分。口頭Q&A10分。	8	日本のコミュニケーション(2)（プラス思考）の説明をする。	事前：日本のコミュニケーションの下読みをする。 事後：日本のコミュニケーションのポイントを書き出す。	講義説明80分。口頭Q&A10分。	9	日本のコミュニケーション(3)（ニューソート哲学）の説明をする。	事前：日本のコミュニケーションの下読みをする。 事後：日本のコミュニケーションのポイントを書き出す。	講義説明80分。口頭Q&A10分。	10	日本文化の価値観(1)（武士道、和の思想、義理と人情）の説明をする。口頭Q&Aをする。	事前：日本文化の価値観の下読みをする。 事後：日本文化の価値観のポイントを書き出す。	講義説明20分。ディスカッション60分。アンケート10分。	11	日本文化の価値観(2)（武士道、和の思想、義理と人情）の説明をする。口頭Q&Aをする。	事前：日本文化の価値観の下読みをする。 事後：日本文化の価値観のポイントを書き出す。	講義説明80分。口頭Q&A10分。	12	日本・東洋の思想(1)（祖先崇拜、輪廻思想）の説明をする。口頭Q&Aをする。	事前：日本・東洋の思想の下読みをする。 事後：日本・東洋の思想のポイントを書き出す。	講義説明80分。口頭Q&A10分。	13	日本・東洋の思想(2)（祖先崇拜、輪廻思想）の説明をする。口頭Q&Aをする。ディスカッションをする。	事前：日本・東洋の思想の下読みをする。 事後：日本・東洋の思想のポイントを書き出す。	講義説明80分。口頭Q&A10分。	14	日本の異文化交流史（儒教・仏教の受容、キリシタンの受容、西欧文明の受容）の説明をする。	事前：日本の異文化交流史の下読みをする。 事後：日本の異文化交流史のポイントを書き出す。	講義説明80分。口頭Q&A10分。	15	異文化共生論のまとめの説明をする。学生の発表を行う。口頭Q&Aをする。アンケートをする。	事前：異文化共生論のまとめの下読みをする。 事後：異文化共生論のまとめのポイントを書き出す。	講義説明70分。口頭Q&A10分。アンケート10分。
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養																																																																													
◎	○																																																																														
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）	事前・事後学習（学習課題）	授業形態																																																																												
1	異文化共生論の授業内容の説明をする。自己紹介をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。	事前：異文化共生論(多様性と同一性)の下読みをする。 事後：異文化共生論(多様性と同一性)のポイントを書き出す。	講義説明40分。口頭Q&A10分。アンケート10分。自己紹介30分。																																																																												
2	異文化共生理論（葛藤解決方略次元理論、異文化受容態度理論）の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。	事前：異文化共生理論の下読みをする。 事後：異文化共生理論のポイントを書き出す。	講義説明20分。口頭Q&A60分。アンケート10分。																																																																												
3	異文化共生論の基礎（文化相対主義、ナショナリズム）の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。	事前：異文化共生論の基礎の下読みをする。 事後：異文化共生論の基礎のポイントを書き出す。	講義説明20分。口頭Q&A60分。アンケート10分。																																																																												
4	異文化適応（カルチャーショック、逆カルチャーショック、適応曲線）、日本文化、国際交流の説明をする。口頭Q&Aをする。	事前：異文化適応、日本文化、国際交流の下読みをする。 事後：異文化適応、日本文化、国際交流のポイントを書き出す。	講義説明80分。口頭Q&A10分。																																																																												
5	外国語・第二言語教育（外国語学習、日本語教育、日本語教師）、日本人の精神文化の説明をする。口頭Q&Aをする。	事前：外国語・第二言語教育の下読みをする。 事後：外国語・第二言語教育のポイントを書き出す。	講義説明80分。口頭Q&A10分。																																																																												
6	思想（儒教思想、仏教思想、神道思想、アニミズム）の説明をする。口頭Q&Aをする。	事前：思想の下読みをする。 事後：思想のポイントを書き出す。	講義説明80分。口頭Q&A10分。																																																																												
7	日本のコミュニケーション(1)（言霊思想）の説明をする。	事前：日本のコミュニケーションの下読みをする。 事後：日本のコミュニケーションのポイントを書き出す。	講義説明80分。口頭Q&A10分。																																																																												
8	日本のコミュニケーション(2)（プラス思考）の説明をする。	事前：日本のコミュニケーションの下読みをする。 事後：日本のコミュニケーションのポイントを書き出す。	講義説明80分。口頭Q&A10分。																																																																												
9	日本のコミュニケーション(3)（ニューソート哲学）の説明をする。	事前：日本のコミュニケーションの下読みをする。 事後：日本のコミュニケーションのポイントを書き出す。	講義説明80分。口頭Q&A10分。																																																																												
10	日本文化の価値観(1)（武士道、和の思想、義理と人情）の説明をする。口頭Q&Aをする。	事前：日本文化の価値観の下読みをする。 事後：日本文化の価値観のポイントを書き出す。	講義説明20分。ディスカッション60分。アンケート10分。																																																																												
11	日本文化の価値観(2)（武士道、和の思想、義理と人情）の説明をする。口頭Q&Aをする。	事前：日本文化の価値観の下読みをする。 事後：日本文化の価値観のポイントを書き出す。	講義説明80分。口頭Q&A10分。																																																																												
12	日本・東洋の思想(1)（祖先崇拜、輪廻思想）の説明をする。口頭Q&Aをする。	事前：日本・東洋の思想の下読みをする。 事後：日本・東洋の思想のポイントを書き出す。	講義説明80分。口頭Q&A10分。																																																																												
13	日本・東洋の思想(2)（祖先崇拜、輪廻思想）の説明をする。口頭Q&Aをする。ディスカッションをする。	事前：日本・東洋の思想の下読みをする。 事後：日本・東洋の思想のポイントを書き出す。	講義説明80分。口頭Q&A10分。																																																																												
14	日本の異文化交流史（儒教・仏教の受容、キリシタンの受容、西欧文明の受容）の説明をする。	事前：日本の異文化交流史の下読みをする。 事後：日本の異文化交流史のポイントを書き出す。	講義説明80分。口頭Q&A10分。																																																																												
15	異文化共生論のまとめの説明をする。学生の発表を行う。口頭Q&Aをする。アンケートをする。	事前：異文化共生論のまとめの下読みをする。 事後：異文化共生論のまとめのポイントを書き出す。	講義説明70分。口頭Q&A10分。アンケート10分。																																																																												

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	異文化共生論B (Intercultural Understanding B)						科目分類	専門科目	
担当教員	伊藤 幹彦								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：異文化共生論Bの授業では、私が国立台湾大学で3年半で博士号を取得し、1年半研究し、台湾の大学で11年准教授として中国語と台湾語で台湾歴史などの科目を教え、私の台湾居住16年の経験から得た実践的な異文化共生論を説明する。私は専門が台湾の歴史と文化であるので、理論的な異文化共生論つまり台湾文化と儒教思想（孔子の『論語』を基礎とした思想）も説明し、人格を形成し、道徳心を高め、人徳者となる方法を教える。私は心理学と文化人類学の文献も読んでいるので、台湾人の深層心理にある儒教思想も説明する。在日台湾人は約6万人で台湾の全人口は約2300万人である。30年間、私はある台湾人と共生し、多くの台湾人の親友とつきあっているため、異文化をもつ台湾人と共に生きていく実践的な異文化共生論（台湾文化共生論）を説明する。</p> <p>授業目標：孔子が活躍した紀元前500年以來、『論語』を基礎とする儒教思想が約2500年間にわたって影響力をもち、日本では王仁が『論語』を日本に持ってきて以来、約1700年間にわたって影響力をもち、台湾では漢民族の移民が中国大陸から台湾に移住して以来、約400年間にわたって影響力をもっている『論語』の内容理解を目標とする。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	異文化としての台湾文化（台湾の儒教思想、台湾の仏教思想）の説明をする。自己紹介をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。				事前：台湾文化の下読みをする。 事後：台湾文化のポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q&A10分。アンケート10分。自己紹介30分。	
2	台湾の思想（1）（台湾の輪廻思想、縁起思想、臨死体験、前世療法、前世の記憶、死生学）の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。				事前：台湾の思想の下読みをする。 事後：台湾の思想のポイントをノートに書く。			講義説明20分。口頭Q&A60分。アンケート10分。	
3	台湾の思想（2）（台湾の輪廻思想、縁起思想、臨死体験、前世療法、前世の記憶、死生学）の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。				事前：台湾の思想の下読みをする。 事後：台湾の思想のポイントをノートに書く。			講義説明20分。口頭Q&A60分。アンケート10分。	
4	台湾の思想（3）（台湾の輪廻思想、縁起思想、臨死体験、前世療法、前世の記憶、死生学）の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。				事前：台湾の思想の下読みをする。 事後：台湾の思想のポイントをノートに書く。			講義説明80分。口頭Q&A10分。	
5	台湾の思想（4）（台湾の輪廻思想、縁起思想、臨死体験、前世療法、前世の記憶、死生学）の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。				事前：台湾の思想の下読みをする。 事後：台湾の思想のポイントをノートに書く。			講義説明80分。口頭Q&A10分。	
6	台湾の思想（5）（台湾の輪廻思想、縁起思想、臨死体験、前世療法、前世の記憶、死生学）の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。				事前：台湾の思想の下読みをする。 事後：台湾の思想のポイントをノートに書く。			講義説明80分。口頭Q&A10分。	
7	台湾の思想（6）（台湾の輪廻思想、縁起思想、臨死体験、前世療法、前世の記憶、死生学）の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。				事前：台湾の思想の下読みをする。 事後：台湾の思想のポイントをノートに書く。			講義説明80分。口頭Q&A10分。	
8	孔子の生涯の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。				事前：孔子の生涯の下読みをする。 事後：孔子の生涯のポイントをノートに書く。			講義説明80分。口頭Q&A10分。	
9	儒教道徳の五倫五常（父子の親・君臣の義・夫婦の別・長幼の序・朋友の信の五つの道徳、仁・義・礼・智・信の五つの徳目）の説明をする。				事前：儒教道徳の五倫五常の下読みをする。 事後：儒教道徳の五倫五常のポイントをノートに書く。			講義説明80分。口頭Q&A10分。	
10	台湾の輪廻思想、台湾の縁起思想、死生学研究の説明をする。口頭Q&Aをする。ディスカッションをする。				事前：台湾の思想の下読みをする。 事後：台湾の思想のポイントをノートに書く。			講義説明40分。ディスカッション40分。アンケート10分。	
11	『論語』(1)（「仁（他者を思いやる心）」「義（忠義）」の説明をする。口頭Q&Aをする。				事前：『論語』(1)の下読みをする。 事後：『論語』(1)のポイントをノートに書く。			講義説明80分。口頭Q&A10分。	
12	『論語』(2)（「礼（個人の礼儀と祭祀の儀式）」「智（智慧）」の説明をする。口頭Q&Aをする。				事前：『論語』(2)の下読みをする。 事後：『論語』(2)のポイントをノートに書く。			講義説明80分。口頭Q&A10分。	
13	『論語』(3)（「信（信義）」「君子（人徳者）」の説明をする。口頭Q&Aをする。				事前：『論語』(3)の下読みをする。 事後：『論語』(3)のポイントをノートに書く。			講義説明80分。口頭Q&A10分。	
14	『論語』(4)（「学（学びに対する態度）」「孝（祖先や親を大切にすること）」の説明をする。口頭Q&Aをする。				事前：『論語』(4)の下読みをする。 事後：『論語』(4)のポイントをノートに書く。			講義説明80分。口頭Q&A10分。	
15	異文化としての台湾文化（台湾の儒教思想、台湾の仏教思想）のまとめの説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。				事前：台湾文化のまとめの準備をする。 事後：台湾文化のまとめのポイントをノートに書く。			講義説明70分。口頭Q&A10分。アンケート10分。	
<p>教本： 参考文献：江連隆、『論語と孔子の事典』、大修館書店、1996年、¥5,720。 内野熊一郎（訳）、『孟子』、明治書院、1962年、¥10,120。 津田左右吉、『儒教の研究』第1～3巻（津田左右吉全集第16～18巻）、岩波書店、1988年、¥12,540。</p>									
成績評価の方法、評価基準：第15回目の授業時しめきりの期末小論文（40%）、授業への寄与度や授業態度などの平常点（60%）。									
<p>学生へのアドバイス：1. 異文化コミュニケーション論の知識（頭脳の知性）向上。2. 自己効力感（私はできるというプラス思考）向上。3. 人間力（力強く生きていく力、目標達成力）向上。台湾は親日的で、台湾人は非常に人情味があり、日本人にも台湾人にも儒教思想があるので、日本人と台湾人の習慣の類似点は80%で、すべての在日外国人留學生の中で台湾人が日本人と最も似ており、台湾人は友好的であるので、学生の皆さんは台湾人とよい友達になれる。『論語』を基礎とした儒教思想の目的は、人間関係をよくすることにあるから、儒教思想を応用すれば、君の人間関係をよくすることができる。儒教思想の授業を通じて、君の徳性を高め、儒教思想の知識を実践に生かし、君の人間関係をよくしてほしい。</p>									
オフィスアワー：初回講義日に伝える。									

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	異文化コミュニケーション論Ⅰ (Intercultural Communication I)						科目分類	専門科目	
担当教員	伊藤 幹彦								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 異文化コミュニケーション論Ⅰの授業では、アメリカ人やヨーロッパ人やアジア人の異文化コミュニケーションの理論と実践に加え、私伊藤幹彦の台湾居住16年（うち3年半で国立台湾大学で博士号を取得し、うち11年台湾の大学で准教授）の実際の経験から得た台湾人・中国人との異文化コミュニケーションも説明する。異なる文化をもつ人と接触した時、スムーズなコミュニケーションのやり方を理論と実践の双方から論じる。30年間、私はある台湾人と共生し、多くの台湾人の親友とつきあっているため、異文化をもつ台湾人と共に生きていく実践的な異文化共生論（台湾文化共生論）を説明する。									
授業目標： (1)異文化コミュニケーション論の理論と実践の応用を目標とする。(2)異文化コミュニケーションの理解を目標とする。(3)異文化コミュニケーションの学問的知識の習得を目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態		
1	異文化コミュニケーション論の目次の説明をする。自己紹介をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。			事前：異文化コミュニケーション論の下読みをする。 事後：異文化コミュニケーション論のポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q&A10分。アンケート10分。自己紹介30分。		
2	異文化コミュニケーション理論（異文化コミュニケーション・モデル）の説明をする。口頭Q&Aをする。			事前：異文化コミュニケーション理論の下読みをする。 事後：異文化コミュニケーション理論のポイントをノートに書く。			講義説明20分。口頭Q&A60分。アンケート10分。		
3	異文化コミュニケーション論の基礎（文化相対主義、多文化・多言語主義、ナショナリズム）の説明をする。口頭Q&Aをする。			事前：異文化コミュニケーションの基礎の下読みをする。 事後：異文化コミュニケーションの基礎のポイントをノートに書く。			講義説明20分。口頭Q&A60分。アンケート10分。		
4	異文化適応（カルチャーショック、逆カルチャーショック、適応曲線）、日本文化、国際交流の説明をする。口頭Q&Aをする。			事前：異文化適応、日本文化、国際交流の下読みをする。 事後：異文化適応、日本文化、国際交流のポイントをノートに書く。			講義説明80分。口頭Q&A10分。		
5	外国語・第二言語教育（外国語学習、日本語教育、日本語教師）、日本人の精神文化の説明をする。口頭Q&Aをする。			事前：外国語・第二言語教育、日本人の精神文化の下読みをする。 事後：外国語・第二言語教育、日本人の精神文化のポイントをノートに書く。			講義説明80分。口頭Q&A10分。		
6	思想（儒教思想、仏教思想、神道思想、アニミズム）の説明をする。口頭Q&Aをする。			事前：思想の下読みをする。 事後：思想のポイントをノートに書く。			講義説明80分。口頭Q&A10分。		
7	日本のコミュニケーション(1)（言霊思想）の説明をする。			事前：日本のコミュニケーションの下読みをする。 事後：日本のコミュニケーションのポイントをノートに書く。			講義説明80分。口頭Q&A10分。		
8	日本のコミュニケーション(2)（プラス思考）の説明をする。			事前：日本のコミュニケーションの下読みをする。 事後：日本のコミュニケーションのポイントをノートに書く。			講義説明80分。口頭Q&A10分。		
9	日本のコミュニケーション(3)（ニューソート哲学）の説明をする。			事前：日本のコミュニケーションの下読みをする。 事後：日本のコミュニケーションのポイントをノートに書く。			講義説明80分。口頭Q&A10分。		
10	日本文化の価値観（1）（武士道、和の思想、義理と人情）の説明をする。口頭Q&Aをする。			事前：日本文化の価値観の下読みをする。 事後：日本文化の価値観のポイントをノートに書く。			講義説明20分。ディスカッション60分。アンケート10分。		
11	日本文化の価値観（2）（武士道、和の思想、義理と人情）の説明をする。口頭Q&Aをする。			事前：日本文化の価値観の下読みをする。 事後：日本文化の価値観のポイントをノートに書く。			講義説明80分。口頭Q&A10分。		
12	日本・東洋の思想(1)（祖先崇拜、輪廻思想）の説明をする。口頭Q&Aをする。			事前：日本・東洋の思想の下読みをする。 事後：日本・東洋の思想のポイントをノートに書く。			講義説明80分。口頭Q&A10分。		
13	日本・東洋の思想(2)（祖先崇拜、輪廻思想）の説明をする。口頭Q&Aをする。ディスカッションをする。			事前：日本・東洋の思想の下読みをする。 事後：日本・東洋の思想のポイントをノートに書く。			講義説明80分。口頭Q&A10分。		
14	日本の異文化交流史（儒教・仏教の受容、キリシタンの受容、西欧文明の受容）の説明をする。			事前：日本の異文化交流史の下読みをする。 事後：日本の異文化交流史のポイントをノートに書く。			講義説明80分。口頭Q&A10分。		
15	異文化コミュニケーション論のまとめの説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。			事前：異文化コミュニケーション論のまとめの下読みをする。 事後：異文化コミュニケーション論のまとめのポイントをノートに書く。			講義説明70分。口頭Q&A10分。アンケート10分。		
教本： プリントを配布する。 参考文献：石井敏、久米昭元（編）、『異文化コミュニケーション事典』、春風社、2013年、¥7,600。 石井敏、久米昭元、遠山淳、松本茂、平井一弘、御堂岡潔、『異文化コミュニケーション・ハンドブック——基礎知識から応用・実践まで』、有斐閣、1997年、¥2,420。 石井敏、久米昭元、長谷川典子、桜木俊行、石黒武人、『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション——多文化共生と平和構築に向けて』、有斐閣、2013年、¥2,200。									
成績評価の方法、評価基準：第15回目の授業時しめきりの期末小論文（40%）、授業への寄与度や授業態度などの平常点（60%）。									
学生へのアドバイス：1. 異文化コミュニケーション論の知識（頭脳の知性）向上。2. 自己効力感（私はできるというプラス思考）向上。3. 人間力（力強く生きていく力、目標達成力）向上。学生の方々にA4の紙を配り、アンケートとして、質問、意見、感想を書いてもらい、翌週重要な質問や意見や感想は紹介する。学生の方々の質問は歓迎する。頭脳の知性（異文化コミュニケーション論の専門的知識）と感情の知性（人格形成）を学ばせ、人間力（力強く生きていく力、目標達成力）を育成する。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習	
授業科目(英文)	異文化コミュニケーション論Ⅱ (Intercultural Communication Ⅱ)						科目分類	専門科目		
担当教員	伊藤 幹彦									
履修条件	前提科目	なし								
	その他	なし								
<p>授業概要：異文化コミュニケーション論Ⅱの授業では、私の台湾居住16年の経験から得た実践的な異文化コミュニケーション論つまり中国文化と儒教思想を説明する。私は専門が台湾の歴史と文化であるので、台湾人の中にある儒教思想も説明し、道徳心を高めさせ、人格を形成させ、人徳者にならせる。私は国立台湾大学で博士号を取得し、台湾の大学で11年准教授として中国語と台湾語で台湾歴史などの科目を台湾人学生に教えてきた。台湾人とコミュニケーションする際の(理論的には心理学と文化人類学を応用した)異文化コミュニケーション論(台湾文化コミュニケーション論)を論じ、理論面と実践面の両面から台湾人の深層心理も説明する。30年間、私はある台湾人と共生し、多くの台湾人の親友とつきあっているため、異文化をもつ台湾人と共に生きていく実践的な異文化共生論(台湾文化共生論)を説明する。</p>										
<p>授業目標：世界で最も多くの人々が『聖書』と孔子の『論語』を読んでいる。江戸時代の学者伊藤仁斎は、『論語』を「宇宙第一の書」と高評価している。『論語』は中国哲学の書で、儒教思想の最重要文献である。『論語』は性善説的な明るさに満ち、心理学の書であり、人間関係をよくし、人徳者になるための『論語』の内容理解を目標とする。</p>										
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)										
知識・技能の習得				思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
				○				◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)			授業形態		
1	異文化としての中国文化(中国の儒教思想、中国の仏教思想)の説明をする。自己紹介をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。				事前：中国文化の下読みをする。 事後：中国文化のポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q&A10分。アンケート10分。自己紹介30分。		
2	中国の思想(中国の輪廻思想、中国の縁起思想)の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。				事前：中国の思想の下読みをする。 事後：中国の思想のポイントをノートに書く。			講義説明20分。口頭Q&A60分。アンケート10分。		
3	台湾の思想(1)(台湾の輪廻思想、縁起思想、臨死体験、前世療法、前世の記憶、死生学)の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。				事前：台湾の思想の下読みをする。 事後：台湾の思想のポイントをノートに書く。			講義説明20分。口頭Q&A60分。アンケート10分。		
4	台湾の思想(2)(台湾の輪廻思想、縁起思想、臨死体験、前世療法、前世の記憶、死生学)の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。				事前：台湾の思想の下読みをする。 事後：台湾の思想のポイントをノートに書く。			講義説明80分。口頭Q&A10分。		
5	台湾の思想(3)(台湾の輪廻思想、縁起思想、臨死体験、前世療法、前世の記憶、死生学)の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。				事前：台湾の思想の下読みをする。 事後：台湾の思想のポイントをノートに書く。			講義説明80分。口頭Q&A10分。		
6	台湾の思想(4)(台湾の輪廻思想、縁起思想、臨死体験、前世療法、前世の記憶、死生学)の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。				事前：台湾の思想の下読みをする。 事後：台湾の思想のポイントをノートに書く。			講義説明80分。口頭Q&A10分。		
7	台湾の思想(5)(台湾の輪廻思想、縁起思想、臨死体験、前世療法、前世の記憶、死生学)の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。				事前：台湾の思想の下読みをする。 事後：台湾の思想のポイントをノートに書く。			講義説明80分。口頭Q&A10分。		
8	台湾の思想(6)(台湾の輪廻思想、縁起思想、臨死体験、前世療法、前世の記憶、死生学)の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。				事前：台湾の思想の下読みをする。 事後：台湾の思想のポイントをノートに書く。			講義説明80分。口頭Q&A10分。		
9	孔子の生涯と五倫五常(父子の親・君臣の義・夫婦の別・長幼の序・朋友の信の五つの道徳、仁・義・礼・智・信の五つの徳目)の説明をする。				事前：孔子の生涯と五倫五常の下読みをする。 事後：孔子の生涯と五倫五常のポイントをノートに書く。			講義説明80分。口頭Q&A10分。		
10	『論語』(1)(学而、為政)の説明をする。口頭Q&Aをする。ディスカッションをする。アンケートをする。				事前：『論語』(1)の下読みをする。 事後：『論語』(1)のポイントをノートに書く。			講義説明40分。ディスカッション40分。アンケート10分。		
11	『論語』(2)(八佾、里仁、公冶長、雍也)の説明をする。口頭Q&Aをする。				事前：『論語』(2)の下読みをする。 事後：『論語』(2)のポイントをノートに書く。			講義説明80分。口頭Q&A10分。		
12	『論語』(3)(述而、泰伯、子罕、郷党)の説明をする。口頭Q&Aをする。				事前：『論語』(3)の下読みをする。 事後：『論語』(3)のポイントをノートに書く。			講義説明80分。口頭Q&A10分。		
13	『論語』(4)(先進、顔淵、子路、憲問)の説明をする。口頭Q&Aをする。				事前：『論語』(4)の下読みをする。 事後：『論語』(4)のポイントをノートに書く。			講義説明80分。口頭Q&A10分。		
14	『論語』(5)(衛靈公、季氏、陽貨、微子、子張、堯曰)の説明をする。口頭Q&Aをする。				事前：『論語』(5)の下読みをする。 事後：『論語』(5)のポイントをノートに書く。			講義説明80分。口頭Q&A10分。		
15	異文化としての中国文化(中国の儒教思想、中国の仏教思想)のまとめの説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。				事前：中国文化のまとめの準備をする。 事後：中国文化のまとめのポイントをノートに書く。			講義説明70分。口頭Q&A10分。アンケート10分。		
<p>教本： 参考文献：溝口雄三、池田知久、丸山松幸(編)、『中国思想文化事典』、東京大学出版会、2001年、¥7,480。 吉川幸次郎(訳)、『論語』、筑摩書房、1971年、¥1,540。 宇野精一(訳)、『孟子 全訳注』、講談社、2019年、¥1,859。</p>										
成績評価の方法、評価基準：第15回目の授業時めきりの期末小論文(40%)、授業への寄与度や授業態度などの平常点(60%)。										
<p>学生へのアドバイス：『論語』を基礎とした儒教思想の授業を通じて、君の道徳心を高め、儒教思想の知識を実践に生かし、君の人間関係をよくしてほしい。 1. 異文化コミュニケーション論の知識(頭脳の知性)向上。2. 自己効力感(私はできるというプラス思考)向上。3. 人間力(力強く生きていく力、目標達成力)向上。台湾は親日的であり、台湾人は儒教思想があるので、非常に人情味があり、日本にも儒教思想があるので、日本人と台湾人の習慣の類似点は80%で、全外国人留學生の中で台湾人が日本人と最も似ており、台湾人は友好的であるので、学生の皆さんは台湾人とよい友達になれる。儒教思想の目的は、人間関係をよくすることにあるから、儒教思想を応用すれば、君の人間関係をよくすることができる。</p>										
オフィスアワー：初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	異文化論A (Cross Culture Theory A)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	川 添 裕 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他	高 校 レ ベ ル の 日 本 史 、 世 界 史 の 知 識 。 G o o g l e C l a s s r o o m 利 用 。							
授 業 概 要 : 異文化とは外国の文化だけを指すわけではありません。日本社会を対象に異文化の視点について学びます。毎回の授業終了前に小テストを行い、理解度について確認し、次の回の授業冒頭で補足説明を行う。									
授 業 目 標 : 1. 異文化の視点で自文化を捉えることができる。 2. 異文化の視点を日常生活、具体的な実践に応用できる。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ◎ 、 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1・2	視点としての異文化：カレンダーから多様な文化の共存の可能性について学ぶ。					事前：高校世界史を振り返る 事後：復習		講義 60分、質疑応答 20分、 小テスト 10分	
3	異文化～自文化：日本の在留外国人について学ぶ。神奈川県についてグループワークする。					事前：外国に住むこと 事後：復習		講義 60分、質疑応答 20分、 小テスト 10分	
4	先住民：世界の「先住民」をめぐる動きを概観した後、日本における先住民アイヌの人々について学ぶ。					事前：記事、ニュース収集 事後：復習		講義 60分、質疑応答 20分、 小テスト 10分	
5	宗教：キリスト教拡大以前と以後、「クリスマス」の展開を例に、古い文化的要素と新しい文化的要素の混合について学ぶ。					事前：クリスマス経験 事後：復習		講義 60分、質疑応答 20分、 小テスト 10分	
6	宗教：イスラームについて、食についての「ハラール」（許されていること、もの）規制について学ぶ。					事前：宗教のイメージ 事後：復習		講義 60分、質疑応答 20分、 小テスト 10分	
7	異文化としての日本：捕鯨文化を例に、異文化としての日本について学ぶ。					事前：食のイメージ 事後：復習		講義 60分、質疑応答 20分、 小テスト 10分	
8	映像授業					事前：関連事項検索 事後：映像資料復習		視聴 60分、ディスカッション 20分、 記述 10分	
9	ろう文化：聴覚障がいがあることを手話言語によってコミュニケーションする文化として学ぶ。					事前：バリアフリー経験 事後：復習		講義 60分、質疑応答 20分、 小テスト 10分	
9	触文化：視覚障がいがあることを、触る文化と見る文化という視点から捉え直す。					事前：バリアフリー経験 事後：復習		講義 60分、質疑応答 20分、 小テスト 10分	
10	タトゥー：身体を文化の視点から捉え、タトゥー/イレズミについて学ぶ。					事前：タトゥーのイメージ 事後：復習		講義 60分、質疑応答 20分、 小テスト 10分	
11	美容整形：美容整形を切り口に日本社会と韓国社会について比較検討する。					事前：整形のイメージ 事後：復習		講義 60分、質疑応答 20分、 小テスト 10分	
12	企業文化：ビジネスへの文化の視点の導入について、その歴史と現在について学ぶ。					事前：ブランドイメージ 事後：復習		講義 60分、質疑応答 20分、 小テスト 10分	
13	まとめ：授業全体を振り返り、異文化の視点についての理解を深める。					事前：ノート整理 事後：テスト準備		講義 60分、質疑応答 20分、 記述 10分	
14・15	最終テストを受ける。テスト結果、今後の学習に向けた提案を行う。					事前：テスト準備 事後：振り返り		講義 30分、テスト 60分	
教 本 : 参 考 文 献 : そのつと紹介する。									
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 授 業 参 加 状 況 等 (20%) 、 小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (30%) 、 最 終 テ ス ト (50%) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 各 種 情 報 や 様 々 な 情 報 を 批 判 的 に 読 み 解 く 力 を つ け 、 自 ら の 思 考 を 展 開 で き る ト レ ー ニ ン グ を し て く だ さ い 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え ま す 。									

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	異文化論B (Cross Culture Theory B)						科目分類	専門科目	
担当教員	川添 裕子								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	高校レベルの地理、世界史の知識。Google Classroom利用。							
授業概要： 本授業は、異文化理解に必要な視点、概念、理論として、オリエンタリズム批判、身体技法、グローバリズム、サブカルチャーについて学ぶ。毎回の授業終了前に小テストを行い、理解度について確認し、次の回の授業冒頭で補足説明を行う。									
授業目標： 1. 異文化を理解に必要な視点、概念、理論を理解する。 2. 異文化の視点を、身の周りの具体的な現象の解釈に応用できる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1・2	中東世界：文明の交差点としてのオリエンタ（東洋）について学び、現在メディアで報道されるイメージとの違いを理解する。					事前：高校世界史を振り返る 事後：復習		講義60分、質疑応答20分、小テスト10分	
3	アラビアンナイトの成立：「アラビアンナイト」の形成過程について学ぶ。					事前：ディズニー映画 事後：復習		講義60分、質疑応答20分、小テスト10分	
4	アラビアンナイトの再評価：18世紀ヨーロッパでの翻訳本人気について学ぶ。					事前：イメージ 事後：復習		講義60分、質疑応答20分、小テスト10分	
5	翻訳の問題：超訳、誤訳について学ぶ。					事前：翻訳経験 事後：復習		講義60分、質疑応答20分、小テスト10分	
6	オリエンタリズム批判：エドワード・サイードの「オリエンタリズム」批判の論点を学ぶ。オリエンタリズム					事前：中東のイメージ 事後：復習		講義60分、質疑応答20分、小テスト10分	
7	映像授業					事前：関連事項検索 事後：映像資料復習		視聴60分、ディスカッション20分、記述10分	
8	グローバリズム、ローカリズム、具ローカリズム：身近な商品やサービスから学ぶ。					事前：ファストフード経験 事後：復習		講義60分、質疑応答20分、小テスト10分	
9	ヴェールの着用、ひげを例に、身体の文化的側面、衣装の記号論について学ぶ。					事前：ヴェール、ひげ 事後：復習		講義60分、質疑応答20分、小テスト10分	
10	身体技法：身体の使い方、あり方の文化的多様性を、「身体技法」、「プロクセミックス」から学ぶ。					事前：クセの意識化 事後：復習		講義60分、質疑応答20分、小テスト10分	
11	サブカルチャー：映画、マンガ、アニメの展開について学ぶ。					事前：マンガ、アニメ 事後：復習		講義60分、質疑応答20分、小テスト10分	
12	物語と文化：アラビアンナイトの今後の展開について考える。					事前：アラビアンナイト読解 事後：復習		講義60分、質疑応答20分、小テスト10分	
13	まとめ：授業全体を振り返り、異文化の視点についての理解を深める。					事前：ノート整理 事後：テスト準備		講義60分、質疑応答20分、記述10分	
14・15	授業全体の理解度を最終テストで確認する。テスト結果、今後の学習に向けた提案を行う。					事前：テスト準備 事後：振り返り		講義30分、テスト60分	
教本： 配布資料					参考文献： そのつと紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、最終テスト（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 各種情報や様々な現象を批判的に読み解く力をつけ、自らの思考を展開できるトレーニングをしてください。									
オフィスアワー： 紹介講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	イ ン タ ー ン シ ッ プ (Internship)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	鈴 木 秀 顕								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
実 習 先 の 受 け 入 れ 人 数 に 合 わ せ て 、 履 修 人 数 を 制 限 す る こ と が あ る 。 授 業 で 、 企 業 で の 業 務 実 施 の 前 に 必 要 な 知 識 や マ ナ ー 、 企 業 研 究 な ら び に 提 出 書 類 の 書 き 方 を 習 得 す る 。 就 職 活 動 と 同 じ よ う に 自 分 の 希 望 す る 業 種 や 企 業 選 び な ど イ ン タ ー ネット を 活 用 し て 行 う 。									
授 業 目 標 :									
初 回 の 授 業 で 社 会 人 に な る た め に 必 要 な こ と を 学 び 、 夏 休 み 期 間 中 に イ ン タ ー ン シ ッ プ を 実 施 す る 。 実 体 験 す る こ と に よ り 、 目 標 を 持 つ こ と の 大 切 さ 、 そ れ を 達 成 す る た め の 過 程 、 確 認 と 検 証 、 新 た な 目 標 の 作 成 を 学 び 、 就 職 活 動 に 役 立 て る 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○						◎			
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	イ ン タ ー ン シ ッ プ 履 修 オ リ エ ン テ ー シ ョ ン					事 前 : な し 事 後 : 配 布 資 料 の 見 直 し		講 義	
2	働 く っ て ど ん な こ と ?					事 前 : 精 読 (9-26) 事 後 : 配 布 資 料 の 見 直 し		講 義 ・ 演 習	
3	志 を 考 え る					事 前 : 志 の 準 備 事 後 : 見 直 し		講 義 ・ 演 習	
4	イ ン タ ー ン シ ッ プ っ て 何					事 前 : 精 読 (39-52) 事 後 : 復 習		講 義	
5	な ぜ 企 業 は イ ン タ ー ン を 受 け 入 れ る の か ?					事 前 : 精 読 (53-68) 事 後 : 復 習		講 義	
6	自 分 の 希 望 と 時 期 を 考 え る					事 前 : 希 望 企 業 等 準 備 事 後 : 復 習		演 習	
7	業 界 研 究 ・ 企 業 研 究					事 前 : 希 望 企 業 等 準 備 事 後 : 復 習		演 習	
8	企 業 人 と し て の 心 構 え 面 接 練 習					事 前 : 資 料 見 直 し 事 後 : 資 料 見 直 し		演 習	
9	社 会 人 に な る た め の マ ナ ー					事 前 : 精 読 (87-104) 事 後 : 復 習		講 義 ・ 演 習	
10	提 出 書 類 の 作 成 (履 歴 書)					事 前 : 資 料 見 直 し 事 後 : 資 料 見 直 し		講 義 ・ 演 習	
11	提 出 書 類 の 作 成 (自 己 紹 介)					事 前 : 資 料 見 直 し 事 後 : 資 料 見 直 し		講 義 ・ 演 習	
12	イ ン タ ー ン シ ッ プ 計 画 の 策 定					事 前 : 資 料 見 直 し 事 後 : 資 料 見 直 し		演 習	
13	イ ン タ ー ン シ ッ プ 計 画 報 告					事 前 : 研 修 の 準 備 事 後 : 研 修 報 告 書		演 習	
14	イ ン タ ー ン シ ッ プ 計 画 報 告					事 前 : 研 修 報 告 書 の ま と め 事 後 : 研 修 報 告 書 の 訂 正		演 習	
15	イ ン タ ー ン シ ッ プ 計 画 報 告					事 前 : 研 修 報 告 書 の 仕 上 げ 事 後 : 報 告 会 の 反 省		演 習	
教 本 :					参 考 文 献 :				
① 『は じ め て の イ ン タ ー ン シ ッ プ』 (ア ル テ ス パ ブ リ ッ シ ン グ)					『内 定 獲 得 の メ ソ ッ ド イ ン タ ー ン シ ッ プ』 (マ イ ナ ビ)				
② 『思 考 法 図 鑑』 (翔 泳 社)									
③ 『サ ー チ ・ イ ン サ イ ド ・ ユ ア セ ル フ』 (英 知 出 版)									
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 :									
実 習 (60%)、 事 前 事 後 の 活 動 (40%) で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
プ レ 社 会 人 と し て の モ ラ ル を 求 め る の で 、 1 回 目 は 必 ず 出 席 す る こ と 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									



開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	AI実践プログラミング (Practical AI Programming)						科目分類	専門科目	
担当教員	山本 美紀								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	ノートパソコンを用意すること。							
授業概要： この授業では、人工知能 (AI: Artificial Intelligence) の歴史的背景を踏まえ、近年、AIプログラミングの開発で最も広く使用されている Python 言語の基礎知識を学び、AIで代表される機械学習モデルの構築手法を習得します。また、実践的なプログラミングの体験を通して、プログラミング的思考力の向上を目指します。									
授業目標： ① AI(人工知能)と機械学習の種類について説明できる。 ② Pythonを用いて基本的なアルゴリズムのプログラミングができる。 ③ 機械学習の仕組みを理解し、問題解決のためのプログラミングができる。 ④ プログラムで、データベースを操作することができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)				事前・事後学習 (学習課題)			授業形態	
1	授業の概要と目的、進め方、評価方法等について説明する。AI(人工知能)と機械学習、機械学習の種類について学ぶ。				事前：シラバスを読む 事後：ミニッツペーパー			アイスブレイク (10分) 講義 (80分)	
2	Pythonとはどんな言語か、Pythonの開発環境を構築する。サンプルプログラムを作成し、実行する。				事前：Pythonと開発環境について下調べ 事後：ミニッツペーパー			講義 (45分) 演習 (45分)	
3	Pythonの基礎(1)変数とデータ型について学ぶ。				事前：Chapter 3を読む 事後：演習問題			講義 (45分) 演習 (45分)	
4	Pythonの基礎(2)コレクションについて学ぶ。				事前：Chapter 4を読む 事後：演習問題			講義 (45分) 演習 (45分)	
5	Pythonの基礎(3)条件分岐/繰り返しについて学ぶ。				事前：Chapter 5を読む 事後：演習問題			講義 (45分) 演習 (45分)	
6	Pythonの基礎(4)関数について学ぶ。				事前：Chapter 6を読む 事後：演習問題			講義 (45分) 演習 (45分)	
7	Pythonの基礎(5)オブジェクトについて学ぶ。				事前：Chapter 7を読む 事後：演習問題			講義 (45分) 演習 (45分)	
8	Pythonの基礎(6)モジュールとパッケージについて学ぶ。				事前：Chapter 10を読む 事後：演習問題			講義・演習 (60分) 小テスト (30分)	
9	Pythonの基礎(7)ファイルの読み書きについて学ぶ。				事前：Chapter 11を読む 事後：演習問題			講義 (45分) 演習 (45分)	
10	Pythonによる機械学習(1)機械学習の準備・手順について学ぶ。				事前：Chapter 13の1を読む 事後：期末課題			講義 (45分) 演習 (45分)	
11	Pythonによる機械学習(2)教師あり学習について学ぶ。				事前：配布資料を読む 事後：期末課題			講義 (30分) 演習 (60分)	
12	Pythonによる機械学習(3)教師なし学習について学ぶ。				事前：配布資料を読む 事後：期末課題			講義 (30分) 演習 (60分)	
13	Pythonによる機械学習(4)データベースの操作について学ぶ。				事前：Chapter 15の1を読む 事後：期末課題			講義 (30分) 演習 (60分)	
14	Pythonによる機械学習(5)Webプログラミングについて学ぶ。				事前：Chapter 15の2を読む 事後：期末課題を完成させ、期限までに提出する			講義 (30分) 演習 (60分)	
15	まとめと学びの振り返りを行う。 注目されているAIの技術についてトピックを紹介する。				事前：学習ポートフォリオを整理する 事後：学びの振り返りを行う			講義 (60分) グループワーク (30分)	
教本： 松浦健一郎・司ゆき『Python [完全] 入門』SBクリエイティブ ISBN: 978-4-815607647					参考文献： 授業内で参考文献、Webサイト等を紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 学習ポートフォリオ (ミニッツペーパー、演習問題、振り返り等) : 60%、小テスト : 10%、期末課題 : 30%で総合評価する。 ※学習ポートフォリオは、ルーブリック (評価基準) による自己評価を含む。									
学生へのアドバイス： プログラミング上達のコツは、完成を期待してバグを見つけ、バグを修正すること (対話) を楽しむことです。相手はコンピュータなので、コンピュータが理解して正しく動作するプログラムを書くことが大切です。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	AI とビジネスモデル (AI and Business Model)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	井上 明也								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	ノートパソコンを用意すること							
授業概要： 近年、ビジネスにおいて収益を上げる仕組みは、インターネット、モバイル環境などの ICT、ビッグデータ、AI などの技術の進化により、多様化、変化が加速している。本講義では、AI を中心とした最新の技術動向の概要を学ぶとともに、ビジネスの構造と収益を向上させる仕組みの観点から、ビジネスを分析する基礎技術とその活用法を、講義、演習、プレゼンテーション、反転授業により学ぶ。									
授業目標： AI を中心とした技術の進化がビジネスに与える影響を考慮して、ビジネスの構造を理解し、収益を向上させる仕組みの作り方を理解することを目的とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ビジネスモデル理解の準備Ⅰ シラバスの説明とロジカルシンキングについて学ぶ					事前：シラバスを読む 事後：資料を復習する		講義	
2	ビジネスモデル理解の準備Ⅱ ビジネス分析のためのフレームワークについて学ぶ					事前：前回の資料を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義60分 演習30分	
3	ビジネスモデル理解の基礎Ⅲ 戦略と戦略策定のフレームワークについて学ぶ					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義60分 演習30分	
4	ビジネスに影響を与える技術動向 DX、AI の概要とビジネスへの影響について学ぶ					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義60分 演習30分	
5	ビジネスモデルとは ビジネスモデルの基礎知識について学ぶ					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：講義内容と課題を復習する		講義60分 演習30分	
6	ビジネスモデルの紹介1 指定されたビジネスモデルの説明資料の作成とプレゼン					事前：指定モデルの調査と資料作成 事後：紹介されたモデルを復習する		講義20分 プレゼン70分	
7	ビジネスモデルの紹介2 指定されたビジネスモデルの説明資料の作成とプレゼン					事前：指定モデルの調査と資料作成 事後：紹介されたモデルを復習する		講義20分 プレゼン70分	
8	ビジネスモデルの紹介3 指定されたビジネスモデルの説明資料の作成とプレゼン					事前：指定モデルの調査と資料作成 事後：紹介されたモデルを復習する		講義20分 プレゼン70分	
9	ビジネスモデルの紹介4 指定されたビジネスモデルの説明資料の作成とプレゼン					事前：指定モデルの調査と資料作成 事後：紹介されたモデルを復習する		講義20分 プレゼン70分	
10	ビジネスモデルの紹介5 指定されたビジネスモデルの説明資料の作成とプレゼン					事前：指定モデルの調査と資料作成 事後：紹介されたモデルを復習する		講義20分 プレゼン70分	
11	ビジネスモデルの紹介6 指定されたビジネスモデルの説明資料の作成とプレゼン					事前：指定モデルの調査と資料作成 事後：紹介されたモデルを復習する		講義20分 プレゼン70分	
12	ビジネスモデルの紹介7 指定されたビジネスモデルの説明資料の作成とプレゼン					事前：指定モデルの調査と資料作成 事後：紹介されたモデルを復習する		講義20分 プレゼン70分	
13	ビジネスモデルの紹介8 指定されたビジネスモデルの説明資料の作成とプレゼン					事前：指定モデルの調査と資料作成 事後：紹介されたモデルを復習する		講義20分 プレゼン70分	
14	ビジネスモデルの作り方 ビジネスモデルの基本的な考え方と作成方法について学ぶ					事前：提案するビジネス領域の調査 事後：提案モデルを検討する		講義60分 演習30分	
15	最終課題の発表とまとめ 各自の最終課題の検討結果のプレゼンテーションとまとめ					事前：プレゼン資料を作成する 事後：これまでの資料を復習する		講義10分 プレゼン80分	
教本： この一冊で全部わかる ビジネスモデル 基本・成功パターン・作り方が一気に学べる、¥1,760					参考文献： 講義内で指示する				
成績評価の方法、評価基準： レポート課題・プレゼンテーション等（100%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 授業に必ず出席する、疑問点は授業中に質問して解消することを心掛けてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	AI 入 門 (Introduction to Artificial Intelligence)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	井 上 明 也								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	ノ ー ト パ ソ コ ン を 用 意 す る こ と							
授 業 概 要 :									
本 講 義 で は , 人 工 知 能 の 全 体 像 と そ の 基 礎 技 術 を 理 解 し た 上 で , ど の よ う な 対 象 に 活 用 さ れ , ま た ビ ジ ネ ス 領 域 に ど の よ う な 影 響 を 与 え る か を , 講 義 , 演 習 , グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン , プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン を 通 じ て 理 解 す る 。									
授 業 目 標 :									
人 工 知 能 の 全 体 像 と そ の 基 礎 技 術 を 理 解 す る こ と に よ り , 既 存 の 適 用 事 例 に お け る 効 果 や 課 題 を 分 析 ・ 理 解 で き る 能 力 , 新 た な 対 象 や ビ ジ ネ ス 領 域 へ の 適 用 の 可 能 性 を 検 討 で き る 能 力 の 修 得 を 目 指 す 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ◎ , 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画 , 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 , 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	シ ラ バ ス の 説 明 , 人 工 知 能 AI 概 説 こ の 授 業 の 目 標 , 実 施 方 法 , 内 容 等 に つ い て 説 明 す る					事 前 : シ ラ バ ス を 読 む 事 後 : 資 料 を 復 習 す る		講 義	
2	人 工 知 能 の 歴 史 と 論 理 的 な 思 考 法 : 人 工 知 能 の 歴 史 と 人 工 知 能 の 技 術 を 理 解 す る 上 で 必 要 と な る 論 理 的 な 思 考 法 に つ い て					事 前 : 前 回 の 資 料 を 復 習 す る 事 後 : 資 料 と 課 題 を 復 習 す る		講 義 60 分 演 習 30 分	
3	AI 技 術 1 機 械 学 習 の 分 類 , 基 本 的 な 考 え 方 , 評 価 指 標 等 に つ い て 学 ぶ					事 前 : 前 回 の 資 料 を 復 習 す る 事 後 : 資 料 と 課 題 を 復 習 す る		講 義 60 分 演 習 30 分	
4	AI 技 術 2 予 測 を 目 的 と し た 機 械 学 習 の 手 法 と 適 用 事 例 に つ い て 学 ぶ					事 前 : 前 回 の 資 料 と 課 題 を 復 習 す る 事 後 : 資 料 と 課 題 を 復 習 す る		講 義 60 分 演 習 30 分	
5	AI 技 術 3 実 デ ィ タ に よ る 演 習 課 題 に よ り 機 械 学 習 の 予 測 手 法 を 学 ぶ					事 前 : 前 回 の 資 料 と 課 題 を 復 習 す る 事 後 : 資 料 と 課 題 を 復 習 す る		講 義 60 分 演 習 30 分	
6	AI 技 術 4 分 類 を 目 的 と し た 機 械 学 習 の 手 法 と 適 用 事 例 に つ い て 学 ぶ					事 前 : 前 回 の 資 料 と 課 題 を 復 習 す る 事 後 : 資 料 と 課 題 を 復 習 す る		講 義 60 分 演 習 30 分	
7	AI 技 術 5 : ニ ュ ー ラ ル ネ ッ ト ワ ー ク & デ ィ ー プ ラ ー ニ ン グ , 及 び 教 師 な し 機 械 学 習 の 手 法 と 適 用 事 例 に つ い て 学 ぶ					事 前 : 前 回 の 資 料 と 課 題 を 復 習 す る 事 後 : 資 料 と 課 題 を 復 習 す る		講 義 60 分 演 習 30 分	
8	AI 技 術 6 AI ツ ー ル に よ り 機 械 学 習 に よ る 判 別 モ デ ル を 作 成 , 評 価 す る					事 前 : 前 回 の 資 料 と 課 題 を 復 習 す る 事 後 : 資 料 と 課 題 を 復 習 す る		講 義 60 分 演 習 30 分	
9	AI 技 術 7 生 成 AI の 歴 史 と 自 然 言 語 処 理 と 関 連 技 術 の 進 化 に つ い て 学 ぶ					事 前 : 前 回 の 資 料 と 課 題 を 復 習 す る 事 後 : 資 料 と 課 題 を 復 習 す る		講 義 60 分 演 習 30 分	
10	人 工 知 能 技 術 の 活 用 1 生 成 AI (ChatGPT と 画 像 生 成 AI) の 活 用 法 を 学 ぶ					事 前 : 前 回 の 資 料 と 課 題 を 復 習 す る 事 後 : 資 料 と 課 題 を 復 習 す る		講 義 60 分 演 習 30 分	
11	人 工 知 能 技 術 の 活 用 2 生 成 AI (ChatGPT と 画 像 生 成 AI) の 活 用 法 を 学 ぶ					事 前 : 前 回 の 資 料 と 課 題 を 復 習 す る 事 後 : 資 料 と 課 題 を 復 習 す る		講 義 60 分 演 習 30 分	
12	AI 戦 略 の 取 り 組 み 概 要 : 国 内 に お け る AI 技 術 へ の 取 り 組 み 概 要 と AI 利 活 用 ガ イ ド ラ イ ン に つ い て 学 ぶ					事 前 : 前 回 の 資 料 と 課 題 を 復 習 す る 事 後 : 資 料 と 課 題 を 復 習 す る		講 義 30 分 , デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 60 分	
13	人 工 知 能 の ビ ジ ネ ス 活 用 事 例 と 課 題 1 : AI 技 術 が 実 装 さ れ た 対 象 の イ ン パ ク ト と リ ス ク , 課 題 に つ い て 議 論 し , ま と め る					事 前 : プ レ ゼ ン 資 料 を 作 成 す る 事 後 : 資 料 と 課 題 を 復 習 す る		プ レ ゼ ン 30 分 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 60 分	
14	人 工 知 能 の ビ ジ ネ ス 活 用 事 例 と 課 題 2 : 前 回 の 検 討 結 果 の プ レ ゼ ン と , 2 つ 目 の 対 象 に つ い て の グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン					事 前 : プ レ ゼ ン 資 料 を 作 成 す る 事 後 : 資 料 と 課 題 を 復 習 す る		プ レ ゼ ン 30 分 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 60 分	
15	人 工 知 能 の ビ ジ ネ ス 活 用 事 例 と 課 題 3 : 各 自 が 選 定 し た ビ ジ ネ ス 活 用 事 例 に つ い て 検 討 し た 結 果 を プ レ ゼ ン す る					事 前 : プ レ ゼ ン 資 料 を 作 成 す る 事 後 : こ れ ま で の 資 料 を 復 習 す る		講 義 10 分 プ レ ゼ ン 80 分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
指 定 し な い					講 義 内 で 指 示 す る				
成 績 評 価 の 方 法 , 評 価 基 準 :									
演 習 課 題 ・ レ ポ ー ト 等 (100%) で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
授 業 に 必 ず 出 席 す る , 疑 問 点 は 授 業 中 に 質 問 し て 解 消 す る こ と を 心 掛 け て く だ さ い 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	AIプログラミングⅠ (AI Programming I)						科目分類	専門科目	
担当教員	山本 美紀								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	ノートパソコンを用意すること。							
授業概要： この授業では、人工知能 (AI: Artificial Intelligence) の歴史的背景を踏まえ、近年、AIプログラミングの開発で最も広く使用されているPython言語の基礎知識を学び、AIで代表される機械学習モデルの構築手法を習得します。また、実践的なプログラミングの体験を通して、プログラミング的思考力の向上を目指します。									
授業目標： ① AI(人工知能)と機械学習の種類について説明できる。 ② Pythonを用いて基本的なアルゴリズムのプログラミングができる。 ③ 機械学習の仕組みを理解し、問題解決のためのプログラミングができる。 ④ プログラムで、データベースを操作することができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)			事前・事後学習 (学習課題)			授業形態		
1	授業の概要と目的、進め方、評価方法等について説明する。AI(人工知能)と機械学習、機械学習の種類について学ぶ。			事前：シラバスを読む 事後：ミニッツペーパー			アイスブレイク (10分) 講義 (80分)		
2	Pythonとはどんな言語か、Pythonの開発環境を構築する。サンプルプログラムを作成し、実行する。			事前：Pythonと開発環境について下調べ 事後：ミニッツペーパー			講義 (45分) 演習 (45分)		
3	Pythonの基礎(1)変数とデータ型について学ぶ。			事前：Chapter 3を読む 事後：演習問題			講義 (45分) 演習 (45分)		
4	Pythonの基礎(2)コレクションについて学ぶ。			事前：Chapter 4を読む 事後：演習問題			講義 (45分) 演習 (45分)		
5	Pythonの基礎(3)条件分岐/繰り返しについて学ぶ。			事前：Chapter 5を読む 事後：演習問題			講義 (45分) 演習 (45分)		
6	Pythonの基礎(4)関数について学ぶ。			事前：Chapter 6を読む 事後：演習問題			講義 (45分) 演習 (45分)		
7	Pythonの基礎(5)オブジェクトについて学ぶ。			事前：Chapter 7を読む 事後：演習問題			講義 (45分) 演習 (45分)		
8	Pythonの基礎(6)モジュールとパッケージについて学ぶ。			事前：Chapter 10を読む 事後：演習問題			講義・演習 (60分) 小テスト (30分)		
9	Pythonの基礎(7)ファイルの読み書きについて学ぶ。			事前：Chapter 11を読む 事後：演習問題			講義 (45分) 演習 (45分)		
10	Pythonによる機械学習(1)機械学習の準備・手順について学ぶ。			事前：Chapter 13の1を読む 事後：期末課題			講義 (45分) 演習 (45分)		
11	Pythonによる機械学習(2)教師あり学習について学ぶ。			事前：配布資料を読む 事後：期末課題			講義 (30分) 演習 (60分)		
12	Pythonによる機械学習(3)教師なし学習について学ぶ。			事前：配布資料を読む 事後：期末課題			講義 (30分) 演習 (60分)		
13	Pythonによる機械学習(4)データベースの操作について学ぶ。			事前：Chapter 15の1を読む 事後：期末課題			講義 (30分) 演習 (60分)		
14	Pythonによる機械学習(5)Webプログラミングについて学ぶ。			事前：Chapter15の2を読む 事後：期末課題を完成させ、期限までに提出する			講義 (30分) 演習 (60分)		
15	まとめと学びの振り返りを行う。 注目されているAIの技術についてトピックを紹介する。			事前：学習ポートフォリオを整理する 事後：学びの振り返りを行う			講義 (60分) グループワーク (30分)		
教本： 松浦健一郎・司ゆき『Python [完全] 入門』SBクリエイティブ ISBN: 978-4-815607647						参考文献： 授業内で参考文献、Webサイト等を紹介する。			
成績評価の方法、評価基準： 学習ポートフォリオ (ミニッツペーパー、演習問題、振り返り等) : 60%、小テスト : 10%、期末課題 : 30%で総合評価する。 ※学習ポートフォリオは、ルーブリック (評価基準) による自己評価を含む。									
学生へのアドバイス： プログラミング上達のコツは、完成を期待してバグを見つけ、バグを修正すること (対話) を楽しむことです。相手はコンピュータなので、コンピュータが理解して正しく動作するプログラムを書くことが大切です。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	英 語 I (English I)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	OTC								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>ネイティブ講師が担当します。各項目で重要表現の説明を最小限に行い、場面別の発話を繰り返すことで、学生が能動的に英語での発話に参加できるように促します。挨拶から始め、身の回りの物や国籍、数字、色などの英語の基本表現力を身につけます。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>①英語での簡単な挨拶や自己紹介ができる②英会話の中で使われる最低限必要な英文法を理解する③英語で質問された際に自信を持って対応ができる。④単語と定型表現の学習により、英語でのコミュニケーション能力を向上させる。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	Unit 1 : New friends (自己紹介や初対面時の挨拶、会話の中での be 動詞の使い方)、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：挨拶表現の語彙を確認		講義 40分、会話 30分、 ディスカッション 20分	
2	Unit 1 : New friends (仕事や都市名について話す、Yes と No で答える質問文及び応答文)、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：職業の語彙を確認		講義 40分、会話 30分、 ディスカッション 20分	
3	Unit 2 : People and places (国籍や出身地について話す、場所を尋ねる疑問文の会話)、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：国名の語彙を確認		講義 40分、会話 30分、 ディスカッション 20分	
4	Unit 2 : People and places (電話番号を正しく伝える、電話番号やメールアドレスを尋ねる表現)、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：数字の発音を確認		講義 40分、会話 30分、 ディスカッション 20分	
5	Unit 2 : People and places (家族と数字の説明、Who~や How old~を使った疑問文の会話)、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：家族の表現を確認		講義 40分、会話 30分、 ディスカッション 20分	
6	Unit 3 : What's that? (身近な物について話す、a と an の使い分け、複数形を使った会話)、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：身近な物の語彙を確認		講義 40分、会話 30分、 ディスカッション 20分	
7	Unit 3 : What's that? (服装や色について話す、所有代名詞を使った会話) グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：服装や色の語彙を確認		講義 40分、会話 30分、 ディスカッション 20分	
8	Unit 4 : Daily life (電車、バスなど移動手段について話す、時間について尋ねる会話)、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：場所と時の語彙を確認		講義 40分、会話 30分、 ディスカッション 20分	
9	Unit 4 : Daily life (毎日のスケジュールについて話す Yes と No で答える質問文)、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：予定の表現を確認		講義 40分、会話 30分、 ディスカッション 20分	
10	Unit 5 : Free time (メールや音楽などの習慣について話す、頻度について話す表現)、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：頻度の表現を確認		講義 40分、会話 30分、 ディスカッション 20分	
11	Unit 5 : Free time (買い物時の表現について話す、値段を尋ねる表現)、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：買い物時の表現を確認		講義 40分、会話 30分、 ディスカッション 20分	
12	Unit 5 : Free time (自由時間の使い方について尋ねる、What, Who, When などを使った疑問文)、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：定型質問文を確認		講義 40分、会話 30分、 ディスカッション 20分	
13	Unit 6 : Work and play (多様な職業名について話す、What などの疑問文に does を加えた表現)、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：職業名の語彙を確認		講義 40分、会話 30分、 ディスカッション 20分	
14	Unit 6 : Work and play (できること、できないことについて話す、Can を使って能力について尋ねる)、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：能力の表現を確認する		講義 40分、会話 30分、 ディスカッション 20分	
15	Unit 6 : Work and play (できること、できないことについて話す、様々な職業について話す)、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：仕事関連表現を確認		講義 40分、会話 30分、 ディスカッション 20分	
<p>教本： Four Corners 1 (Cambridge) 参考文献：</p>									
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 学期末に実施する「英語統一テスト」の評価 (50%) 並びに試験期間中の英語テストによる評価 (50%) を総合して評価します。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 英語で話すことに自信を持てるようネイティブ講師が指導します。積極的に英語で話すことを繰り返していけば、やがて英語に慣れ親しめるようになります。簡単な表現で伝わる英語を学びましょう。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	英 語 I (English I)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	末 次 俊 之								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>中学・高校の基礎的英語を強化、補足します。文法の基礎、初歩リスニング、ライティングを通じて、総合的英語能力のアップを図ります。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>1. 英文法、語彙、リスニング、ライティングの基礎学力を向上させる。 2. 平易な英語を正確に読み取り、身近な事柄について表現できる。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)			事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態		
1	オリエンテーション:授業の進め方、事前・事後学習の方法についての説明、自己紹介			事前:特になし 事後:授業の復習			講義・対話		
2	Unit 1: Welcome to Japan			事前:単語調べ、リーディング練習 事後:授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
3	Unit 2: That Sounds like Fun			事前:単語調べ、リーディング練習 事後:授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
4	Unit 3: We Leave on Friday Morning			事前:単語調べ、リーディング練習 事後:授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
5	Unit 4: You Know a Lot About Trains			事前:単語調べ、リーディング練習 事後:授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
6	Unit 5: I Didn't Want to Leave			事前:単語調べ、リーディング練習 事後:授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
7	Unit 6: You're Working Late			事前:単語調べ、リーディング練習 事後:授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
8	Unit 7: I'm Sure He'll Understand			事前:単語調べ、リーディング練習 事後:授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
9	Unit 8: I'll Remember That			事前:単語調べ、リーディング練習 事後:授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
10	Unit 9: Hiro Forgot			事前:単語調べ、リーディング練習 事後:授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
11	Unit 10: How Have You Been?			事前:単語調べ、リーディング練習 事後:授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
12	Unit 11: While They're Here			事前:単語調べ、リーディング練習 事後:授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
13	Unit 12: How Was Tennis?			事前:単語調べ、リーディング練習 事後:授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
14	Unit 13: What Do you Mean?			事前:単語調べ、リーディング練習 事後:授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
15	Unit 14: Well, What Are You Wating For?			事前:単語調べ、リーディング練習 事後:授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
教 本 : 参 考 文 献 :									
<p>Robert Hickling 臼倉美里『English First basic 大学英語の総合的アプローチ:基礎編』(金星堂、2020年)、¥1,900。</p>									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。									
<p>学期末に実施する「英語統一テスト」の評価(50%)並びに授業内評価(授業参加状況、英単語クイズ、小テスト、50%)を総合して評価します。</p>									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
<p>授業では、中学・高校英語の基礎的能力を再確認し、復習します。高校で使用した英語文法書を片手に復習すれば、より正確に基礎を定着させることができます。</p>									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
<p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	英 語 I (English I)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	廣 本 和 枝								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 会 話、文 法、リ ー ド イ ン グ か ら な る テ ク ス ト を 使 用 し ま す。英 語 の 基 礎 的 な ス キ ル を 学 び 直 し、い わ ゆ る 学 校 文 法 の 理 解 を 確 認 す る 授 業 で す。学 生 が 英 語 を 使 っ て 機 会 を せ じ ゃ け 多 く す る た め に、ペ ア ・ ワ ー ク、グ ル ー プ ワ ー ク、ゲ ー ム な ど も 取 り 入 れ ま す。									
授 業 目 標 : 英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン の 基 礎 レ ベ ル、Common European Framework of Reference A2 に 達 す る こ と を 目 標 と し ま す。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	Unit 1 Introduction in the USA 現 在 形 (一 般 動 詞 と be 動 詞)					事 前 : p.13 事 後 : writing p.16		タ ス ク 実 践 60 分 演 習 30 分	
2	Unit 2 The Natural Wonders of Iceland 現 在 進 行 形 (一 般 動 詞 と be 動 詞)					事 前 : p.19 事 後 : writing p.22		タ ス ク 実 践 60 分 演 習 30 分	
3	Unit 3 Getting Around the UK 現 在 形 の 否 定 文 と 疑 問 文					事 前 : p.25 事 後 : writing p.28		タ ス ク 実 践 60 分 演 習 30 分	
4	Unit 4 Tackling Rugby in Ireland 命 令 文					事 前 : p.31 事 後 : writing p.34		タ ス ク 実 践 60 分 演 習 30 分	
5	Unit 5 Norwegian Folktales 過 去 形 (be 動 詞 ・ 一 般 動 詞)					事 前 : p.37 事 後 : writing p.40		タ ス ク 実 践 60 分 演 習 30 分	
6	Unit 6 Food Tour in Germany 未 来 表 現					事 前 : p.43 事 後 : writing p.46		タ ス ク 実 践 60 分 演 習 30 分	
7	Unit 7 Austrian Symphony W H 疑 問 文					事 前 : p.49 事 後 : writing p.52		タ ス ク 実 践 60 分 演 習 30 分	
8	Unit 8 The Animals of Malta 助 動 詞 (can, must, may, should)					事 前 : p.55 事 後 : writing p.58		タ ス ク 実 践 60 分 演 習 30 分	
9	Unit 9 Moroccan Souvenirs 現 在 完 了 形					事 前 : p.61 事 後 : writing p.64		タ ス ク 実 践 60 分 演 習 30 分	
10	Unit 10 Spanish Dancing Lessons 受 動 態					事 前 : p.67 事 後 : writing p.70		タ ス ク 実 践 60 分 演 習 30 分	
11	Unit 11 Fashion Week in France 最 上 級					事 前 : p.73 事 後 : writing p.76		タ ス ク 実 践 60 分 演 習 30 分	
12	Unit 12 a Fjord in Montenegro 比 較 級					事 前 : p.79 事 後 : writing p.82		タ ス ク 実 践 60 分 演 習 30 分	
13	Unit 13 Swiss Sweets 不 定 詞 ・ 動 名 詞					事 前 : p.85 事 後 : writing p.88		タ ス ク 実 践 60 分 演 習 30 分	
14	Unit 14 Fine Art in Italy 接 続 詞 (when, before, after, because)					事 前 : p.91 事 後 : writing p.94		タ ス ク 実 践 60 分 演 習 30 分	
15	Unit 15 Back Home to Japan 関 係 代 名 詞					事 前 : p.97 事 後 : writing p.100		タ ス ク 実 践 60 分 演 習 30 分	
教 本 : <i>Make Your Way!</i> Akira Tajino 金星堂 ¥2,000+ 税					参 考 文 献 : <i>How English Works</i> M. Swan, C. Walter Oxford Univ. Press				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 英 語 統 一 テ ス ト の 評 価 50%、並 び に 担 当 教 員 に よ る 評 価 50% を 総 合 し て 評 価 し ま す。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 授 業 毎 に 実 施 す る タ ス ク を 平 常 点 と し て 評 価 の 対 象 に し ま す の で、授 業 を 休 ま な い よ う に し て く だ さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	英 語 II (English II)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	OTC								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>ネイティブ講師が担当し、各項目に必要な表現の説明を最小限に行い、使える表現の発話を繰り返すことで、生徒が能動的に英語での発話に参加できるように促します。食事や道案内などの会話表現及び過去形、進行形などの英語文法の基本表現を学びます。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>①英語での簡単な挨拶や自己紹介ができる②英会話の中で使われる最低限必要な英文法を理解する③英語で質問された際に自信を持って対応ができる。④単語と定型表現の学習により、英語でのコミュニケーション能力を向上させる。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	Unit 7: Food (食べ物とその量について話す、some と any 【可算名詞と不可算名詞】の使い分け)、グループワーク。					事前: 語彙・発音を調べる 事後: 食べ物の語彙を確認		講義 40分、会話 30分、 ディスカッション 20分	
2	Unit 7: Food (料理と頻度について話す、毎日、週 1 回などの頻度について話す)、グループワーク。					事前: 語彙・発音を調べる 事後: 頻度の語彙を確認		講義 40分、会話 30分、 ディスカッション 20分	
3	Unit 8: In the neighborhood (道案内の表現を覚える、会話の中での場所の前置詞の使い分け表現)、グループワーク。					事前: 語彙・発音を調べる 事後: 場所の前置詞を確認		講義 40分、会話 30分、 ディスカッション 20分	
4	Unit 8: In the neighborhood (観光施設の場所を尋ねる、Turn left/左に曲がる等の表現)、グループワーク。					事前: 語彙・発音を調べる 事後: 道案内の表現を確認		講義 40分、会話 30分、 ディスカッション 20分	
5	Unit 8: In the neighborhood (道案内の情報を尋ねる、There is/are を使った表現)、グループワーク。					事前: 語彙・発音を調べる 事後: 場所や時刻の確認		講義 40分、会話 30分、 ディスカッション 20分	
6	Unit 9: What's are you doing? (動作表現の動詞を覚える、ing を使った現在進行形の表現)、グループワーク。					事前: 語彙・発音を調べる 事後: 前置詞の使い方を確認		講義 40分、会話 30分、 ディスカッション 20分	
7	Unit 9: What's are you doing? (興味のあることについての表現、疑問詞を使い現在進行形で尋ねる)、グループワーク。					事前: 語彙・発音を調べる 事後: 近況表現を確認		講義 40分、会話 30分、 ディスカッション 20分	
8	Unit 10: Past experiences (過去の出来事について話す、規則動詞の過去形を使った表現)、グループワーク。					事前: 語彙・発音を調べる 事後: 過去形の表現を確認		講義 40分、会話 30分、 ディスカッション 20分	
9	Unit 10: Past experiences (不規則動詞を使い出来事を説明する、不規則動詞の過去形を使った表現)、グループワーク。					事前: 語彙・発音を調べる 事後: 不規則動詞の確認		講義 40分、会話 30分、 ディスカッション 20分	
10	Unit 11: Getting away (感情表現について話す、be 動詞の過去形を使った表現)、グループワーク。					事前: 語彙・発音を調べる 事後: 感情表現を確認		講義 40分、会話 30分、 ディスカッション 20分	
11	Unit 11: Getting away (ナチュラルに会話をつなげる、いいこと、悪いことについての表現)、グループワーク。					事前: 語彙・発音を調べる 事後: 日常会話の語彙を確認		講義 40分、会話 30分、 ディスカッション 20分	
12	Unit 11: Getting away (休暇時の表現について話す、Where などの質問文の過去形の表現)、グループワーク。					事前: 語彙・発音を調べる 事後: 休暇時の表現を確認		講義 40分、会話 30分、 ディスカッション 20分	
13	Unit 12: Time to celebrate (数詞と未来について話す、Be going to と Yes/No を使った文)、グループワーク。					事前: 語彙・発音を調べる 事後: 数詞の語彙を確認		講義 40分、会話 30分、 ディスカッション 20分	
14	Unit 12: Time to celebrate (パーティーの計画について話す、疑問文で現在進行形を使って話す)、グループワーク					事前: 語彙・発音を調べる 事後: 未来の表現を確認する		講義 40分、会話 30分、 ディスカッション 20分	
15	Unit 12: Time to celebrate (世界各国の誕生日について話す、祝いに関する話を話す)、グループワーク					事前: 語彙・発音を調べる 事後: 祝いの表現を確認する		講義 40分、会話 30分、 ディスカッション 20分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
Four Corners 1 (Cambridge)									
成績評価の方法、評価基準: 到達目標が達成できたかを評価する。 学期末に実施する「英語統一テスト」の評価 (50%) 並びに試験期間中の英語テストによる評価 (50%) を総合して評価します。									
学生へのアドバイス: 英語で話すことに自信を持てるようネイティブ講師が指導します。積極的に英語で話すことを繰り返していけば、やがて英語に慣れ親しめるようになります。簡単な表現で伝わる英語を学びましょう。									
オフィスアワー: 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	英 語 Ⅱ (English Ⅱ)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	末 次 俊 之								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
時 事 英 語 を 扱 う 教 科 書 を 使 い、ビ ジ ネ ス、文 化、環 境、社 会、科 学、フ ァ ッ シ ョ ン な ど の テ ー マ で ニ ュ ー ス 記 事 を 読 み ま す。英 文 記 事 を 用 い て、リ ス ニ ン グ、グ ラ マ ー チ ェ ッ ク、日 本 語 訳 な ど を 行 い ま す。ニ ュ ー ス 記 事 を 読 む こ と に よ っ て、語 彙 力 の ア ッ プ に も つ な が り ま す。									
授 業 目 標 :									
1. ニ ュ ー ス 英 語 に ふ れ、表 現 に 慣 れ る。 2. 英 文 記 事 か ら さ ま ざ ま な テ ー マ を 通 じ て 世 界 の 動 向 を 理 解 す る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)			事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態		
1	オ リ エ ン テ ー シ ョ ン : 授 業 の 進 め 方、事 前 ・ 事 後 学 習 の 方 法 に つ い て の 説 明、自 己 紹 介			事 前 : 特 に な し 事 後 : 授 業 の 復 習			講 義 10 分、リ ス ニ ン グ 15 分、リ ー デ ィ ン グ 30 分、 グ ラ マ ー チ ェ ッ ク 15 分、質 疑 応 答 20 分		
2	Chapter 1 : Being Eco-Friendly with Edible Tableware			事 前 : 単 語 調 べ、リ ー デ ィ ン グ 練 習 事 後 : 授 業 の 復 習			講 義 10 分、リ ス ニ ン グ 15 分、リ ー デ ィ ン グ 30 分、 グ ラ マ ー チ ェ ッ ク 15 分、質 疑 応 答 20 分		
3	Chapter 2 : In Search of More Fluid Styles of Work			事 前 : 単 語 調 べ、リ ー デ ィ ン グ 練 習 事 後 : 授 業 の 復 習			講 義 10 分、リ ス ニ ン グ 15 分、リ ー デ ィ ン グ 30 分、 グ ラ マ ー チ ェ ッ ク 15 分、質 疑 応 答 20 分		
4	Chapter 3 : Cats Don't Look, but They Know			事 前 : 単 語 調 べ、リ ー デ ィ ン グ 練 習 事 後 : 授 業 の 復 習			講 義 10 分、リ ス ニ ン グ 15 分、リ ー デ ィ ン グ 30 分、 グ ラ マ ー チ ェ ッ ク 15 分、質 疑 応 答 20 分		
5	Chapter 4 : Challenges of a High School Entrepreneur			事 前 : 単 語 調 べ、リ ー デ ィ ン グ 練 習 事 後 : 授 業 の 復 習			講 義 10 分、リ ス ニ ン グ 15 分、リ ー デ ィ ン グ 30 分、 グ ラ マ ー チ ェ ッ ク 15 分、質 疑 応 答 20 分		
6	Chapter 5 : The Ties that Bind Hearts			事 前 : 単 語 調 べ、リ ー デ ィ ン グ 練 習 事 後 : 授 業 の 復 習			講 義 10 分、リ ス ニ ン グ 15 分、リ ー デ ィ ン グ 30 分、 グ ラ マ ー チ ェ ッ ク 15 分、質 疑 応 答 20 分		
7	Chapter 6 : Insect Funerals			事 前 : 単 語 調 べ、リ ー デ ィ ン グ 練 習 事 後 : 授 業 の 復 習			講 義 10 分、リ ス ニ ン グ 15 分、リ ー デ ィ ン グ 30 分、 グ ラ マ ー チ ェ ッ ク 15 分、質 疑 応 答 20 分		
8	Chapter 7 : The History of QR Codes			事 前 : 単 語 調 べ、リ ー デ ィ ン グ 練 習 事 後 : 授 業 の 復 習			講 義 10 分、リ ス ニ ン グ 15 分、リ ー デ ィ ン グ 30 分、 グ ラ マ ー チ ェ ッ ク 15 分、質 疑 応 答 20 分		
9	Chapter 8 : Afghanistan's Bacha Posh			事 前 : 単 語 調 べ、リ ー デ ィ ン グ 練 習 事 後 : 授 業 の 復 習			講 義 10 分、リ ス ニ ン グ 15 分、リ ー デ ィ ン グ 30 分、 グ ラ マ ー チ ェ ッ ク 15 分、質 疑 応 答 20 分		
10	Chapter 9 : Buy a Drink, Change the World			事 前 : 単 語 調 べ、リ ー デ ィ ン グ 練 習 事 後 : 授 業 の 復 習			講 義 10 分、リ ス ニ ン グ 15 分、リ ー デ ィ ン グ 30 分、 グ ラ マ ー チ ェ ッ ク 15 分、質 疑 応 答 20 分		
11	Chapter 10 : Real × Unreal			事 前 : 単 語 調 べ、リ ー デ ィ ン グ 練 習 事 後 : 授 業 の 復 習			講 義 10 分、リ ス ニ ン グ 15 分、リ ー デ ィ ン グ 30 分、 グ ラ マ ー チ ェ ッ ク 15 分、質 疑 応 答 20 分		
12	Chapter 11 : Tiny Organisms Play a Big Role			事 前 : 単 語 調 べ、リ ー デ ィ ン グ 練 習 事 後 : 授 業 の 復 習			講 義 10 分、リ ス ニ ン グ 15 分、リ ー デ ィ ン グ 30 分、 グ ラ マ ー チ ェ ッ ク 15 分、質 疑 応 答 20 分		
13	Chapter 12 : Amateurs Beat Professionals at their Own Game			事 前 : 単 語 調 べ、リ ー デ ィ ン グ 練 習 事 後 : 授 業 の 復 習			講 義 10 分、リ ス ニ ン グ 15 分、リ ー デ ィ ン グ 30 分、 グ ラ マ ー チ ェ ッ ク 15 分、質 疑 応 答 20 分		
14	Chapter 13 : Teaching Traditional Buddhism with Jokes			事 前 : 単 語 調 べ、リ ー デ ィ ン グ 練 習 事 後 : 授 業 の 復 習			講 義 10 分、リ ス ニ ン グ 15 分、リ ー デ ィ ン グ 30 分、 グ ラ マ ー チ ェ ッ ク 15 分、質 疑 応 答 20 分		
15	Chapter 14 : Placing Hope in a Space Telescope			事 前 : 単 語 調 べ、リ ー デ ィ ン グ 練 習 事 後 : 授 業 の 復 習			講 義 10 分、リ ス ニ ン グ 15 分、リ ー デ ィ ン グ 30 分、 グ ラ マ ー チ ェ ッ ク 15 分、質 疑 応 答 20 分		
教 本 :					参 考 文 献 :				
村 尾 純 子 他 『Insights : 世 界 を 読 む メ デ ィ ア 英 語 入 門 2023』 (金 星 堂、2023 年)、¥1,900									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
学 期 末 に 実 施 す る 「英 語 統 一 テ ス ト」 の 評 価 (50%) な ら び に 授 業 内 評 価 (授 業 参 加 状 況、単 語 ク イ ズ、小 テ ス ト、50%) を 総 合 し て 評 価 し ま す。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
日 常 的 に、新 聞 や ニ ュ ー ス に 触 れ て お く こ と を お 薦 め し ま す。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	英語Ⅱ (English Ⅱ)						科目分類	基礎科目	
担当教員	廣本 和枝								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： リーディングとリスニングを中心にしたTOEICテキストを用いて、文法事項の確認をしながら、様々な分野について、頻度の高い語彙と表現を増やすことを目標とします。ペアワーク、グループワーク、ゲームなどを採り入れて、その課で学んだ英語を楽しく使う時間をできるだけ多くなるようにします。									
授業目標： 英語コミュニケーションのCommon European Framework of Reference B1に到達することを目標とします。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Unit 1 Daily Life 名詞					事前：p.19 事後：Handout		タスク実践 60分 演習 30分	
2	Unit 2 Eating Out & Shopping 形容詞・副詞					事前：p.26 事後：handout		タスク実践 60分 演習 30分	
3	Unit 3 Classes & Lessons 動詞					事前：p.33 事後：Handout		タスク実践 60分 演習 30分	
4	Unit 4 Events 現在形・現在進行形					事前：p.40 事後：Task for Review		タスク実践 60分 演習 30分	
5	Unit 5 Traffic & Travel 過去形・過去進行形					事前：p.47 事後：Handout		タスク実践 60分 演習 30分	
6	Unit 6 News 未来表現					事前：p.54 事後：Task for Review		タスク実践 60分 演習 30分	
7	Unit 7 Job Offers & Employment 現在完了形					事前：p.61 事後：Handout		タスク実践 60分 演習 30分	
8	Unit 8 Office Work & Meetings 受動態					事前：p.68 事後：Handout		テスト 30分 発表 90分	
9	Unit 9 Business 接続詞					事前：p.76 事後：Handout		タスク実践 60分 演習 30分	
10	Unit 10 Announcement & Advertisements 前置詞					事前：p.83 事後：Handout		タスク実践 60分 演習 30分	
11	Unit 11 Personnel 代名詞					事前：p.91 事後：Handout		タスク実践 60分 演習 30分	
12	Unit 12 Health & Environmnet 不定詞					事前：p.99 事後：Handout		タスク実践 60分 演習 30分	
13	Unit 13 Finance & Banking 助動詞					事前：p.109 事後：Handout		タスク実践 60分 演習 30分	
14	Unit 14 Production & Logistics ～ing形					事前：p.119 事後：Handout		タスク実践 60分 演習 30分	
15	Unit 15 Research and Development & ICT 関係詞					事前：p.127 事後：Handout		タスク実践 60分 演習 30分	
教本： <i>Climb High to the TOEIC L&R Test</i> Masako Yasumaru 他 金星堂 ¥2,300+税					参考文献： <i>How English Works</i> M. Swan, C. Walter Oxford Univ. Press				
成績評価の方法、評価基準： 英語統一テストの評価50%、並びに担当教員による評価50%を総合して評価します。									
学生へのアドバイス： 授業毎に実施するタスクを平常点として評価の対象にしますので、授業を休まないようにしてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	英 語 Ⅲ (English Ⅲ)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	阿 部 美 恵								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 英語 I ・ II で学習した英語のさらなる向上を図ります。授業では毎回焦点を絞って英文法の基本的なルールやフォームを再確認し、リーディング・ライティング・リスニングの能力を習得するためのタスクを行います。									
授 業 目 標 : ①語彙を増やし、リーディング力を強化します。 ②文法・語法を確認し、英文を書いたり、聴くことによってライティング・リスニング力を習得します。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	授業の進め方と評価方法についての説明 自己紹介					事前：シラバスを読む 事後：授業の復習		解説30分、writing 40分、 発表20分	
2	Unit 1 The Cherry Blossom Season in Japan					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法30分、会話20分、 読解20分、writing20分	
3	Unit 1 The Cherry Blossom Season in Japan					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法30分、会話20分、 読解20分、writing20分	
4	Unit 2 Travel Pleasures					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法30分、会話20分、 読解20分、writing20分	
5	Unit 2 Travel Pleasures					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法30分、会話20分、 読解20分、writing20分	
6	Unit 3 Lucky Discoveries					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法30分、会話20分、 読解20分、writing20分	
7	Unit 3 Lucky Discoveries					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法30分、会話20分、 読解20分、writing20分	
8	Unit 4 Saving Our Presious Water					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法30分、会話20分、 読解20分、writing20分	
9	Unit 4 Saving Our Presious Water					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法30分、会話20分、 読解20分、writing20分	
10	Unit 5 Festival Fun and Games					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法30分、会話20分、 読解20分、writing20分	
11	Unit 5 Festival Fun and Games					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法30分、会話20分、 読解20分、writing20分	
12	Unit 6 Work Pre-and Post COVID-19					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法30分、会話20分、 読解20分、writing20分	
13	Unit 6 Work Pre-and Post COVID-19					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法30分、会話20分、 読解20分、writing20分	
14	Unit 7 Online Social Gaming					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法30分、会話20分、 読解20分、writing20分	
15	Unit 7 Online Social Gaming					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法30分、会話20分、 読解20分、writing20分	
教 本 : 初回の授業で案内します。					参 考 文 献 :				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 担当教員の評価 (50%)、英語統一テストの結果 (50%) で評価します。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 多くの機会を利用して、英語に触れるように努めてください。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝えます。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	英語Ⅲ (English Ⅲ)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	岡部 佑人								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>本演習では、英語の基本的な文法項目を紹介しつつ（拘束課題：教員担当）、様々な英語上の問題点（自由課題：学生提示）について議論を行い、広く英語の技能を身につけるとともに、より広い実践的な力をつけてもらうことを目標とする。その目標を達成するために、本授業では、ノートを正確に取ってもらうことを求める。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>人前で英語に関する話題ができるようになること、人の話を正確に聞きとり、議論のテーブルに参加できることを求める。 特に、人の話を聞けるようになることを最重要項目とする。また、英語統一試験に向けて、単語力を養成することを次点の目標とする。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Punctuation（拘束課題）・学生発表についての説明（自由課題） （以下、左側の記述は拘束課題、右側は自由課題）					事前：なし 事後：ノートまとめ		演習90分	
2	Punctuation・学生発表の演習を行う。					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
3	8品詞・学生発表の演習を行う。					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
4	語句節・学生発表の演習を行う。					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
5	物質名詞と普通名詞・学生発表の演習を行う。					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
6	冠詞・学生発表の演習を行う。					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
7	5文型・学生発表の演習を行う。					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
8	Be動詞の意味・学生発表の演習を行う。					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
9	擬似補語・学生発表の演習を行う。					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
10	ネクサス関係・学生発表の演習を行う。					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
11	意味上の主語・学生発表の演習を行う。					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
12	There構文・学生発表の演習を行う。					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
13	新情報と旧情報・学生発表の演習を行う。					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
14	所有格・学生発表の演習を行う。					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
15	総まとめ及びコメント					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
<p>教本：『英検準2級 出る順パス単』旺文社</p>					<p>参考文献：なし</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>レポート（50%）、英語統一テストの結果（50%）で評価します。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>よくノートを取るようにしてください。ノートを取ったらよく考えてみてください。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習	
授業科目(英文)	英語Ⅳ (English Ⅳ)						科目分類	基礎科目		
担 当 教 員	阿部 美恵									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	その他	なし								
授業概要： 英語Ⅰ・Ⅱで学習した英語のさらなる向上を図ります。授業では毎回焦点を絞って英文法の基本的なルールやフォームを再確認し、リーディング・ライティング・リスニングの能力を習得するためのタスクを行います。										
授業目標： ①語彙を増やし、リーディング力を強化します。 ②文法・語法を確認し、英文を書いたり、聴くことによってライティングとリスニング力を習得します。										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
◎			○							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	Unit 8 Women's Social Advancement					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分		
2	Unit 8 Women's Social Advancement					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分		
3	Unit 9 Music Makers					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分		
4	Unit 9 Music Makers					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分		
5	Unit 10 Risks and Rewards of Online Tasks					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分		
6	Unit 10 Risks and Rewards of Online Tasks					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分		
7	Unit 11 Getting Around in the Future					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分		
8	Unit 11 Getting Around in the Future					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分		
9	Unit 12 Virtual Reality is Really Here					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分		
10	Unit 12 Virtual Reality is Really Here					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分		
11	Unit 13 Pet Adoption					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分		
12	Unit 13 Pet Adoption					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分		
13	Unit 14 Mobile Supermarkets to the Rescue					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分		
14	Unit 14 Mobile Supermarkets to the Rescue					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分		
15	Unit 15 Time Performance					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分		
教本： 初回の授業で案内します。					参考文献：					
成績評価の方法、評価基準： 担当教員の評価(50%)、英語統一テストの結果（50%）で評価します。										
学生へのアドバイス： 多くの機会を利用して、英語に触れるように努めてください。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。										

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	英 語 Ⅳ (English Ⅳ)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	OTC								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
ネイティブ講師が担当します。各項目で重要表現の説明を最小限に行い、場面別の発話を繰り返すことで、学生が能動的に英語での発話に参加できるように促します。買物、観光地、経歴、食品などについての英語応用表現力を身につけます。									
授 業 目 標 :									
①英語での挨拶や自己紹介ができる②英会話の中で必要な各種話題に、簡単な英語で対応できる会話力を身につける③相手に尋ねたり、質問に答えたりするなど、応用表現力を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	Unit 7 : Shopping (軽い、薄いなど物の形状を説明する)、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：形状表現の語彙を確認		講義40分、会話30分、 ディスカッション20分	
2	Unit 7 : Shopping (簡単な値段交渉の会話、enough の会話の中での使い方)、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：買物表現の語彙		講義40分、会話30分、 ディスカッション20分	
3	Unit 8 : Fun in the city (世界の観光地を説明する、should と Can の会話の中での使い方)、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：観光地の語彙を確認		講義40分、会話30分、 ディスカッション20分	
4	Unit 8 : Fun in the city (人に勧めたり、お勧めを聞いたりする表現)、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：勧誘表現の語彙を確認		講義40分、会話30分、 ディスカッション20分	
5	Unit 8 : Fun in the city (都市の特徴を説明する、比較級の最上級を使った会話)、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：都市の説明表現を確認		講義40分、会話30分、 ディスカッション20分	
6	Unit 9 : People (職業、経歴を説明する、born を使った表現)、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：経歴表現の語彙を確認		講義40分、会話30分、 ディスカッション20分	
7	Unit 9 : People (確かである、不確かであることを伝える表現、会話の中で positive を使った表現)、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：positive を使った表現		講義40分、会話30分、 ディスカッション20分	
8	Unit 9 : People (個人の経歴を伝える、過去の出来事を説明する表現)、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：経歴表現の語彙を確認		講義40分、会話30分、 ディスカッション20分	
9	Unit 10 : In a restaurant (食べ物について説明する、会話の中で、a、an、the などを使い分ける)、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：食べ物の表現を確認		講義40分、会話30分、 ディスカッション20分	
10	Unit 10 : In a restaurant (フルーツやドリンクについて説明する、会話の中で完了形を使い分ける)、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：完了形の表現を確認		講義40分、会話30分、 ディスカッション20分	
11	Unit 11 : Entertainment (映画のタイプを説明する、会話の中で neither、either を使う表現)、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：映画説明の表現を確認		講義40分、会話30分、 ディスカッション20分	
12	Unit 11 : Entertainment (音楽のタイプを説明する、会話の中で most of、some of などを使い分ける)、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：音楽説明の語彙を確認		講義40分、会話30分、 ディスカッション20分	
13	Unit 12 : Time for a change (目標について話す、Good News と Bad News について話す)、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：目標を語る語彙を確認		講義40分、会話30分、 ディスカッション20分	
14	Unit 12 : Time for a change (将来について話す、会話の中で、will、may、might などを使って話す)、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：将来の説明表現を確認		講義40分、会話30分、 ディスカッション20分	
15	Unit 12 : Time for a change (将来について話す、インタビュー形式での会話)、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：インタビュー用語確認		講義40分、会話30分、 ディスカッション20分	
教 本 : Four Corners 2 (Cambridge)									
参 考 文 献 :									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 学期末に実施する「英語統一テスト」の評価(50%)並びに試験期間中の英語テストによる評価(50%)を総合して評価します。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
英語で話すことに自信を持てるようネイティブ講師が指導します。積極的に英語で話すことを繰り返していけば、やがて英語に慣れ親しめるようになります。簡単な表現で伝わる英語を学びましょう。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	英 語 IV (English IV)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	岡 部 佑 人								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
本演習では、英語の基本的な文法項目を紹介しつつ（拘束課題：教員担当）、様々な英語上の問題点（自由課題：学生提示）について議論を行い、広く英語の技能を身につけるとともに、より広い実践的な力をつけてもらうことを目標とする。その目標を達成するために、本授業では、ノートを正確に取ってもらうことを求める。									
授 業 目 標 :									
人前で英語に関する話題ができるようになること、人の話を正確に聞きとり、議論のテーブルに参加できることを求める。 特に、人の話を聞けるようになることが最重要である。また、英語統一試験に向けて、単語力を養成することを次点の目標とする。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	不定代名詞 one (拘束課題)・学生発表についての説明 (自由課題) (以下、左側の記述は拘束課題、右側は自由課題)					事前：なし 事後：ノートまとめ		演習90分	
2	Some と any ・ 学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
3	It について ・ 学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
4	形容詞 ・ 学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
5	副詞 ・ 学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
6	前置詞 ・ 学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
7	等位接続詞 ・ 学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
8	関係代名詞 who, which ・ 学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
9	関係副詞 ・ 学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
10	接続詞 that, 関係詞 that ・ 学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
11	強調構文 ・ 学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
12	強調表現 ・ 学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
13	代用表現 ・ 学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
14	取り扱っていない文法項目の紹介 ・ 学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
15	総まとめ及びコメント					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
『英検準2級 出る順パス単』旺文社					なし				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 :									
レポート (50%)、英語統一テストの結果 (50%) で評価します。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
よくノートを取るようにしてください。ノートを取ったらよく考えてみてください。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	英語学概論 A (English Linguistics A)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	岡部 佑人								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要： 音声・単語・文法・意味など、様々な観点から英語学について講義する。ひとつひとつのテーマが明確に分かれれば、英語学が狙いとしているものが見えてくると考える。</p>									
<p>授業目標： 受講者は英語学的な観点から物事が分析できるようになることを目標とする。英語学とは何かを理解することがテーマである。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Introductionを行う。					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		講義 90分	
2	音声学について講義を行う。					事前：ノートまとめ 事後：ノートを読みかえす		講義 90分	
3	音韻論について講義を行う。					事前：ノートまとめ 事後：ノートを読みかえす		講義 90分	
4	形態論 (1) 接辞及び語幹について講義を行う。					事前：ノートまとめ 事後：ノートを読みかえす		講義 90分	
5	形態論 (2) かばん語などについて講義を行う。					事前：ノートまとめ 事後：ノートを読みかえす		講義 90分	
6	形態論 (3) その他の形態論について講義を行う。					事前：ノートまとめ 事後：ノートを読みかえす		講義 90分	
7	統語論 (1) 学校文法について講義を行う。					事前：ノートまとめ 事後：ノートを読みかえす		講義 90分	
8	統語論 (2) 構造言語学について講義を行う。					事前：ノートまとめ 事後：ノートを読みかえす		講義 90分	
9	統語論 (3) 変形生成文法などについて講義を行う。					事前：ノートまとめ 事後：ノートを読みかえす		講義 90分	
10	統語論 (4) コーパス言語学などについて講義を行う。					事前：ノートまとめ 事後：ノートを読みかえす		講義 90分	
11	意味論 (1) 日本語訳をするにあたってについて講義を行う。					事前：ノートまとめ 事後：ノートを読みかえす		講義 90分	
12	意味論 (2) 意味の多様性について講義を行う。					事前：ノートまとめ 事後：ノートを読みかえす		講義 90分	
13	語用論 (1) 語用論とは何かについて講義を行う。					事前：ノートまとめ 事後：ノートを読みかえす		講義 90分	
14	語用論 (2) 実際に語用論を用いて考えるについて講義を行う。					事前：ノートまとめ 事後：ノートを読みかえす		講義 90分	
15	形態論・統語論・意味論・語用論の総まとめについて講義を行う。					事前：ノートまとめ 事後：ノートを読みかえす		講義 90分	
<p>教本： 『新 えいご・エイゴ・英語学』 稲木昭子・堀田知子・沖田知子著 松柏社</p>					<p>参考文献： 授業中に適宜資料を配布及び紹介する。特にBBC Newsなどのインターネットを用いて無料で学習できる教材をいくつか紹介し、利用報告をしてもらう。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準： 定期試験（80%）、毎回の授業後のレポート等（20%）で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： よくノートを取るようにしてください。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。</p>									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	英 語 学 概 論 B (English Linguistics B)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	岡 部 佑 人								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 英 語 学 と は 何 か と い う こ と を 説 明 す る 。 そ し て 、 そ の 英 語 学 的 な 視 点 か ら 物 事 を 分 析 で き る よ う に な る 。 そ の た め に は 、 ノ ー ト を し っ か り 取 る こ と が 重 要 で す 。									
授 業 目 標 : 受 講 者 は 英 語 学 的 な 観 点 か ら 物 事 が 分 析 で き る よ う に な る 。 英 語 学 概 論 B で は 、 特 に 、 英 語 史 に 関 す る 内 容 を 理 解 し 、 日 々 の 英 語 学 習 に 生 か せ る よ う に す る こ と を 目 標 と す る 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	Introduction を 行 う 。					事 前 : な し 事 後 : ノ ー ト を 読 み か え す		講 義 90 分	
2	世 界 の 英 語 に つ い て 講 義 を 行 う 。					事 前 : な し 事 後 : ノ ー ト を 読 み か え す		講 義 90 分	
3	英 語 史 (1) 古 英 語 に つ い て 講 義 を 行 う 。					事 前 : な し 事 後 : ノ ー ト を 読 み か え す		講 義 90 分	
4	英 語 史 (2) 中 英 語 に つ い て 講 義 を 行 う 。					事 前 : な し 事 後 : ノ ー ト を 読 み か え す		講 義 90 分	
5	英 語 史 (3) 近 代 英 語 に つ い て 講 義 を 行 う 。					事 前 : な し 事 後 : ノ ー ト を 読 み か え す		講 義 90 分	
6	英 語 史 (4) 現 代 英 語 に つ い て 講 義 を 行 う 。					事 前 : な し 事 後 : ノ ー ト を 読 み か え す		講 義 90 分	
7	英 語 の 語 源 に つ い て 講 義 を 行 う 。					事 前 : な し 事 後 : ノ ー ト を 読 み か え す		講 義 90 分	
8	学 生 発 表 (1) を 行 う 。					事 前 : な し 事 後 : ノ ー ト を 読 み か え す		演 習 90 分	
9	現 代 の 英 語 学 に つ い て 講 義 を 行 う 。					事 前 : な し 事 後 : ノ ー ト を 読 み か え す		講 義 90 分	
10	社 会 言 語 学 に つ い て 講 義 を 行 う 。					事 前 : な し 事 後 : ノ ー ト を 読 み か え す		講 義 90 分	
11	学 生 発 表 (2) を 行 う 。					事 前 : な し 事 後 : ノ ー ト を 読 み か え す		演 習 90 分	
12	コ ン ピ ュ ー タ と 英 語 学 (1) BNC corpus に つ い て 講 義 を 行 う 。					事 前 : な し 事 後 : ノ ー ト を 読 み か え す		講 義 90 分	
13	コ ン ピ ュ ー タ と 英 語 学 (2) COHA, COCA な ど に つ い て 講 義 を 行 う 。					事 前 : な し 事 後 : ノ ー ト を 読 み か え す		講 義 90 分	
14	学 生 発 表 (3) を 行 う 。					事 前 : な し 事 後 : ノ ー ト を 読 み か え す		演 習 90 分	
15	世 界 の 英 語 ・ 英 語 史 ・ 現 代 の 英 語 ・ 社 会 言 語 学 の 総 ま と め に つ い て 講 義 を 行 う 。					事 前 : な し 事 後 : ノ ー ト を 読 み か え す		講 義 90 分	
教 本 : 『新 えいご・エイゴ・英語学』 稲木昭子・堀田知子・沖田知子著 松柏社					参 考 文 献 : 授 業 中 に 適 宜 資 料 を 配 布 及 び 紹 介 す る 。 特 に 、 Dictionary.com な ど の イン タ ー ネ ッ ト を 用 い て 無 料 で 学 習 で き る 教 材 を い く つ か 紹 介 し 、 実 際 に 利 用 報 告 を し て も ら う 。				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 定 期 試 験 (80%)、毎 回 の 授 業 の 最 後 の レ ポ ー ト 等 (20%) で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : よ く ノ ー ト を 取 る よ う に し て く だ さ い 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	英 語 ス ピ ー キ ン グ I (English Speaking I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	岡 部 佑 人								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 本 授 業 で は、英 語 を な る べ く 多 く 発 言 し て も ら う こ と を 目 標 と す る。多 くの 演 習 を こ な す こ と を 重 視 す る た め、正 確 性 は 二 の 次 と す る。									
授 業 目 標 : 1. 様 々 な 話 題 に つ い て、目 的 や 場 面、状 況 等 に 応 じ て 英 語 で 話 す こ と [や り 取 り ・ 発 表] が で き る。 2. 数 多 くの 英 語 を 話 す こ と 3. 相 手 の 英 語 の 発 音 を 聞 き 取 れ る よ う に な る こ と									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○						◎			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	Introduction (授 業 時 の 注 意、成 績 評 価 に つ い て の 確 認 を 行 う)					事 前 : な し 事 後 : 授 業 内 容 で 英 作 文		演 習 90 分	
2	Vacation (休 暇 に つ い て、英 語 で 話 せ る よ う に な る)					事 前 : 授 業 内 容 で 英 作 文 事 後 : 授 業 内 容 で 英 作 文		演 習 90 分	
3	Growing Up (生 ま れ 育 ち に つ い て、英 語 で 話 せ る よ う に な る)					事 前 : 授 業 内 容 で 英 作 文 事 後 : 授 業 内 容 で 英 作 文		演 習 90 分	
4	Entertainment (娯 楽、趣 味 に つ い て、英 語 で 話 せ る よ う に な る)					事 前 : 授 業 内 容 で 英 作 文 事 後 : 授 業 内 容 で 英 作 文		演 習 90 分	
5	Food and Drink (食 べ 物、飲 み 物 に つ い て、英 語 で 話 せ る よ う に な る)					事 前 : 授 業 内 容 で 英 作 文 事 後 : 授 業 内 容 で 英 作 文		演 習 90 分	
6	Travel and Tourism (旅 行 と 観 光 に つ い て、英 語 で 話 せ る よ う に な る)					事 前 : 授 業 内 容 で 英 作 文 事 後 : 授 業 内 容 で 英 作 文		演 習 90 分	
7	Education (教 育、教 育 制 度 に つ い て、英 語 で 話 せ る よ う に な る)					事 前 : 授 業 内 容 で 英 作 文 事 後 : 授 業 内 容 で 英 作 文		演 習 90 分	
8	総 ま と め					事 前 : 授 業 内 容 で 英 作 文 事 後 : 授 業 内 容 で 英 作 文		演 習 90 分	
9	Fashion (フ ァ ッ シ ョ ン、衣 類 に つ い て、英 語 で 話 せ る よ う に な る)					事 前 : 授 業 内 容 で 英 作 文 事 後 : 授 業 内 容 で 英 作 文		演 習 90 分	
10	Living Abroad (海 外 生 活 に つ い て、英 語 で 話 せ る よ う に な る)					事 前 : 授 業 内 容 で 英 作 文 事 後 : 授 業 内 容 で 英 作 文		演 習 90 分	
11	Working Life (仕 事 に つ い て、英 語 で 話 せ る よ う に な る)					事 前 : 授 業 内 容 で 英 作 文 事 後 : 授 業 内 容 で 英 作 文		演 習 90 分	
12	Health (健 康 に つ い て、英 語 で 話 せ る よ う に な る)					事 前 : 授 業 内 容 で 英 作 文 事 後 : 授 業 内 容 で 英 作 文		演 習 90 分	
13	Changing Times (時 代 の 変 遷 に つ い て、英 語 で 話 せ る よ う に な る)					事 前 : 授 業 内 容 で 英 作 文 事 後 : 授 業 内 容 で 英 作 文		演 習 90 分	
14	Student Life (学 生 生 活 に つ い て、英 語 で 話 せ る よ う に な る)					事 前 : 授 業 内 容 で 英 作 文 事 後 : 授 業 内 容 で 英 作 文		演 習 90 分	
15	Speech Test を 行 う。					事 前 : 授 業 内 容 で 英 作 文 事 後 : な し		演 習 90 分	
教 本 : World Interviews Improving Listening and Speaking Skills (成 美 堂)					参 考 文 献 : 適 宜、授 業 内 で 紹 介 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 課 題 お よ び パ フ ォ ー マ ン ス (50%)、Speech Test (50%) を 総 合 し て 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : た く さ ん の 英 語 を 話 し て み ま し ょ う。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	英 語 スピーキング II (English Speaking II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	岡 部 佑 人								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 本 授 業 で は、英 語 を なる べ く 多 く 発 言 し て も ら う こ と を 目 標 と す る。多 くの 演 習 を こ な す こ と を 重 視 す る た め、正 確 性 は 二 の 次 と す る。									
授 業 目 標 : 1. 様 々 な 話 題 に つ い て、目 的 や 場 面、状 況 等 に 応 じ て 英 語 で 話 す こ と [や り 取 り ・ 発 表] が で き る。 2. 数 多 くの 英 語 を 話 す こ と 3. 相 手 の 英 語 の 発 音 を 聞 き 取 れ る よ う に な る こ と									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○						◎			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	Introduction (授 業 時 の 注 意、成 績 評 価 に つ い て の 確 認 を 行 う)					事 前 : な し 事 後 : 授 業 内 容 で 英 作 文		演 習 90 分	
2	The Arts (芸 術 に つ い て、英 語 で 話 せ る よ う に な る)					事 前 : 授 業 内 容 で 英 作 文 事 後 : 授 業 内 容 で 英 作 文		演 習 90 分	
3	Shopping (買 い 物 に つ い て、英 語 で 話 せ る よ う に な る)					事 前 : 授 業 内 容 で 英 作 文 事 後 : 授 業 内 容 で 英 作 文		演 習 90 分	
4	Friends (友 人、親 友 に つ い て、英 語 で 話 せ る よ う に な る)					事 前 : 授 業 内 容 で 英 作 文 事 後 : 授 業 内 容 で 英 作 文		演 習 90 分	
5	Sport (運 動、ス ポー ツ に つ い て、英 語 で 話 せ る よ う に な る)					事 前 : 授 業 内 容 で 英 作 文 事 後 : 授 業 内 容 で 英 作 文		演 習 90 分	
6	Politics (政 治 問 題 に つ い て、英 語 で 話 せ る よ う に な る)					事 前 : 授 業 内 容 で 英 作 文 事 後 : 授 業 内 容 で 英 作 文		演 習 90 分	
7	Animals (生 物、動 物 に つ い て、英 語 で 話 せ る よ う に な る)					事 前 : 授 業 内 容 で 英 作 文 事 後 : 授 業 内 容 で 英 作 文		演 習 90 分	
8	総 ま と め					事 前 : 授 業 内 容 で 英 作 文 事 後 : 授 業 内 容 で 英 作 文		演 習 90 分	
9	Money Matters (経 済、お 金 に つ い て、英 語 で 話 せ る よ う に な る)					事 前 : 授 業 内 容 で 英 作 文 事 後 : 授 業 内 容 で 英 作 文		演 習 90 分	
10	Cultural Identity (文 化 に つ い て、英 語 で 話 せ る よ う に な る)					事 前 : 授 業 内 容 で 英 作 文 事 後 : 授 業 内 容 で 英 作 文		演 習 90 分	
11	Family (家 族 に つ い て、英 語 で 話 せ る よ う に な る)					事 前 : 授 業 内 容 で 英 作 文 事 後 : 授 業 内 容 で 英 作 文		演 習 90 分	
12	Youth Culture (若 者 文 化 に つ い て、英 語 で 話 せ る よ う に な る)					事 前 : 授 業 内 容 で 英 作 文 事 後 : 授 業 内 容 で 英 作 文		演 習 90 分	
13	Dating and Marriage (デ ー ト、結 婚 に つ い て、英 語 で 話 せ る よ う に な る)					事 前 : 授 業 内 容 で 英 作 文 事 後 : 授 業 内 容 で 英 作 文		演 習 90 分	
14	Crime (犯 罪 に つ い て、英 語 で 話 せ る よ う に な る)					事 前 : 授 業 内 容 で 英 作 文 事 後 : 授 業 内 容 で 英 作 文		演 習 90 分	
15	Speech Test を 行 う。					事 前 : 授 業 内 容 で 英 作 文 事 後 : な し		演 習 90 分	
教 本 : イン タ ビ ュー で 学 ぶ 世 界 の 英 語 World Interviews Improving Listening and Speaking Skills (成 美 堂)					参 考 文 献 : 適 宜、授 業 内 で 紹 介 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 課 題 お よ び パ フ ォー マ ン ス (50%)、Speech Test (50%) を 総 合 し て 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : た く さ ん の 英 語 を 話 し て み ま し ょ う。									
オ フ ィ ス ア ワー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	英語通訳 I (English Translation I)						科目分類	専門科目	
担当教員	倉崎 祥子								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 国際化、情報化の時代と呼ばれる今日、海外との交流はますます盛んになり、英語コミュニケーションの重要性も増している。 この授業では、様々な分野においても活用度の高い英語表現を学ぶとともに、英語逐次通訳に通じる基礎学力を養成する。									
授業目標： 日常生活の会話、旅行会話、会議等における英語の基礎固めを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Introduction：授業の進め方と授業概要の説明（説明・質疑応答）					事前：— 事後：授業概要の復習		演習（説明 45分、質疑応答 45分）	
2	Conversation（英日・日英逐次通訳） （家族1-1）Hello, I'm Frank Tailor.					事前：— 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、通訳実践 45分）	
3	Conversation（英日・日英逐次通訳） （家族1-2）Christmas is coming soon.					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、通訳実践 45分）	
4	Conversation（英日・日英逐次通訳） （大学生生活2-1）Dick Myers is a sophomore.					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、通訳実践 45分）	
5	Conversation（英日・日英逐次通訳） （大学生生活2-2）Hello, I'm Janet Swanson.					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、通訳実践 45分）	
6	Conversation（英日・日英逐次通訳） （趣味3-1）Much of the popular music that we hear.					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、通訳実践 45分）	
7	Conversation（英日・日英逐次通訳） （趣味3-2）In Japan, classical music festivals are held.					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、通訳実践 45分）	
8	Conversation（英日・日英逐次通訳） （海外文化4-1）Hi, everyone. I'm Patricia Green.					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、通訳実践 45分）	
9	Conversation（英日・日英逐次通訳） （海外文化4-2）Most people know that British and...					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、通訳実践 45分）	
10	Conversation（英日・日英逐次通訳） （海外文化4-3）The famous Micky Mouse was born...					事前：前回内容の復習 事後：小テスト自己採点		演習（ロールプレイ 30分）小テスト 60分	
11	Conversation（英日・日英逐次通訳）国際交流 実践演習1（5-1）Good evening, ladies and gentlemen.					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、通訳実践 45分）	
12	Conversation（英日・日英逐次通訳）国際交流 実践演習1（5-2）This is my second visit to Burnaby.					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、通訳実践 45分）	
13	Conversation（英日・日英逐次通訳） 国際交流実践演習1（6-1）Ambassador Tan, welcome to...					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、通訳実践 45分）	
14	Conversation（英日・日英逐次通訳） 国際交流実践演習1（6-2）Governor Kinoshita, thank you...					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、通訳実践 45分）	
15	重要なポイントの解説と全体のまとめ。（解説・質疑応答）					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（解説 45分、質疑応答 45分）	
教本：Developing Interpreting Skills for Communication Ayako Saito Hiroko Kawauchi Yuko Yasutake 『通訳とコミュニケーションの総合演習』（南雲堂） ¥2,090＋税					参考文献： 適宜、紹介する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 楽しみながら英語の基礎固めをして、英語を大いに活用して下さい。語学力の獲得には、積極的に授業に関わる事が重要です。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	英語通訳Ⅱ (English Translation II)						科目分類	専門科目	
担当教員	倉崎 祥子								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 国際化、情報化の時代と呼ばれる今日、海外との交流はますます盛んになり、英語コミュニケーションの重要性も増している。 この授業では、様々な分野においても活用度の高い英語表現を学ぶとともに、英語逐次通訳に通じる基礎学力を養成する。									
授業目標： 日常生活の会話、旅行会話、会議等における英語の基礎固めを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Introduction：授業の進め方と授業概要の説明（説明・質疑応答）					事前：なし 事後：授業概要の復習		演習（説明 45分、質疑応答 45分）	
2	Conversation（英日・日英逐次通訳） （日本の文化1-1）					事前：なし 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、通訳実践 45分）	
3	Conversation（英日・日英逐次通訳） （日本の文化1-2）					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、通訳実践 45分）	
4	Conversation（英日・日英逐次通訳） （日本の文化1-3）					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、通訳実践 45分）	
5	Conversation（英日・日英逐次通訳） （数字で説明する私たちの世界2-1）					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、通訳実践 45分）	
6	Conversation（英日・日英逐次通訳） （数字で説明する私たちの世界2-2）					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、通訳実践 45分）	
7	Conversation（英日・日英逐次通訳） （観光3-1）					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、通訳実践 45分）	
8	Conversation（英日・日英逐次通訳） （観光3-2）					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、通訳実践 45分）	
9	Conversation（英日・日英逐次通訳） （社会事情1） 少子高齢化1					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、通訳実践 45分）	
10	Conversation（英日・日英逐次通訳） （社会事情1） 少子高齢化2					事前：前回内容の復習 事後：小テスト自己採点		演習（ロールプレイ 45分、通訳実践 45分）	
11	Conversation（英日・日英逐次通訳） （社会事情2） 都市と過疎化1					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、通訳実践 45分）	
12	Conversation（英日・日英逐次通訳） （社会事情2） 都市と過疎化2					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、通訳実践 45分）	
13	コミュニケーション 実践演習（3-1）					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、通訳実践 45分）	
14	コミュニケーション 実践演習（3-2）					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、通訳実践 45分）	
15	Summary：重要なポイントの解説と全体のまとめ。					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（解説 45分、質疑応答 45分）	
教本：Developing Interpreting Skills for Communication Ayako Saito Hiroko Kawauchi Yuko Yasutake 『通訳とコミュニケーションの総合演習』（南雲堂） ¥2,090+税					参考文献： 適宜、紹介する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 楽しみながら英語の基礎固めをして、英語を大いに活用して下さい。語学力の獲得には、積極的に授業に関わる事が重要です。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	英 語 プレゼンテーション A (English Presentation A)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	OTC								
履 修 条 件	前 提 科 目	基 礎 的 な スピーキング力があることを前提とします。英語スピーキング I、II の履修を推奨します。							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>ネイティブ講師が担当します。英語で伝わるプレゼンテーションスキルを基礎から学びます。プレゼンテーションの基本構成からジェスチャー、アイコンタクトなどの重要スキルをレッスン毎に学習します。ミニプレゼンテーションによる人前での発表や、ブレインストーミングなどグループワークによる議論を深めることで、能動的な各学生の参加を促します。学生が自分の意見を発信できる能力を高めます。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>①身近な話題について自信を持って英語でのプレゼンテーションができるようになる②積極的に授業に参加し、グループワークを通じて、毎週様々なトピックについて、自らの意思を発言したり、相手の意見を聞いてディスカッションしたりできるようになる。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	Getting ready (プレゼンの基本事項の確認)、Self-Introductions (自己紹介): プレゼンテーションの概要の学習。問題点を検討。					事前: プレゼン語彙を調べる 事後: プレゼン語彙の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
2	Unit 1 A good friend (パーソナリティや興味のあることなどについて話す): クラスメイトと各自のプロフィールについて話す。					事前: 自己紹介の語彙の予習 事後: 自己紹介の語彙の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
3	Unit 1 A good friend (パーソナリティや興味のあることなどについて話す): 興味のあることを相手に説明する。					事前: 興味、関心語彙の予習 事後: 興味、関心語彙を確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
4	Unit 1 A good friend (プレゼンテーションの始め方、終わり方): プレゼンの定型表現を学習する。					事前: プレゼン定型文の予習 事後: プレゼン定型文の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
5	Unit 1 A good friend (アイコンタクト): 効果的なプレゼンテーションのためのスキルを学習する。					事前: プレゼンスキルの予習 事後: アイコンタクトの確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
6	Unit 1 A good friend (意見交換、ミニプレゼン): ブレインストーミングとミニプレゼン、グループワーク問題点を検討。					事前: プレゼン定型文の確認 事後: プレゼン定型文の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
7	Unit 2 A favourite place (好きな場所について話す): 場所を説明する語彙を学習する。					事前: 好きな場所を考える 事後: 学習した語彙の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
8	Unit 2 A favourite place (プレゼンテーションの始め方、終わり方): 聴衆が持てるように終わる表現を学習する。					事前: 導入と締め表現の予習 事後: 締めの表現の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
9	Unit 2 A favourite place (ジェスチャー、ボディランゲージ): 姿勢や手の位置の良い例と悪い例を学習する。					事前: プレゼンスキルの予習 事後: ジェスチャーの確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
10	Unit 2 A favourite place (意見交換、ミニプレゼン): ブレインストーミングとミニプレゼン、グループワーク問題点を検討。					事前: プレゼン定型文の確認 事後: プレゼン定型文の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
11	Unit 3 A prize possession (自分の宝物について話す): 自慢の物を相手に説明する。					事前: 所有物の説明の予習 事後: 所有物の説明の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
12	Unit 3 A prize possession (どのような物なのか説明する): 色、形、模様、大きさ、材質などを説明する。					事前: 物の説明表現の予習 事後: 材質などの語彙の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
13	Unit 3 A prize possession (物を見せながら説明する): 相手に興味を持たせながら説明する。					事前: Show-and-tellの学習 事後: Show-and-tellの確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
14	Unit 3 A prize possession (意見交換、ミニプレゼン): ブレインストーミングとミニプレゼン、グループワーク問題点を検討。					事前: プレゼン定型文の確認 事後: プレゼン定型文の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
15	Final Presentations (グループワーク、模擬プレゼンテーションと質疑応答)					事前: 模擬プレゼンの準備 事後: 後期授業の総復習		講義 10分、ディスカッション 20分、発表 60分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
Present Yourself 1, 2 nd edition (Cambridge 出版)									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
平常点 (60%)、課題およびパフォーマンス (40%) を総合して評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
人前でのプレゼンテーションだけでなく、事前の準備及び学生同士での意見交換により、自分の意見を英語でいかに伝えたいのかを学びます。英語での発表力及び発信力を身につけるために積極的に授業に参加してください。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	英 語 プレゼンテーション B (English Presentation B)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	OTC								
履 修 条 件	前 提 科 目	基 礎 的 な スピーキング力があることを前提とします。英語スピーキング I、II の履修を推奨します。							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>ネイティブ講師が担当します。英語で伝わるプレゼンテーションスキルを基礎から学びます。プレゼンテーションの基本構成からジェスチャー、アイコンタクトなどの重要スキルをレッスン毎に学習します。ミニプレゼンテーションによる人前での発表や、ブレインストーミングなどグループワークによる議論を深めることで、能動的な各学生の参加を促します。学生が自分の意見を発信できる能力を高めます。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>①身近な話題について自信を持って英語でのプレゼンテーションができるようになる②積極的に授業に参加し、グループワークを通じて、毎週様々なトピックについて、自らの意思を発言したり、相手の意見を聞いてディスカッションしたりできるようになる。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	Getting ready (プレゼンの基本事項の確認), Self-Introductions (自己紹介): プレゼンテーションの概要の学習。問題点を検討。					事前: プレゼン語彙を調べる 事後: プレゼン語彙の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
2	Unit 4 A memorable experience (自分の経験したことを話す): 感動したこと、恐ろしかったこと、驚いたことなどを説明する。					事前: 感情の語彙を調べる 事後: 経験の語彙の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
3	Unit 4 A memorable experience (物事を順序立てて話す): 連続した場面を順序立てて説明する。					事前: 物語の説明語彙の予習 事後: 順序の表現を確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
4	Unit 4 A memorable experience (始め方、終わり方など): "pass the mike"/効果的なプレゼンの終わり方					事前: プレゼン定型文の予習 事後: プレゼン定型文の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
5	Unit 4 A memorable experience (声の大きさに注意する): 声の大きさや抑揚に気をつけて話す。					事前: プレゼンスキルの予習 事後: アイコンタクトの確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
6	Unit 4 A memorable experience (ミニプレゼン): ブレインストーミングとミニプレゼン、グループワーク、問題点を検討。					事前: プレゼン定型文の確認 事後: プレゼン定型文の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
7	Unit 5 I'll show you how (技術や能力について話す): 個人の技術力や才能とその有益性について話す。					事前: 自分のスキルを考える 事後: スキルの語彙の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
8	Unit 5 I'll show you how (料理手順を説明する): 動作や変化を順序立てて説明する。					事前: 動作表現の予習 事後: 説明語彙の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
9	Unit 5 I'll show you how (ジェスチャーを的確に説明する): 動作をしながら、その動きを説明する。					事前: 動作説明表現の予習 事後: ジェスチャーの確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
10	Unit 5 I'll show you how (意見交換、ミニプレゼン): ブレインストーミングとミニプレゼン、グループワーク、問題点を検討。					事前: プレゼン定型文の確認 事後: プレゼン定型文の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
11	Unit 6 Screen magic (映画やテレビ番組について説明する): 画面の情報を説明する。					事前: 映画の説明表現の予習 事後: 情報の説明表現の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
12	Unit 6 Screen magic (聴衆に映画をお勧めして終わる): 効果的な終わり方を学習する。					事前: 映画の推奨表現の理解 事後: 終わり方の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
13	Unit 6 Screen magic (文の中での抑揚や間を意識して発表する): 効果的な話し方を学習する。					事前: 抑揚と間の効果の理解 事後: 抑揚と間の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
14	Unit 6 Screen magic (意見交換、ミニプレゼン): ブレインストーミングとミニプレゼン、グループワーク、問題点を検討。					事前: プレゼン定型文の確認 事後: プレゼン定型文の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
15	Final Presentations (グループワーク、模擬プレゼンテーションと質疑応答)					事前: 模擬プレゼンの準備 事後: 後期授業の総復習		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
Present Yourself 1, 2 nd edition (Cambridge 出版)									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
平常点 (60%)、課題およびパフォーマンス (40%) を総合して評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
人前でのプレゼンテーションだけでなく、事前の準備及び学生同士での意見交換により、自分の意見を英語でいかに伝えたいのかを学びます。英語での発表力及び発信力を身につけるために積極的に授業に参加してください。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	英 語 文 学 I (English Literature I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	阿 部 美 恵								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
イギリスを代表する作家ジェイン・オースティン (Jane Austen) の小説、『ノーサンガー・アビー』(Northanger Abbey, 1818) を取り上げ、内容を理解するための設問、文法力の定着を図る問題、リスニング力を向上させる練習問題によって、作品理解、様々な英語表現の習得、多様な文化の理解を図る。									
授 業 目 標 :									
一年間を通して一人の作家の作品を精読・鑑賞することを通して、読解力を向上させ、多様な英語表現を学ぶことを目標とする。併せて、作家や作品について、時代的、社会的、文化的背景を学ぶことによって、多様な文化への理解を深めることを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ジェイン・オースティンと時代についての概説					事前：シラバスを読む 事後：授業の復習をする		解説と質疑応答	
2	ジェイン・オースティンと時代についての概説					事前：なし 事後：授業の復習をする		解説と質疑応答	
3	Chapter 1 Get ready with vocabulary, Enjoy the story, Listening and oral practice					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
4	Chapter 1 Review the story, Tips for reading, Grammatical check					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
5	Chapter 2 Get ready with vocabulary, Enjoy the story, Listening and oral practice					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
6	Chapter 2 Review the story, Tips for reading, Grammatical check					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
7	Chapter 3 Get ready with vocabulary, Enjoy the story, Listening and oral practice					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
8	Chapter 3 Review the story, Tips for reading, Grammatical check					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
9	Chapter 1~Chapter 3までの復習					事前：Chapter 1~3を復習 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
10	Chapter 4 Get ready with vocabulary, Enjoy the story, Listening and oral practice					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
11	Chapter 4 Review the story, Tips for reading, Grammatical check					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
12	Chapter 5 Get ready with vocabulary, Enjoy the story, Listening and oral practice					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
13	Chapter 5 Review the story, Tips for reading, Grammatical check					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
14	Chapter 6 Get ready with vocabulary, Enjoy the story, Listening and oral practice					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
15	Chapter 6 Review the story, Tips for reading, Grammatical check					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
教 本 : <i>Nothanger Abbey</i> (英宝社)					参 考 文 献 :				
					授 業 中 に 適 宜 資 料 を 配 布 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授 業 参 加 状 況 等 (50%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (20%)、定 期 試 験 (30%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
常 に 世 界 の 出 来 事 に 関 心 を 持 ち、積 極 的 に 授 業 に 参 加 し て く だ さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 の 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	英語文学Ⅱ (English Literature Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	阿部 美恵								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>イギリスを代表する作家ジェイン・オースティン (Jane Austen) の小説、『ノーサンガー・アビー』(Northanger Abbey, 1818) を取り上げ、内容を理解するための設問、文法力の定着を図る問題、リスニング力を向上させる練習問題によって、作品理解、様々な英語表現の習得、多様な文化の理解を図る。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>一年間を通して一人の作家の作品を精読・鑑賞することを通して、読解力を向上させ、多様な英語表現を学ぶことを目標とする。併せて、作家や作品について、時代的、社会的、文化的背景を学ぶことによって、多様な文化への理解を深めることを目標とする。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	Chapter 1~Chapter 6の復習					事前：なし 事後：授業の復習をする		解説と質疑応答	
2	Chapter 7 Get ready with vocabulary, Enjoy the story, Listening and oral practice					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
3	Chapter 7 Review the story, Tips for reading, Grammatical check					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
4	Chapter 8 Get ready with vocabulary, Enjoy the story, Listening and oral practice					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
5	Chapter 8 Review the story, Tips for reading, Grammatical check					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
6	Chapter 9 Get ready with vocabulary, Enjoy the story, Listening and oral practice					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
7	Chapter 9 Review the story, Tips for reading, Grammatical check					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
8	Chapter 10 Get ready with vocabulary, Enjoy the story, Listening and oral practice					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
9	Chapter 10 Review the story, Tips for reading, Grammatical check					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
10	Chapter 11 Get ready with vocabulary, Enjoy the story, Listening and oral practice					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
11	Chapter 12 Review the story, Tips for reading, Grammatical check					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
12	Chapter 12 Get ready with vocabulary, Enjoy the story, Listening and oral practice					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
13	Chapter 13 Review the story, Tips for reading, Grammatical check					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
14	ジェイン・オースティンと19世紀女性作家について					事前：なし 事後：授業の復習をする		解説と質疑応答	
15	ジェイン・オースティンと19世紀女性作家について					事前：なし 事後：授業の復習をする		解説と質疑応答	
教本：Northanger Abbey(英宝社)					参考文献： 授業中に適宜資料を配布する。				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>授業参加状況等 (50%)、小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (30%) 等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>常に世界の出来事に関心を持ち、積極的に授業に参加してください。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	英語ライティング I (English Writing I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	岡部 佑人								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができるようになることを目的とする。そのため、受講者は英語の文章を授業内外で書くことになる。									
授業目標： 1. 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができる。 2. 複数の領域を統合した言語活動を遂行することができる。 3. 多くの語彙に触れ、能動語彙を強化する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Introduction（シラバス内容の確認をし、実際に英文を書く）					事前：なし 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
2	人主語（英語における主語が人である事例について、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
3	無生物主語（英語における主語が物や事柄である事例について、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
4	時制（英語の時制の中でも特に現在形と過去形について理解し、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
5	冠詞（1）（不定冠詞について理解し、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
6	冠詞（2）（定冠詞について理解し、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
7	可算名詞（可算名詞について理解し、冠詞との兼ね合いも含めて書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
8	不可算名詞（不可算名詞について理解し、冠詞との兼ね合いも含めて書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
9	形容詞（1）（形容詞が名詞を修飾する場合について理解し、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
10	形容詞（2）（形容詞が主語に対しての補語になる場合について理解し、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
11	副詞：（形容詞以外の修飾語として、副詞を理解する）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
12	時制の一致（時制の一致について理解し、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
13	二つの品詞性（二つの品詞性について理解し、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
14	その他、取り扱わなかった文法項目の概観					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
15	総まとめ（内容の概観を行う）					事前：授業内容で英作文 事後：なし		演習 90分	
教本： なし					参考文献： 適宜、授業内で紹介する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 課題およびパフォーマンス（100%）で評価する。									
学生へのアドバイス： たくさんの英語を書いてみましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	英語ライティングⅡ (English Writing II)						科目分類	専門科目	
担当教員	岡部 佑人								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができるようになることを目的とする。そのため、受講者は英語の文章を授業内外で書くことになる。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>1. 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができる。</p> <p>2. 複数の領域を統合した言語活動を遂行することができる。</p> <p>3. 多くの語彙に触れ、能動語彙を強化する。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Introduction（シラバス内容の確認をし、実際に英文を書く）					事前：なし 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
2	名詞構文(1)（名詞構文の中でも基本的な用法である原因を示す事例を理解し、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
3	名詞構文(2)（名詞構文の中でも時や条件を表す事例を理解し、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
4	助動詞(1)（助動詞の根源的用法について理解し、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
5	助動詞(2)（助動詞の認知的用法について理解し、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
6	不定詞（不定詞の本質について理解し、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
7	動名詞（動名詞の本質について理解し、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
8	不可算名詞（不可算名詞について理解し、冠詞との兼ね合いも含めて書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
9	否定(1)（否定について理解し、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
10	否定(2)（否定のなかでも含意否定や部分否定の例も含め、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
11	受動態（能動態と受動態の両方を書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
12	比較（同等比較・比較級・最上級について理解し、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
13	代名詞 It（Itについて理解し、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
14	副詞（副詞の種類について理解し、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
15	総まとめ（内容の概観を行う）					事前：授業内容で英作文 事後：なし		演習 90分	
教本： なし					参考文献： 適宜、授業内で紹介する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 課題およびパフォーマンス（100%）で評価する。									
学生へのアドバイス： たくさんの英語を書いてみましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	英語リスニング I (English Listening I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	岡部 佑人								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： この授業はBBC Newsを聞きます。最初は難しいと思いますが、3ヶ月もすれば、自信がってきます。何度も繰り返すことで、身につきますので、何度も聞くようにしてください。最終的に英語リスニングの力を高め、英検合格への足がかりとなれば幸いです。									
授業目標： 1. 様々なジャンルや話題の英語を読んで、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 2. その中でも特に、BBC Newsを聞き取れるようになることを目標とする。 3. 英検準二級程度の英語を聞き取れるようになる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Introduction, BBC News について					事前：なし 事後：音声の復習		演習 90分	
2	主語（BBC Newsの主語の特徴について理解し、聞き取れるようになる）					事前：音声の復習 事後：音声の復習		演習 90分	
3	同格（BBC Newsの主語に対する同格の特徴について理解し、聞き取れるようになる）					事前：音声の復習 事後：音声の復習		演習 90分	
4	動詞（BBC Newsの動詞の特徴について理解し、聞き取れるようになる）					事前：音声の復習 事後：音声の復習		演習 90分	
5	主語と動詞（BBC Newsの主語と動詞の特徴について理解し、聞き取れるようになる）					事前：音声の復習 事後：音声の復習		演習 90分	
6	目的語及び補語（BBC Newsの目的語及び補語の特徴について理解し、聞き取れるようになる）					事前：音声の復習 事後：音声の復習		演習 90分	
7	前置詞（BBC Newsの目的語及び補語の特徴について理解し、聞き取れるようになる）					事前：音声の復習 事後：音声の復習		演習 90分	
8	英検のリスニング（BBC Newsで培ったリスニング力が英検に生かせることを確認する）					事前：音声の復習 事後：音声の復習		演習 90分	
9	書き取り（BBC Newsを実際に書き取る）					事前：音声の復習 事後：ディクテーション		演習 90分	
10	固有名詞（BBC Newsの固有名詞について理解し、聞き取れるようになる）					事前：ディクテーション 事後：ディクテーション		演習 90分	
11	イントネーション（英語のイントネーションについて理解し、聞き取れるようになる）					事前：ディクテーション 事後：ディクテーション		演習 90分	
12	アクセント（英語のアクセントについて理解し、聞き取れるようになる）					事前：ディクテーション 事後：ディクテーション		演習 90分	
13	ピッチ（英語のピッチについて理解し、聞き取れるようになる）					事前：ディクテーション 事後：ディクテーション		演習 90分	
14	接続詞（BBC Newsの接続詞について理解し、聞き取れるようになる）					事前：ディクテーション 事後：ディクテーション		演習 90分	
15	書き取り（BBC Newsを実際に書き取る）および総まとめ					事前：ディクテーション 事後：なし		演習 90分	
教本： BBC Newsの音声を用います。					参考文献： 適宜、授業内で紹介します。				
成績評価の方法、評価基準： 定期試験（100%）で評価する。									
学生へのアドバイス： 英語を精読してみましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	英語リスニングⅡ (English Listening Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	岡部 佑人								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： この授業はBBC Newsを聞きます。最初は難しいと思いますが、3ヶ月もすれば、自信がってきます。何度も繰り返すことで、身につきますので、何度も聞くようにしてください。最終的に英語リスニングの力を高め、英検合格への足がかりとなれば幸いです。									
授業目標： 1. 様々なジャンルや話題の英語を読んで、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 2. その中でも特に、BBC Newsを聞き取れるようになることを目標とする。 3. 英検二級程度の英語を聞き取れるようになる。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	Introduction, BBC News について					事前：なし 事後：音声の復習		演習 90分	
2	主語 (BBC Newsの主語の特徴について理解し、より聞き取れるようになる)					事前：音声の復習 事後：音声の復習		演習 90分	
3	同格 (BBC Newsの主語に対する同格の特徴について理解し、より聞き取れるようになる)					事前：音声の復習 事後：音声の復習		演習 90分	
4	動詞 (BBC Newsの動詞の特徴について理解し、より聞き取れるようになる)					事前：音声の復習 事後：音声の復習		演習 90分	
5	主語と動詞 (BBC Newsの主語と動詞の特徴について理解し、より聞き取れるようになる)					事前：音声の復習 事後：音声の復習		演習 90分	
6	目的語及び補語 (BBC Newsの目的語及び補語の特徴について理解し、より聞き取れるようになる)					事前：音声の復習 事後：音声の復習		演習 90分	
7	前置詞 (BBC Newsの目的語及び補語の特徴について理解し、より聞き取れるようになる)					事前：音声の復習 事後：音声の復習		演習 90分	
8	英検のリスニング (BBC Newsで培ったリスニング力が英検に生かせることを確認する)					事前：音声の復習 事後：音声の復習		演習 90分	
9	書き取り (BBC News を実際に書き取る)					事前：音声の復習 事後：ディクテーション		演習 90分	
10	固有名詞 (BBC Newsの固有名詞について理解し、より聞き取れるようになる)					事前：ディクテーション 事後：ディクテーション		演習 90分	
11	イントネーション (英語のイントネーションについて理解し、より聞き取れるようになる)					事前：ディクテーション 事後：ディクテーション		演習 90分	
12	アクセント (英語のアクセントについて理解し、より聞き取れるようになる)					事前：ディクテーション 事後：ディクテーション		演習 90分	
13	ピッチ (英語のピッチについて理解し、より聞き取れるようになる)					事前：ディクテーション 事後：ディクテーション		演習 90分	
14	接続詞 (BBC Newsの接続詞について理解し、より聞き取れるようになる)					事前：ディクテーション 事後：ディクテーション		演習 90分	
15	書き取り (BBC News を実際に書き取る) および総まとめ					事前：ディクテーション 事後：なし		演習 90分	
教本： BBC Newsの音声を用います。					参考文献： 適宜、授業内で紹介します。				
成績評価の方法、評価基準： 定期試験 (100%) で評価します。									
学生へのアドバイス： 英語を精読してみましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	英語リーディングⅠ (English Reading Ⅰ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	岡部 佑人								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 英文学を中心に、様々な英文に触れていく授業です。テキストの予習を強くすすめます。予習方法は担当より説明を行います。英文学の文章に触れ、英語への感性を磨くことを目標としています。									
授業目標： 1. 様々なジャンルや話題の英語を読んで、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 2. 英文学作品について、自分なりの考え方を表明することができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	英文コーパスについて知る。					事前：なし 事後：英文の予習		演習 90分	
2	「85歳の老人」（以下、括弧内はテキスト中の内容・キーワードを示す）の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
3	「オルダーニー牛の反芻」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
4	「ボジニー青年」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
5	「カタツムリ」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
6	「お住まいはどちらですか」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
7	「アイリーニを幸せに」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
8	「30年前に買ったワイン」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
9	「黄金時代の詩」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
10	「思いの丈、泣かせてあげよう」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
11	「コテージピアノ」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
12	「人を深く愛したことがありますか」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
13	「見た目は穏やか」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
14	総まとめおよび質問受付を行う。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
15	総まとめおよび質問受付を行う。					事前：英文の予習確認 事後：なし		演習 90分	
教本： なし					参考文献： 教本は用いませんが、必要に応じてテキストの配布を行います。				
成績評価の方法、評価基準： 小テスト・レポート等（100%）で評価する。									
学生へのアドバイス： 英語を丁寧に読むようにして下さい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	英語リーディングⅡ (English Reading Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	岡部 佑人								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>英文学を中心に、様々な英文に触れていく授業です。テキストの予習を強くすすめます。予習方法は担当より説明を行います。英文学の文章に触れ、英語への感性を磨くことを目標としています。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>1. 受講生は、様々なジャンルの英文を読み、目的に応じて情報や考え方を整理することができる。</p> <p>2. 英文学作品について、自分なりの考え方を表明することができる。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	英文コーパスについて知る。					事前：なし 事後：英文の予習		演習 90分	
2	「お見せできる一番の花」(以下、テキスト中の内容・キーワードを示す)の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
3	「あの犬は引っ掻く」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
4	「そのうち、なんとかなるでしょう」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
5	「さて、いくらにしようか？」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
6	「ロンドンへ行く用事」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
7	「スマイレの香り」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
8	「充実して過ごす」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
9	「三本か四本か」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
10	「ピアノのレッスン」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
11	「カルメン」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
12	「命」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
13	「4時が過ぎていた」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
14	総まとめおよび質問受付を行う。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
15	総まとめおよび質問受付を行う。					事前：英文の予習確認 事後：なし		演習 90分	
<p>教本：なし</p>					<p>参考文献：教本は用いませんが、必要に応じてテキストの配布を行います。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト・レポート等（100%）で評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 英語を丁寧に読むようにして下さい。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	エコツーリズム (Ecotourism)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	古賀 学								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： エコツーリズムの理念を踏まえて、国内外で実施されているエコツーリズムを検証することにより、自然の保護と観光活用のあり方について修得する。									
授業目標： ①エコツーリズムの理念と構造について修得する。 ②観光における環境保全・地域資源保護と利用のあり方について修得する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態		
1	エコツーリズム論の構造：エコツーリズムの学問的体系について修得する。			事前：エコツーリズムの意味について理解する。 事後：エコツーリズム論の体系を確認する。			復習 10分、講義 70分、理解度テスト 10分		
2	エコツーリズムの概念：エコツーリズムの発祥、理念、経緯等について修得する。			事前：エコツーリズムの歴史的経緯について考究する。 事後：エコツーリズムの理念について整理する。			復習 10分、講義 70分、理解度テスト 10分		
3・4	エコツーリズムと施策・法律：エコツーリズム推進法等関連法規及び国等行政における関連施策の内容について修得する。			事前：エコツーリズムに関する国の施策を考究する。 事後：政府エコツーリズムの施策について整理する。			復習 10分、講義 70分、理解度テスト 10分		
5	エコツーリズムの分類：エコツーリズムが目指す地域振興の目的と意義、保護と活用のあり方等によるエコツーリズムの分類について修得する。			事前：エコツーリズムと地域のあり方について考究する。 事後：自然資源の保護と活用について整理する。			復習 10分、講義 70分、理解度テスト 10分		
6・7	屋久島とエコツーリズム：屋久島のエコツーリズムの現状、屋久島公認ガイドなどエコツーリズムガイドの役割、制度等について修得する。			事前：地域ガイドの種類について考究する。 事後：エコツーリズムガイドの必要性について整理する。			復習 10分、講義 70分、理解度テスト 10分		
8	小笠原とエコツーリズム：小笠原におけるエコツーリズムの仕組みと旅行商品特性等について修得する。			事前：小笠原の観光の現状について考究する。 事後：自然と観光のあるべき姿について整理する。			復習 10分、講義 70分、理解度テスト 10分		
9	ニュージーランドとエコツーリズム：ミルフォードトラックを始めニュージーランドのエコツーリズムの現状、パッケージ型旅行商品の構造について修得する。			事前：ニュージーランドの観光特性について考究する。 事後：パッケージ型旅行商品の利点について整理する。			復習 10分、講義 70分、理解度テスト 10分		
10	ネパールとエコツーリズム：高地トレッキングなどエコツーリズムの現状、地域開発と環境変化等について修得する。			事前：ネパールの観光について考究する。 事後：ネパールにおける観光開発の法律を整理する。			復習 10分、講義 70分、理解度テスト 10分		
11	エコツーリズムと計画：エコツアー及び受入体制の整備等エコツーリズム実現のためのプロセス及び計画要素について修得する。			事前：“計画”について考究する。 事後：エコツーリズム計画のプロセスを整理する。			復習 10分、講義 70分、理解度テスト 10分		
12・13	エコツアーと旅行商品化：エコツアーの種類、実施内容及び受入体制と地域波及効果について修得する。			事前：エコツアーの既存商品について調査する。 事後：エコツアー実施における地域経済効果について整理する。			復習 10分、講義 70分、理解度テスト 10分		
14	エコツーリズム関連ツアー：ジオ・ツーリズム、里山観光など自然との人間とのかかわりをテーマとしたツアーの検証により、エコツーリズムの今後を考える。			事前：エコ関連ツアーの既存商品について調査する。 事後：エコ関連ツアー実施における地域経済効果について整理する。			復習 10分、講義 70分、理解度テスト 10分		
15	これからのエコツーリズム：今までの講義をもとにこれからのエコツーリズムのあり方について議論する。			事前：講義の総復習 事後：ワークショップのまとめ			復習 20分 ワークショップ 70分		
教本： テキストは授業ごとにプリントを配布する。				参考文献： 適宜指示する。					
成績評価の方法、評価基準： 定期試験及び平常点を加味する。									
学生へのアドバイス： 観光を構成する事柄について全般的に学ぶ授業です。自身の興味の方向を見出すつもりで受講してください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。基本的には在席中はいつでも可。									

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	SDGsと人口 (Sustainable Development Goals and Population)							科目分類	基礎科目
担当教員	松浦 広明								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	メールおよび授業Websiteを定期的にチェックすることができること							
授業概要： 2015年9月25日、日本を含む193か国の指導者たちは、2030年までに達成すべき17個の目標と169のターゲットである「持続可能な開発目標 (SDGs)」の採択に合意しました。本講義では、人口学の視点から、2030年におけるSDGsの達成に向け、世界が直面している課題と、それに対する日本および世界の取り組みについて概観します。									
授業目標： 持続可能な開発目標 (SDGs) 達成に向けた日本および世界全体の取り組みを理解し、その中で自分がどのように貢献できるかを考え、最終的に実行に結びつけること。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)			事前・事後学習 (学習課題)			授業形態		
1	SDGsに向けて			事前：なし 事後：第2章 (佐藤・松浦)			講義		
2	経済成長・発展とその決定要因			事前：第7章 (佐藤・松浦) Ch3/4. (Sachs) 事後：授業の復習			講義		
3	貧困と不平等			事前：Ch2. (Sachs) 事後：授業の復習			講義		
4	国際機関の取り組み			事前：Handout 事後：授業の復習			講義		
5	人口と経済			事前：UNFPA (2012) 事後：授業の復習			講義		
6	移民と難民			事前：第14章 (田中) 事後：授業の復習			講義		
7	教育と労働			事前：Ch8. (Sachs) 事後：課題			講義		
8	こどもと女性			事前：第4章 (佐藤・松浦) 事後：課題			講義		
9	グローバル・ヘルスの挑戦：MDGsの下でのGH			事前：Ch9. (Sachs) 事後：授業の復習			講義		
10	グローバル・ヘルスの挑戦：SDGsの下でのGH			事前：前回の授業の復習 事後：授業の復習			講義		
11	グローバル・ヘルスの挑戦：新型コロナウイルスと世界			事前：前回の授業の復習 事後：授業の復習			講義		
12・13	国際観光・国際防災協力とレジリエントな都市			事前：世界観光ランキング(World Tourism Barometer)Ch11. (Sachs) 事後：なし			講義		
(12・13)	JICA 横浜での研修			事前：Handout 事後：課題			演習		
14	SDGsとデータ			事前：第9章 (佐藤・松浦) 事後：なし			講義		
15	まとめ			事前：レポート課題 事後：レポート課題			講義		
教本： 佐藤・松浦「SDGsの人口学」(人口学ライブラリー) 原書房, 2023				参考文献： 田中治彦、三宅隆史、湯本浩之編「SDGsと開発教育：持続可能な開発目標ための学び」学分社、2016 Sachs, J. "The Age of Sustainable Development" Columbia University Press, New York, USA; 2015					
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等 (50%)、小テスト・レポート等 (50%) で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 定期的にメール・授業ウェブサイトを確認できること。									
オフィスアワー：初回講義日に伝える。									

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	SDGsの政治経済学 (Political Economy of Sustainable Development Goals)							科目分類	基礎科目
担当教員	松浦 広明								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	メールおよび授業Websiteを定期的にチェックすることができること							
<p>授業概要：2015年9月25日、日本を含む193か国の指導者たちは、2030年までに達成すべき17個の目標と169のターゲットで構成された「持続可能な開発目標 (SDGs)」の採択に合意しました。本講義では、2030年におけるSDGsの達成に向け、世界が直面している課題と、それに対する日本および世界の取り組みについて概観します。また、現在、第一線で活躍されている経験豊富なプロフェッショナルの方々を招いて、直接、現場の体験を聞くことにより、将来、自らの専門性を生かし、SDGsの達成に自分がどのように貢献していけるのか、国際開発の世界でどうキャリアを築いていくのか、その道を模索する為のヒントと将来のキャリア像を提供します。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>①持続可能な開発目標 (SDGs) 達成に向けた日本および世界全体の取り組みを理解し、その中で自分がどのように貢献できるかを考え、最終的に実行に結びつけること。</p> <p>②国連機関とのパートナーシップ等、松蔭大学が持っているリソースを利用して、学生として大学を通し、どのようにSDGsに貢献していけるかを考え、最終的に実行に結びつけること。</p> <p>③海外での大学院進学や国際開発のキャリアを歩んでいきたい学生に必要な情報とネットワークを作る機会を与えること。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)				事前・事後学習 (学習課題)			授業形態	
1	前期の復習				事前：Handout 事後：授業の復習			講義	
2	人権				事前：なし 事後：授業の復習			講義	
3	産業と技術革新				事前：第10章 (田中) 事後：授業の復習			講義	
4	公開講義：地球温暖化の現状と苫小牧 CCS 実証試験について				事前：第11章 (田中) 事後：授業の復習			講義	
5	国際貿易				事前：なし 事後：授業の復習			講義	
6	多国籍企業と BOP 戦略				事前：なし 事後：課題			講義	
7	ビジネスと人権				事前：5回講義時に指示する 事後：課題			講義	
8	法と制度				事前：なし 事後：課題			講義	
9	戦争・紛争・テロ				事前：第9章 事後：課題			講義	
10	経済制裁				事前：Handout 事後：課題			講義	
11	水と衛生				事前：第6章 (佐藤・松浦) 事後：課題			講義	
12	地球温暖化				事前：Ch12. (Sachs) 事後：課題			講義	
13	生物多様性				事前：Ch13. (Sachs) 事後：課題			講義	
14	循環経済				事前：Handout 事後：課題			講義	
15	まとめ				事前：レポート課題 事後：レポート課題			講義	
<p>教本： 参考文献：田中治彦、三宅隆史、湯本浩之編「SDGsと開発教育:持続可能な開発目標ための学び」学人社、2016 佐藤・松浦「SDGsの人口学」 Sachs, J. "The Age of Sustainable Development" Columbia University Press, New York, USA; 2015 (人口学ライブラリー) 原書房, 2023</p>									
成績評価の方法、評価基準：授業参加状況等 (50%)、小テスト・レポート等 (50%) で総合評価する。									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>定期的にメール・授業ウェブサイトを確認できること。</p>									
オフィスアワー：初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	応用データ処理 (Data Processing for Data Science)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	井上 明也								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	EXCEL が使用可能なノートパソコンを用意すること							
<p>授業概要：</p> <p>ビッグデータや人工知能 (AI) 技術の活用領域は急速に拡大しており、デジタル社会の基礎知識として、データサイエンスや AI に関する知識、技術を習得することが望まれている。本講義では、データサイエンス関連科目を学ぶために必要な基礎知識であるデータ処理技術の習得を目指す。本講義では、サンプルデータによる演習課題を通してデータ処理技術とその活用法を学ぶ。</p> <p>授業目標：</p> <p>データの基本処理、グラフ化を始めとする可視化処理、データの加工処理、関数やプログラミングによる算出処理など、データ処理・分析のために必要となる表計算ソフトの基本操作から高度な活用法までの習得を目指す。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	シラバスの説明、データ処理・分析の概説					事前：シラバスを読む 事後：資料を復習する		講義	
2	表計算ソフトの基本操作と作表の基礎					事前：前回の資料を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
3	数式と基本関数の利用法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
4	絶対/相対参照を活用したデータ算出処理					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
5	グラフの作成の基本操作と書式変更処理					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
6	分析目的に適した作表・グラフ化、書式変更処理					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
7	複数のデータシートを活用したデータ処理法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
8	高度な関数の利用によるデータ管理表の作成					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
9	表形式による高度なデータの可視化・分析					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
10	分析目的に適したデータの抽出・加工処理					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
11	クロス集計によるデータ分析処理					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
12	分析目的に適した高度なグラフ化処理					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
13	プログラミング (マクロ) によるデータ分析処理					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
14	公開データを活用したデータ加工・分析処理					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
15	まとめ、総合演習問題					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
<p>教本：</p> <p>講義初回のガイダンスで指示する。</p>					<p>参考文献：</p> <p>講義内で指示する。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>演習課題・レポート等 (100%) で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>授業に必ず出席する、疑問点は授業中に質問して解消することを心掛けてください。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	4 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	沖縄文化研究 (Okinawan Studies)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	安倍 幸								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>この授業の目的は、とすれば観光やエキゾチシズムにのみ目の回りがちな沖縄文化を当事者の視点から捉えてみることです。皆さんのほとんどが「遊びに行くところ」と考えているかもしれませんが、しかし、当地の生活実感から生活世界を考えるなら、本土とも微妙に異なる世界が出現します。多面から考えてみましょう。</p> <p>授業目標：</p> <p>ヒトが身体を通じて、どのように「世界」と関わっているのかを考える。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	沖縄文化の範囲					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
2	沖縄文化のステレオタイプと実際					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
3	沖縄文化のステレオタイプと実際 2					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
4	文化人類学からみた沖縄文化					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
5	沖縄の社会と文化					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
6	沖縄の社会と文化 2					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
7	始祖求心的文化					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
8	始祖求心的文化の現代版					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
9	民俗文化の創造					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
10	沖縄文化と「境界」					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
11	祖霊観と他界観					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
12	〈ニライカナイ〉の発想					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
13	沖縄と防衛問題					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
14	沖縄はパラダイスカ					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
15	まとめと復習					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
<p>教本： 使用しません</p>					<p>参考文献： 授業内で紹介する。たくさん読んでください。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（10%）、定期試験（70%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 私たちがいかに常識や良識にとらわれているか、心を真っ白にする努力をしてみましょう。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									



開 講 年 次	4 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	沖 縄 文 化 史 (Cultural History of Okinawa)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	安 倍 幸								
履 修 条 件	前 提 科 目	沖 縄 文 化 研 究							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 沖 縄 文 化 研 究 を 受 け て、後 期 で は そ の 範 囲 を 宮 古 地 域 に 限 定 し て 考 察 し ま す。防 衛 問 題 の 議 論 に よ く み ら れ る 「本 土 - 沖 縄」とい う 二 分 法 で は 見 え に く い 沖 縄 の 姿 を、宮 古 地 域 を 中 心 に す え る こ と で 違 う 見 方 が で き る の で は な い だ ろ う か と い う 視 点 か ら 授 業 を 進 め て い き ま す。									
授 業 目 標 : 沖 縄 文 化 へ の よ り 深 い 理 解									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	宮 古 文 化 と 沖 縄 文 化					事 前 : 沖 縄 の 島 々 を 確 認 事 後 : 授 業 資 料		講 義 90 分	
2	伊 良 部 島 の 文 化 バ リ エ ー シ ョ ン					事 前 : な し 事 後 : 授 業 資 料		講 義 90 分	
3	村 落 祭 祀					事 前 : な し 事 後 : 授 業 資 料		講 義 90 分	
4	シ ャ ー マ ニ ズ ム					事 前 : な し 事 後 : 授 業 資 料		講 義 90 分	
5	世 界 観 と 歴 史					事 前 : な し 事 後 : 授 業 資 料		講 義 90 分	
6	民 俗 の 小 宇 宙					事 前 : な し 事 後 : 授 業 資 料		講 義 90 分	
7	本 土 文 化 と 民 俗 文 化					事 前 : な し 事 後 : 授 業 資 料		講 義 90 分	
8	法 と 民 俗 文 化					事 前 : な し 事 後 : 授 業 資 料		講 義 90 分	
9	法 と 民 俗 文 化 2					事 前 : な し 事 後 : 授 業 資 料		講 義 90 分	
10	社 会 組 織 の 変 化 : 祭 祀					事 前 : な し 事 後 : 授 業 資 料		講 義 90 分	
11	社 会 組 織 の 変 化 : 家 族					事 前 : な し 事 後 : 授 業 資 料		講 義 90 分	
12	フ ィ ー ル ド 調 査					事 前 : な し 事 後 : 授 業 資 料		講 義 90 分	
13	フ ィ ー ル ド 調 査 2					事 前 : な し 事 後 : 授 業 資 料		講 義 90 分	
14	フ ィ ー ル ド 調 査 3					事 前 : な し 事 後 : 授 業 資 料		講 義 90 分	
15	ま と め と 復 習					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義 か レ ポ ー ト	
教 本 : 使 用 し ま せ ン					参 考 文 献 : 授 業 内 で 紹 介 す る。た く さ ん 読 ん で く だ さ い。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (20%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (10%)、定 期 試 験 (70%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 私 た ち が い か に 常 識 や 良 識 に と ら わ れ て い る か、心 を 真 っ 白 に す る 努 力 を し て み ま し ょ う。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	オペレーティングシステム (Operating System)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	井上 明也								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	ノートパソコンを用意すること							
授業概要： オペレーティングシステムの適用対象は、大型計算機やパソコンが主対象であったが、現在では、スマホ、家電製品、IoT 関連機器等、対象は拡大している。オペレーティングシステムを理解することは、プログラミング技術やシステム開発技術を学ぶ上での基礎知識として非常に重要である。講義、演習、グループディスカッションを通じてオペレーティングシステムの基礎技術を理解する。									
授業目標： オペレーティングシステムの主要な概念とその動作原理を理解することを目的とする。また、近年の利用環境の変化を考慮し、ネットワーク機能、セキュリティ機能、運用管理機能等も含めて、幅広く理解することを目指す。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	シラバスの説明、オペレーティングシステムの役割					事前：シラバスを読む 事後：学習内容を復習する		講義	
2	ユーザインターフェース					事前：教科書の指定箇所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
3	プログラミングインターフェース					事前：教科書の指定箇所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
4	オペレーティングシステムの構成					事前：教科書の指定箇所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
5	入出力の制御					事前：教科書の指定箇所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
6	ファイルの管理					事前：教科書の指定箇所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
7	プロセスとその管理					事前：教科書の指定箇所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
8	多重プロセス					事前：教科書の指定箇所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
9	メモリの管理					事前：教科書の指定箇所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
10	仮想メモリ					事前：教科書の指定箇所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
11	仮想化					事前：教科書の指定箇所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
12	ネットワークの制御					事前：教科書の指定箇所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
13	セキュリティと信頼性					事前：教科書の指定箇所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
14	システムの運用管理					事前：教科書の指定箇所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
15	性能、標準化					事前：教科書の指定箇所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
教本： IT Text オペレーティングシステム 改定2版、野口、光来、品川、オーム社、¥3,080					参考文献： 講義内で指示する				
成績評価の方法、評価基準： 小テスト・レポート等（100%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 授業に必ず出席する、疑問点は授業中に質問して解消することを心掛けてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	音 楽 で 遊 ぶ (音 楽 表 現) (Play with music)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	鹿 戸 一 範								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>子どもの音楽活動を支える基礎的な技能としてピアノの演奏技術と実践力を養う。音楽の基礎的な知識（楽典）やソルフェージュ、保育現場での音楽表現活動の指導で求められる「弾き歌い」のためのピアノ伴奏法についても学ぶ。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>領域「表現」の音楽的表現に関わる内容を持ち、保育内容としての音楽表現活動を理解し実践する力を養う。この科目は、幼児期の子どもの発達について、多面的かつ総合的な理解力を有する人材を養成する科目である。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション〔授業内容、進め方について〕					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
2	ハ長調の和音・分散和音の伴奏形① 教本 No.1～8					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
3	分散和音の伴奏形②・③ 教本 No.9～16 弾き歌い導入					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
4	分散和音の伴奏形④ 4分音符と8分音符 教本 No.17～24 生活のうた弾き歌い①					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
5	ハ長調の主要三和音 教本 No.25～26 生活のうた弾き歌い②					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
6	へ長調の主要三和音 教本 No.27～32 春のうた弾き歌い①					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
7	ト長調の主要三和音 教本 No.33～38 春のうた弾き歌い②					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
8	いろいろな伴奏形 教本 No.39～42 夏のうた弾き歌い①					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
9	高い音の練習 教本 No.43～46 夏のうた弾き歌い②					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
10	3/8拍子と6/8拍子 教本 No.47～48 秋のうた弾き歌い①					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
11	付点4分音符を用いたリズム 教本 No.49～54 秋のうたの弾き歌い②					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
12	ハ長調の音階 教本 No.55～58 冬のうた弾き歌い①					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
13	へ長調の音階 教本 No.59～61 冬のうた弾き歌い②					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
14	ト長調の音階 教本 No.62～67 行事のうた弾き歌い					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
15	これまでの授業のまとめと発表					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
教本：					参考文献：				
『教職課程のための大学ピアノ教本』大学音楽教育研究グループ、教育芸術社					なし				
『いちばんカンタン！保育のうたピアノ伴奏』安藤 真裕子 他、ナツメ社									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
<p>授業内容への参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。</p>									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
<p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	音楽表現 (Musical expression)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	鹿戸 一範								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>子どもの音楽活動を支える基礎的な技能としてピアノの演奏技術と実践力を養う。音楽の基礎的な知識（楽典）やソルフェージュ、保育現場での音楽表現活動の指導で求められる「弾き歌い」のためのピアノ伴奏法についても学ぶ。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>領域「表現」の音楽的表現に関わる内容を持ち、保育内容としての音楽表現活動を理解し実践する力を養う。この科目は、幼児期の子どもの発達について、多面的かつ総合的な理解力を有する人材を養成する科目である。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション〔授業内容、進め方について〕					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
2	ハ長調の和音・分散和音の伴奏形① 教本 No.1～8					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
3	分散和音の伴奏形②・③ 教本 No.9～16 弾き歌い導入					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
4	分散和音の伴奏形④ 4分音符と8分音符 教本 No.17～24 生活のうた弾き歌い①					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
5	ハ長調の主要三和音 教本 No.25～26 生活のうた弾き歌い②					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
6	へ長調の主要三和音 教本 No.27～32 春のうた弾き歌い①					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
7	ト長調の主要三和音 教本 No.33～38 春のうた弾き歌い②					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
8	いろいろな伴奏形 教本 No.39～42 夏のうた弾き歌い①					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
9	高い音の練習 教本 No.43～46 夏のうた弾き歌い②					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
10	3/8拍子と6/8拍子 教本 No.47～48 秋のうた弾き歌い①					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
11	付点4分音符を用いたリズム 教本 No.49～54 秋のうたの弾き歌い②					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
12	ハ長調の音階 教本 No.55～58 冬のうた弾き歌い①					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
13	へ長調の音階 教本 No.59～61 冬のうた弾き歌い②					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
14	ト長調の音階 教本 No.62～67 行事のうた弾き歌い					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
15	これまでの授業のまとめと発表					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
<p>教本：</p> <p>『教職課程のための大学ピアノ教本』大学音楽教育研究グループ、教育芸術社 『いちばんカンタン！ 保育のうたピアノ伴奏』安藤 真裕子 他、ナツメ社</p>					<p>参考文献：</p> <p>なし</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>授業内容への参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	3年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	音声学 (Phonetics)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	岡部 佑人								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>英語の音声についてテキストを用いると同時に、それに伴うCDを聞きながら授業を進める。間違いやすい、あるいは難しい音声について実践練習をし、英語音の連結、脱落、弱化などの現象を理解するだけでなく、実際に練習を通して体得する。</p>									
<p>授業目標及びテーマ：</p> <p>中学校や高等学校で正しく英語の音声指導ができる力をつけることが目標である。英語の音素、アクセント、リズム、イントネーションなどの特徴を確認することがテーマであり、日本語との比較の視点を取り入れて授業を行う。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	イントロダクションー本科目を学ぶ意義と授業全体の構成について説明を行う					事前：シラバスを確認する 事後：テキスト記入		演習 90分	
2	音の発声ー母音と子音の種類について演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分	
3	英語のアクセントー音節と強勢、子音結合、句の強勢について演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分	
4	英語のリズムについて演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分	
5	紛らわしい母音について演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分	
6	紛らわしい子音について演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分	
7	つながって聞こえる音（連結）について演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分	
8	変化して聞こえる音（同化）について演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分	
9	聞こえなくなる音（1）単語間の脱落について演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分	
10	聞こえなくなる音（2）単語内の脱落・短縮形について演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分	
11	英語のイントネーションのパターンについて演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分	
12	英語のイントネーションと文中のポーズについて演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分	
13	World Englishes について演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分	
14	英語の数量表現の聞き取りについて演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分	
15	まとめと復習、音声実技試験を行う。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分	
<p>教本：</p> <p>『新しいご・エイゴ・英語学』 稲木昭子 ほか 松柏社</p>					<p>参考文献：</p> <p>授業内で紹介する。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>期末考査（100%）で評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>英語の音声をたくさん聴くようにしてください。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									